



## PRIMOJET-XG

### プロファイルエディタ操作手順書



はじめに ...P6

1章 事前準備 ...P9

2章 プロファイルの作成 ...P23

3章 プロファイルの適用 ...P89

4章 プロファイルの修正 ...P101

5章 その他 ...P135

作成日時	2013/3/8
改訂日時	2015/4/1
対象バージョン	Ver. 5.1.0.4 Ver. 5.1.2.5 Ver. 5.3.1.97 Ver. 5.3.1.107 Ver. 5.4.2.85

---

## 掲載画面

- 本書の画面はお客様の画面と多少異なる場合があります。
- 本書に掲載する Windows の画面は Windows7 を使用しています。

## ご注意

- 本書は、お客様が Windows® の基本操作に習熟していることを前提にしています。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容にご不明な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがございましたら弊社までご連絡下さい。
- EPSON プリンタにご使用になるインクカートリッジは純正のものを、用紙は弊社品質保証紙をお使い下さい。これら以外のものをご使用になった場合の悪影響などに関して一切の責任は負いかねますのでご了承下さい。

---

# 本手順書について

プロファイルエディタとは PRIMOJET に同梱されているカラーマッチングを目的としたプロファイル作成用ソフトウェアです。

PRIMOJET には弊社品質保証紙・推奨紙用の標準プロファイルがバンドルされていますが、新たに 8bit 用・1bit 用のデバイスリンクプロファイルを作成することが可能です。

使用できるチャートや測色器に制限があります。また、品質保証紙・推奨紙以外を使用した場合、用紙によっては精度が出ないことがあります。

## 表示アイコンについて



守って頂きたい重要事項について説明しています。製品の故障や誤操作を防ぎ、品質を維持するために必ずお読み下さい。



正しく安全にお使い頂くための注意事項について説明しています。必ずお読み下さい。



操作の上で参考になるポイントについて説明しています。

memo

操作の上で便利な情報について説明しています。



操作の上で参照すべきページを表しています。

## はじめに

はじめに .....P6

## 1 章 / 事前準備

1-1 ターゲット印刷物（出力物）を用意する ...P10

1-2 測色器を準備する ...P12

1-3 プリンタのコンディションを確認する ...P14

## 2 章 / プロファイルの作成

2-1 連続階調プルーフ（8bit）用プロファイルを作成する ...P24

2-2 ドットプルーフ（1bit）用プロファイルを作成する ...P62

## 3 章 / プロファイルの適用

3-1 標準設定を複製し、新しく作成したプロファイルを適用する ...P90

## 4 章 / プロファイルの修正

4-1 カーブ調整をする ...P102

4-2 部分調整をする ...P120

## 5 章 / その他

5-1 各測色器の動作について .....P136



## はじめに

### < PRIMOJET-XG ソフトウェアインストール階層の違い >

32bit ワークステーション：「C:/Program Files/GMG/ColorProof05」

64bit ワークステーション：「C:/Program Files(x86)/GMG/ColorProof05」

※本書の階層表記は 32bit です。

### < プロファイルエディタで出来ること >

プロファイルエディタで連続階調プルーフ (8bit) 用プロファイルと網点プルーフ (1bit) 用プロファイルを作成することが出来ます。作成したプロファイルは PRIMOJET-XG でのみ使用可能な専用の拡張子を持つデバイスリンクプロファイルです。

### < プロファイル作成の流れ >

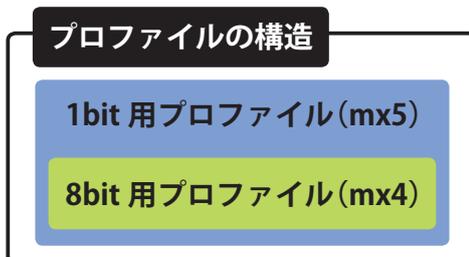
以下の手順でプロファイルを作成します。

- ① ターゲット印刷物 (出力物) の測色
- ② 8bit 用プロファイルの作成 → 微調整
- ③ 8bit 用プロファイルを 1bit 用プロファイルに変換
- ④ 1bit プロファイルの作成 → 微調整
- ⑤ 出力確認

※始めから 1bit 用プロファイルを作成することは出来ません。必ず 8bit 用プロファイルを作成してから 1bit 用プロファイルに変換します。

### < プロファイルの構造 >

1bit 用プロファイルは 8bit 用プロファイルを内包しています。8bit 用プロファイルを作成してから 1bit 用プロファイルに変換するためです。従って、1bit 用プロファイルは 8bit データにも適用することが出来ます。



◆ 8bit 用プロファイル拡張子・・・mx4

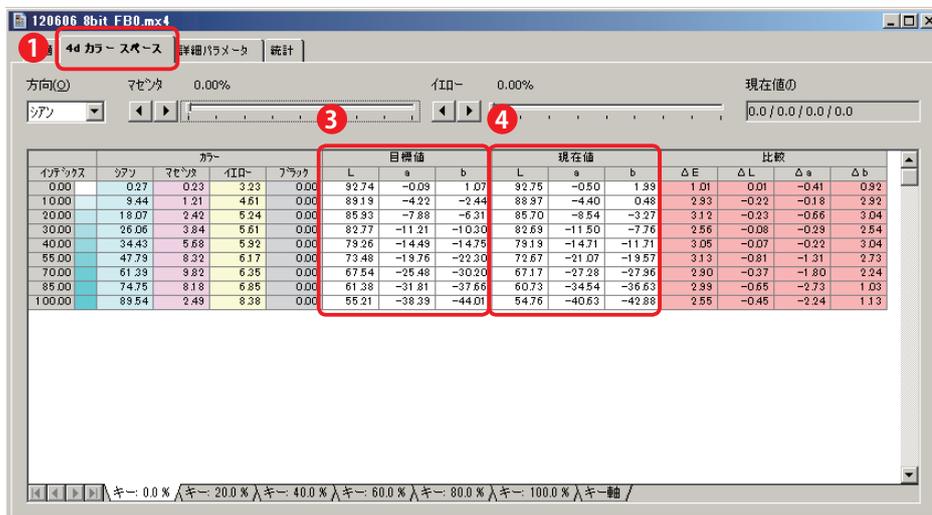
◆ 1bit 用プロファイル拡張子・・・mx5

### < 色評価する光源 > **重要**

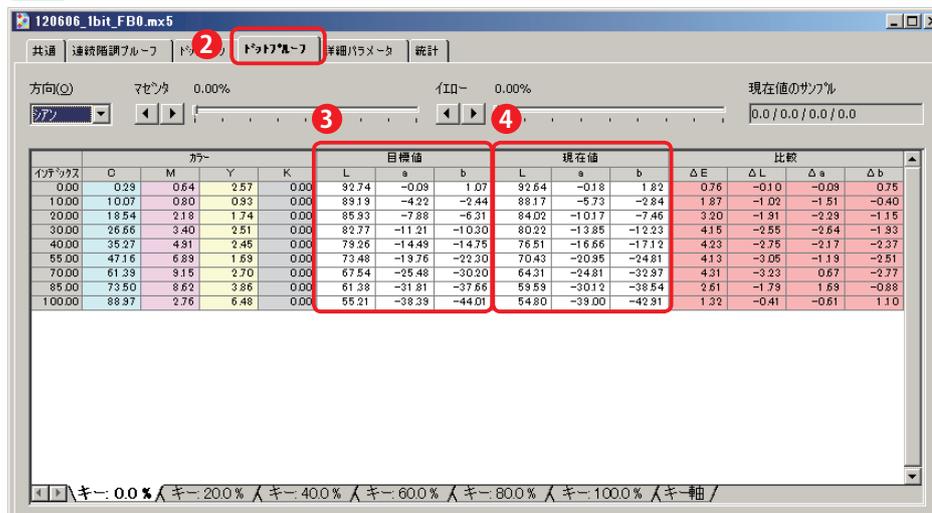
プロファイルの作成および評価は必ず適正な環境光下 (色評価用光源)で行って下さい。

## < 8bit 用プロファイルと 1bit 用プロファイルについて >

### mx4 8bit 用プロファイル



### mx5 1bit 用プロファイル



- ① 「4d カラースペース」：8bit プロファイルを表示しています。
  - ② 「ドットプルーフ」：1bit プロファイルを表示しています。
  - ③ 「目標値」：ターゲット印刷物（出力物）を測色した値です。不変の値です。
  - ④ 「現在値」：プリンタ出力物を測色した値です。可変の値です。
- ※ mx5「連続階調プルーフ」タブは変換前の mx4「4d カラースペース」タブと同じです。
- ※ 「目標値」はターゲット印刷物（出力物）を測色した値なので絶対値であり不変です。「現在値」は複数回出力する度、目標値に対して再計算をする為、値が変わっていきます。



# 1 章

## 事前準備

1-1 ターゲット印刷物（出力物）を用意する ...P10

1-2 測色器を用意する ...P12

1-3 プリンタのコンディションを確認する ...P14



## ターゲット印刷物（出力物）を用意する



カラーマッチングの目標としたい印刷物（出力物）をご用意下さい。  
印刷物（出力物）は次ページのチャートを含めて印刷して下さい。

**1** ターゲットとなるチャートを用意します。折り目はつけないで下さい。チャート種類については次ページをご参照下さい。

**2** 印刷物（出力物）が用意出来たら、ガイド線に沿ってチャート部分をカットしておきます。ガイド線が無いチャートはパッチの外側でカットして下さい。

※はさみは使わず、カッターでカットして下さい。

事前準備 **1章**

プロファイルの作成 **2章**

プロファイルの適用 **3章**

プロファイルの修正 **4章**

その他 **5章**

## チャートデータについて

## PRIMOJET-XG で使用可能なチャート

「ECI2002 Random」 TIFF もしくは PDF

※測色器ごとに用意されており、TIFF・PDF いずれをお使い頂いても構いません。

※チャート以外に必要な評価画像を含めて印刷して下さい。

## チャートデータ格納場所

32bit ワークステーション：C:\Program Files\GMG\ColorProof05\Testcharts

64bit ワークステーション：C:\Program Files(x86)\GMG\ColorProof05\Testcharts

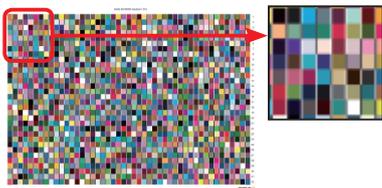
## 測色テンプレート

P29 の 7 番で選択する項目であり、ターゲット印刷物（出力物）をご用意頂く段階ではまだ関係ありません。

## 測色器ごとのチャート種類

## ■ X-Rite i1 iO / i1iO2 (アイワンアイオー / アイワンアイオー 2) をご使用の場合

- GMG\_ECI2002\_random\_i1iO.pdf
- GMG\_ECI2002\_random\_i1iO.tif

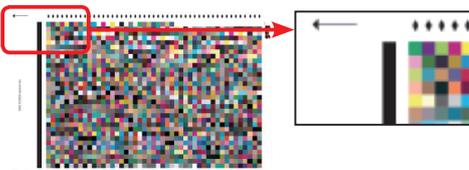


## ☑ i1iO 用測色テンプレート

GMG\_ECI\_2002\_random\_i1iO.tpl

## ■ X-Rite i1 iSis (アイワンアイシス) をご使用の場合

- GMG\_ECI2002\_random\_iSis.pdf
- GMG\_ECI2002\_random\_iSis.tif



## ☑ i1iSis 用測色テンプレート

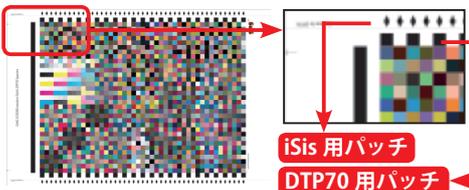
GMG\_ECI\_2002\_random\_iSis.tpl

## ■ X-Rite DTP70 をご使用の場合

- GMG\_ECI2002\_random\_iSisXL\_DTP70\_Spectro.pdf
- GMG\_ECI2002\_random\_iSisXL\_DTP70\_Spectro.tif

※ DTP70 と iSis 共通でお使い頂けます。DTP70 で使用する場合は正方形の白黒パッチの外側で、iSis で使用する場合は菱形の白黒パッチの外側でカットして下さい。

※ 64bitOS の場合、DTP70 は使用出来ません。



## ☑ DTP70 用測色テンプレート

GMG\_ECI\_2002\_random\_DTP70.tpl

※ DTP70 は 64bit の WindowsOS 非対応

必ず使用する測色器のパッチ外側で  
カットして下さい。

1 章 事前準備

2 章 プロファイル  
の作成

3 章 プロファイル  
の適用

4 章 プロファイル  
の修正

5 章 その他

## 1章 2 測色器を準備する

**HOW TO** 以下の測色器をご使用頂けます。PRIMOJET-XG がインストールされたワークステーションと接続して下さい。

PRIMOJET-XG でプロファイルを作成する場合、以下の測色器をご使用頂けます。

### ■ X-Rite i1 iO / i1iO2



### ■ X-Rite i1 iSis



### ■ X-Rite DTP70



#### ! 注意

DTP70 は 64bit の WindowsOS では非対応です。

事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

注意



i1i0・i1i02をご使用の場合、作業前に測色対象物の紙厚に合わせてアームの高さ調整を行って下さい。正しく高さ調整を行っていないと測色ヘッドと測色物が衝突して双方を傷めてしまう可能性があります。

※ターゲット印刷物（出力物）の厚みが品質保証紙・推奨紙（0.1mm～0.2mm）と同等の場合、高さ調整は最初に行うだけで変える必要はありませんが、ターゲット印刷物（出力物）に厚みがある場合は注意が必要です。

### 高さ調整方法

1) 高さ調節つまみを時計回り方向に回します。



2) 白色パッチがついたプレートごと測色器が上に上がりますので、隙間に測色物を挿し込みます。次に高さ調節つまみを反時計回り方向に回し下げて下さい。測色ヘッドが測色物に触れない状態で極力近づけて下さい。

※強い抵抗を感じるころまで回すと、測色ヘッドが測色物とこすれてしまい、測色ヘッドも測色物も傷めかねません。逆に離れすぎると隙間から光が入ってしまう可能性があります。



プレートごと測色器が上に上がる



測色物を隙間に挿入し、つまみを反時計方向に回してプレートを下げる。

### LED インジケータについて

- ◆ランプがついていない・・・帯電マットはオフ状態です。
- ◆緑色ランプが点灯・・・帯電マットはオン状態です。
- ◆赤色ランプが点滅・・・グライダーリングの交換時期です。



※グライダーリングの交換については、i1i0/i1i02 付属の説明書をお読み下さい。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

## 1章 3 プリンタのコンディションを確認する

**HOW TO**  プロファイルを作成する前に、プリンタのコンディションが良好か確認して下さい。

**CHECK 1** インクカートリッジを振った後、再取り付け (P15 参照)

**CHECK 2** パワークリーニングの実施 (P16 参照)

**CHECK 3** プリントヘッドの目詰まり確認 (P17 参照)

**CHECK 4** キャリブレーションの更新 (P18 参照)

事前準備 **1章**

プロファイルの作成 **2章**

プロファイルの適用 **3章**

プロファイルの修正 **4章**

その他 **5章**

**CHECK 1** インクカートリッジを振った後、再取り付け

顔料成分の沈殿を防ぎ、カートリッジの中で均一なインク状態にしておくことが重要です。

まず、プリンタの説明書に従ってインクカートリッジを取り外します。続いてインクカートリッジを5秒間に15回水平方向に両端5cm程度の振り幅で振った後、再度インクカートリッジをプリンタに取り付けます。

**重要**

- ・インクカートリッジを振る際、インク供給穴に用紙の端切れなどをあて、インクがこぼれないよう注意して下さい。
- ・インクカートリッジを振る際、緑色のセンサーチップに手が触れないようご注意ください。認識不良を引き起こす可能性があります。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

---

**CHECK 2** パワークリーニングの実施

---

インクチューブ内に攪拌不足のインクが残存している可能性がありますので、パワークリーニングを行って下さい。お使いのプリンタの説明書に従って実施して下さい。

事前準備 **1**章

プロファイルの作成 **2**章

プロファイルの適用 **3**章

プロファイルの修正 **4**章

その他 **5**章

**CHECK 3** プリントヘッドの目詰まり確認 (=ノズルチェック)

お使いのプリンタの取り扱い説明書に従ってプリントヘッドが目詰まりしていないか確認して下さい。

**重要**

プリントヘッドの目詰まり確認は出力前に**必ず**行って下さい。

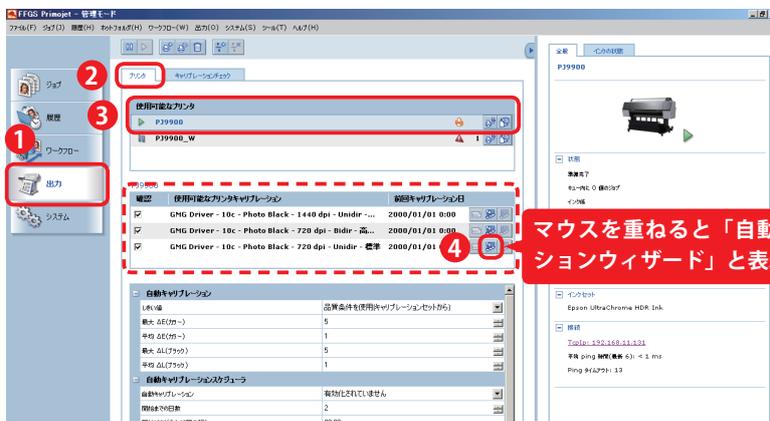
**1** 章 事前準備**2** 章 プロファイルの作成**3** 章 プロファイルの適用**4** 章 プロファイルの修正**5** 章 その他

**CHECK 4** キャリブレーションの更新

※プロファイル作成前に必ずキャリブレーションを更新して下さい。

※キャリブレーションには時間を要しますので、余裕を持って始めて下さい。

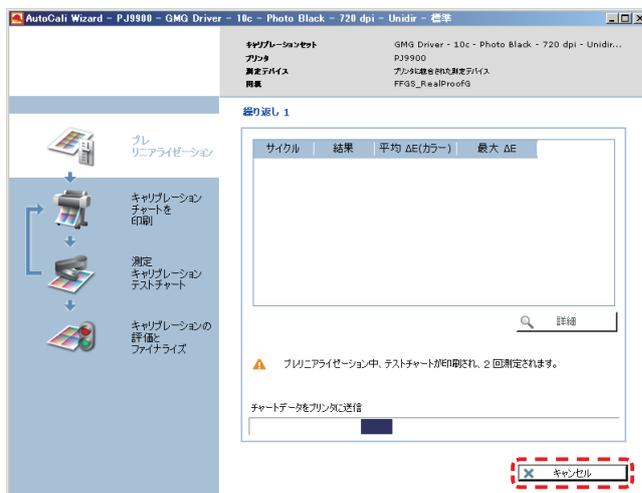
- 1** 「出力」ビュー (①) の「プリンタ」タブ (②) をクリックします。続いて「使用可能なプリンタ」に表示されたご使用のプリンタ (③) をクリックし、選択状態にします。「使用可能なキャリブレーション」にキャリブレーションが表示されますので、更新したいキャリブレーションの自動キャリブレーションウィザードアイコン (④) をクリックします。



マウスを重ねると「自動キャリブレーションウィザード」と表示される

**プレリニアライゼーション**

- 2** プレリニアライゼーションからキャリブレーションまで自動的に行うキャリブレーションウィザードが起動します (同時にすぐ出力も始まります)。  
※「キャンセル」をクリックすると中止します。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

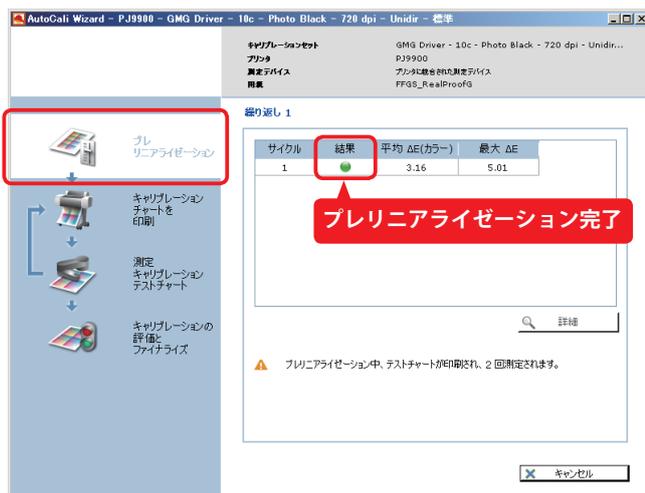
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

3

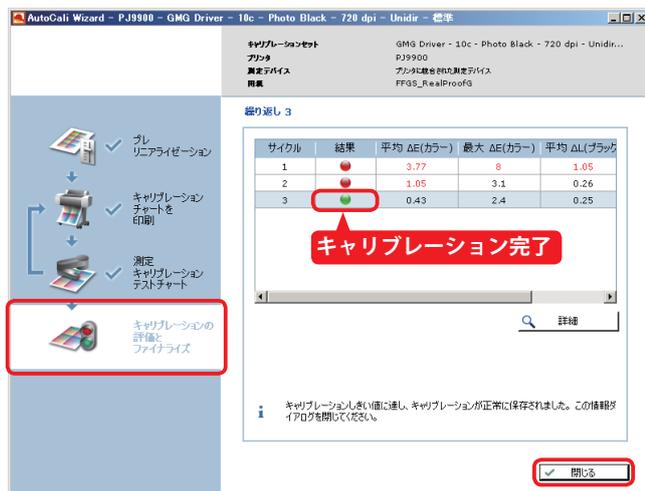
プレリニアライゼーションが正常に終了すると、「プレリニアライゼーション」ステージの「結果」欄に緑色の丸印が表示されます。緑色の丸印の場合、ウィザードが自動的に次のステップであるキャリブレーションへ進みます。



### キャリブレーション

4

キャリブレーションが正常に収束すると、「キャリブレーションの評価とファイナライズ」ステージの「結果」欄に緑色の丸印が表示されますので、「閉じる」をクリックします。



➡ キャリブレーションに失敗する場合、「PRIMOJET-XG 操作手順書」のキャリブレーションに関する項目をご参照下さい。

1章 事前準備

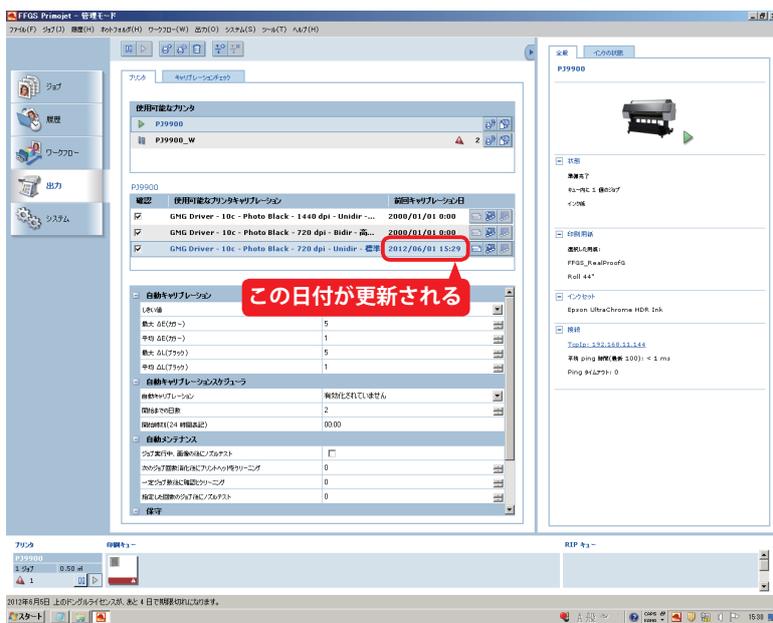
2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

- 5** 以下のウィンドウに戻りますので、「前回キャリブレーション日」がキャリブレーションを更新した日付になっていることを確認します。これでキャリブレーション作業は完了です。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

## 参考



## FFGS 品質保証紙・推奨紙の標準設定しきい値

FFGS リアルプルーフ <b>G W R</b>	
平均ΔE (カラー) : 0.70	平均ΔL (ブラック) : 0.70
最大ΔE (カラー) : 4.00	最大ΔL (ブラック) : 3.00

FFGS リアルプルーフ <b>MK</b>	
平均ΔE (カラー) : 1.00	平均ΔL (ブラック) : 1.00
最大ΔE (カラー) : 6.00	最大ΔL (ブラック) : 3.00

FFGS リアルプルーフ <b>O P</b>	
平均ΔE (カラー) : 0.70	平均ΔL (ブラック) : 0.70
最大ΔE (カラー) : 6.00	最大ΔL (ブラック) : 4.00

※品質保証紙はリアルプルーフ G、それ以外は推奨紙です。

## 重要



品質保証紙・推奨紙以外の適正值はご用意しておりません。上記以外の用紙では正常な品質を得られない場合がありますのでご使用をお控え下さい。

1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

---

**MEMO**

# 2 章

## プロフィールの作成

2-1 連続階調プルーフ（8bit）用プロフィールを作成する ...P24

2-2 ドットプルーフ（1bit）用プロフィールを作成する ...P62

2章  
1連続階調プルーフ（8bit）用プロファイル  
を作成する

HOW TO



ターゲット印刷物（出力物）を手元に用意し、以下の手順に従って操作して下さい。

## 作業の流れ

※ FB = フィードバックの略（精度アップの為の計算の意）

※ DLP = デバイスリンクプロファイルの略

STEP 1

新規プロファイル（mx4）を作成（P25 参照）

STEP 2

ターゲットを測色 → 測色値の状態を確認（P31 参照）

STEP 3

ターゲット測色値から **FB0** 回の DLP を作成（P39 参照）

STEP 4

**STEP 3** の **FB0** 回の DLP を適用してチャート出力（P41 参照）

STEP 5

**STEP 4** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **1 回目の FB**（P45 参照）

STEP 6

**STEP 5** の **FB1** 回の DLP を適用してチャート出力（P49 参照）

STEP 7

**STEP 6** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **2 回目の FB**（P52 参照）

STEP 8

**STEP 7** の **FB2** 回の DLP を適用してチャート出力（P56 参照）

STEP 9

**STEP 8** のチャートを測色 → ターゲットと比較（P59 参照）✓ 目安となる目標精度は  $\Delta E$  が「0.7」以下（品質保証紙・推奨紙の場合）

STEP 10

ターゲット印刷物（出力物）と目視の比較 → 精度が良ければ終了（P61 参照）

✓ 必要であればプロファイルを調整

注意



品質保証紙・推奨紙をお使い下さい。それら以外の用紙では収束精度が悪い場合があります。

事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

4章

その他

5章

**STEP 1** 新規プロファイル (mx4) を作成**目録** 本手順書におけるプロファイル作成条件

本手順書の説明は以下の環境を想定しています。

+++++

◆プリンター：PRIMOJET9900 (EPSON PX-H10000)

◆出力設定：720dpi / 単方向印刷

◆測色器：X-Rite i1iO2

◆用紙：リアルブルーフ G (品質保証紙)

## 作成手順概要 (8bit 運用 / 1bit 運用 / 8bit・1bit 併用)

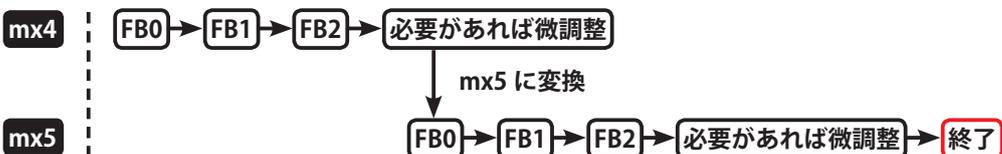
## 8bit 運用する場合



## 1bit 運用する場合



## 8bit/1bit 併用する場合



## 目安となる目標精度

品質保証紙・推奨紙の場合、mx4・mx5 共に「すべての値の平均」が「0.7」以下です。

- ・「0.7」以下になれば FB1 で作業を終えても構いません。
- ・ターゲット印刷物 (出力物) によって、品質保証紙・推奨紙であっても「0.7」以下にならないことがあります。

1章 事前準備

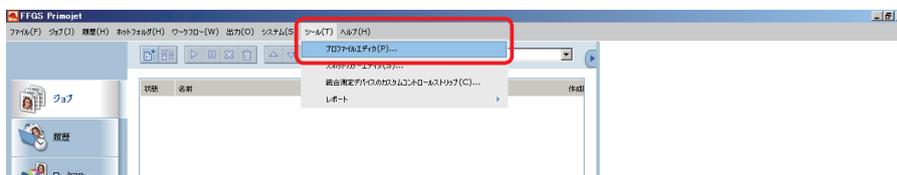
2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

1 PRIMOJET-XGの「ツール」メニューから「プロファイルエディタ」をクリックします。



もしくは、Windowsの「スタート」メニューから「FFGS PRIMOJET v5.x.x.x」下の「ProfileEditor」をクリックします。



2 プロファイルエディタ (= FFGS PRIMOJET G flexProof Profile Editor) が起動したら、「オプション」メニューから「共通設定」をクリックします。



3 「共通設定」というウィンドウが表示されたら、点線内を以下のように設定し「OK」をクリックします。本書は i1iO2 を想定していますが、「測定デバイス」は実際に使用される測色器を選択して下さい。



※ i1iO2 をお使いの場合も「Eye-One iO」を選択

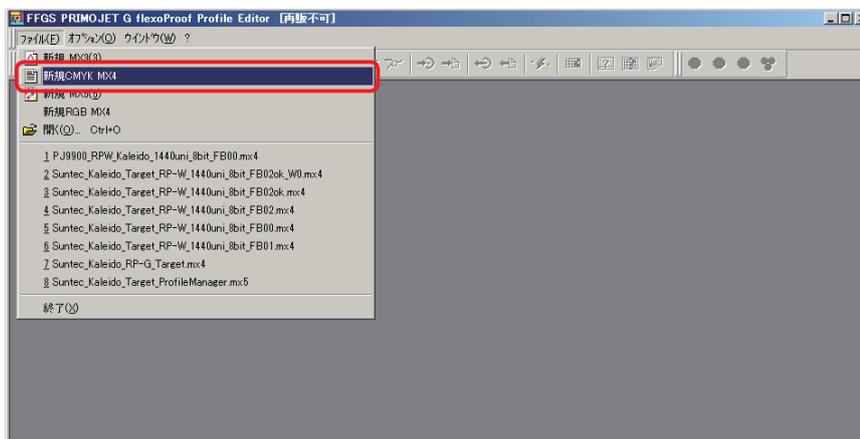
- ◆最大許容ΔE・・・「0」
- ◆測定デバイス・・・お使いの測色器
- ◆デフォルトチャート・・・「ECI2002 (Random)」
- ◆デフォルトチャートの番号・・・「2」



「最大許容ΔE」とはプロファイルの収束精度(ΔE)を決定する項目です。仮にこの設定を「1」とした場合、ΔE1以下は収束しません。実力精度を出すには「0」としておく必要があります。

4

「ファイル」メニューから「新規 CMYK MX4」をクリックします。



5

「新規プロファイル [MX4]」というウィンドウが表示されたら、必要項目を設定し(1)、「OK (2)」をクリックします。



#### ① の設定

- ◆ プリンタ・・・お使いのプリンタ
- ◆ ガモット・・・お使いの測色器に適したガモットファイル
- ◆ 測定デバイス・・・お使いの測色器
- ◆ 測定チャート・・・「ECI2002 (Random)」

※プリンタ名がプルダウンメニューに表示されない場合、「すべてのプリンタの表示」をクリックすると全対応プリンタが表示されます。

「プリンタ」と「ガモット」の選択項目については次ページをご参照下さい。

1章

事前準備

2章

プロファイルの作成

3章

プロファイルの適用

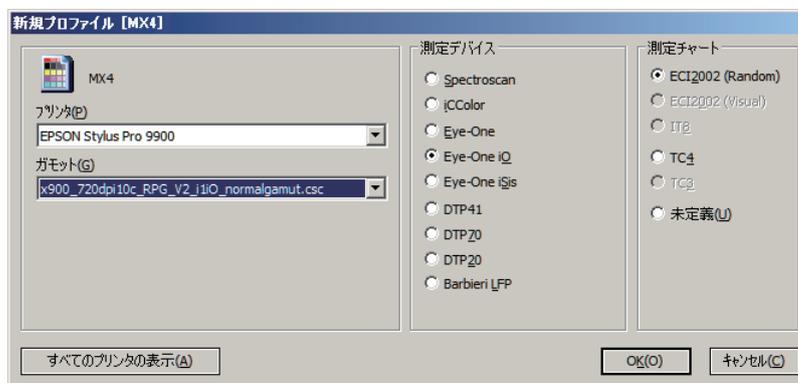
4章

プロファイルの修正

5章

その他

## 参考



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

## ■ 「プリンタ」について

- PX-H10000 の場合 → 「EPSON Stylus Pro 9900」を選択
- PX-H8000 の場合 → 「EPSON Stylus Pro 7900」を選択

## ■ 「ガモット」について

- X-Rite i1 iO/i1iO2 の場合  
「x900\_720dpi10c\_RPG\_V2\_i1iO\_normalgamut.csc」を選択  
※同階層に「x900\_720dpi10c\_RPG\_V3\_i1iO\_No\_normalgamut.csc」があればそちらを選択。
- X-Rite i1 iSis の場合  
「x900\_720dpi10c\_RPG\_V2\_iSis\_normalgamut.csc」を選択  
※同階層に「x900\_720dpi10c\_RPG\_V3\_iSis\_UV\_normalgamut.csc」があればそちらを選択。
- X-Rite DTP70 の場合  
「x900\_720dpi10c\_RPG\_V2\_DTP70-UVcut\_normalgamut.csc」を選択  
※同階層に「x900\_720dpi10c\_RPG\_V3\_DTP70\_UV\_normalgamut.csc」があればそちらを選択。

※ PX-H10000 (= PJ9900) も PX-H8000 (= PJ7900) も「x900～」から始まるファイルを選択します。

## ■ 「ガモット」ファイルの読み方

例) x900\_720dpi10c\_RPG\_V2\_i1iO\_normalgamut.csc

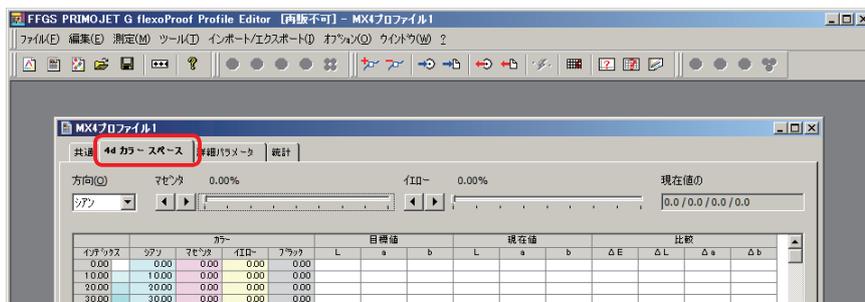
① ② ③ ④

- ① プリンタ名
- ② 解像度 / インク数
- ③ 出力用紙名
- ④ お使いの測色器

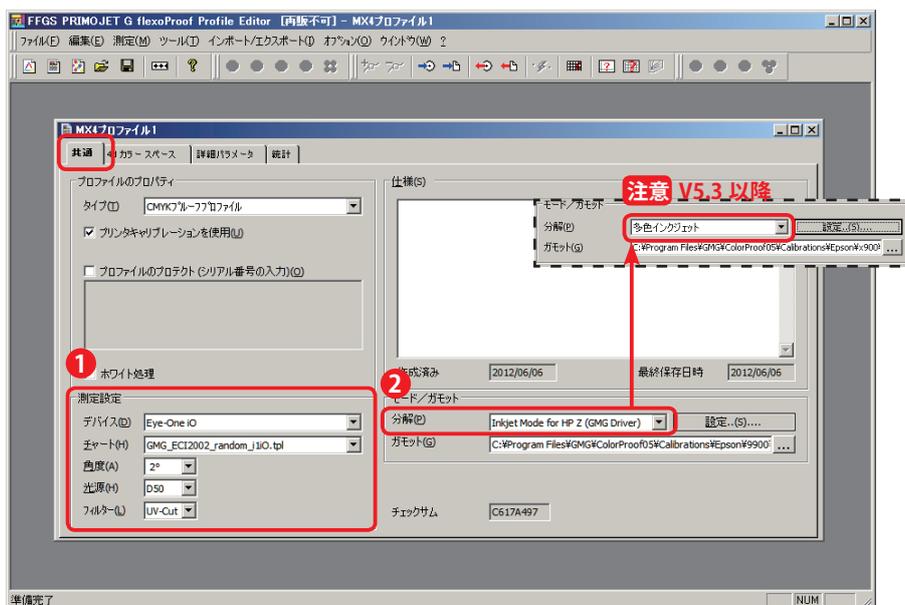
※お使いの用紙によっては③の出力用紙名が違うことがあります。

※本書は i1iO2 でご説明しています。iSis や DTP70 をお使いの場合、本書第 5 章「各測色器の動作について」も合わせてご参照下さい。

- 6 「MX4 プロファイル 1」というウィンドウが表示されます。最初は「4d カラースペース」というタブが開いています。



- 7 「共通」タブをクリックし、①と②の設定をします。



### ① 測定設定

- ・「デバイス」 → お使いの測色器
- ・「チャート」 → お使いの測色器に合ったテンプレート (P11 参照)
- ・「角度」 → 「2°」
- ・「光源」 → 「D50」
- ・「フィルター」 → お使いの測色器に合ったフィルター  
**[DTP70・iSis] → 「UV-Cut」推奨**  
**[i1i0/i102] → Eye-Oneの種類によって「なし」か「UV-Cut」のいずれか**



「プルーフ」としての精度を求める場合、光源は「D50」で作成することが重要です。

### ② モード/ガモット **注意**

- ・「分解」
- V5.2 以前・・・「Inkjet Mode for HP Z(GMG Driver)」を選択  
 V5.3 以降・・・「多色インクジェット」を選択

1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

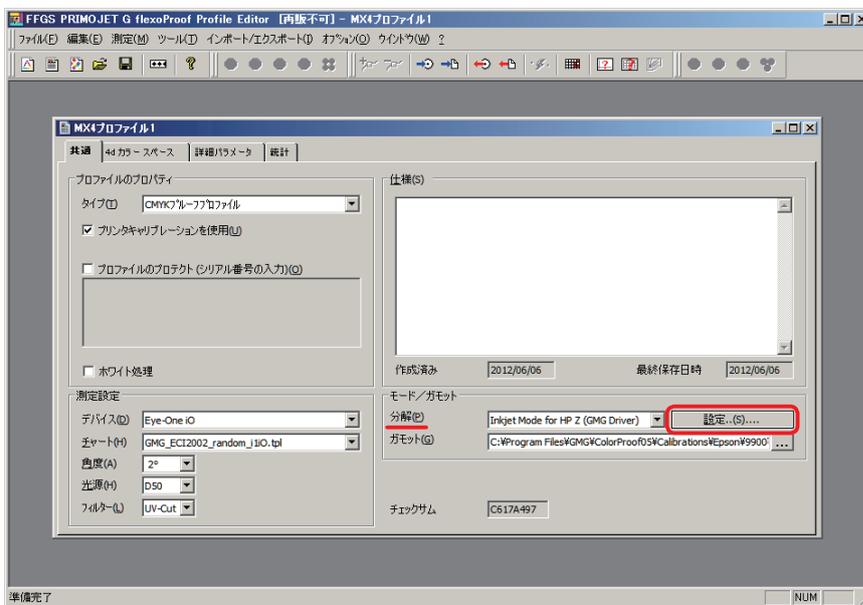
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

8

続いて「分解」の「設定」をクリックします。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

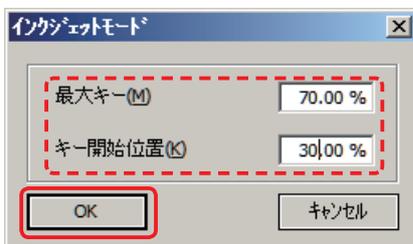
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

9

「インクジェットモード」というウィンドウが表示されたら、「最大キー」に「70」、「キー開始位置」に「30」と入力し、「OK」をクリックします。

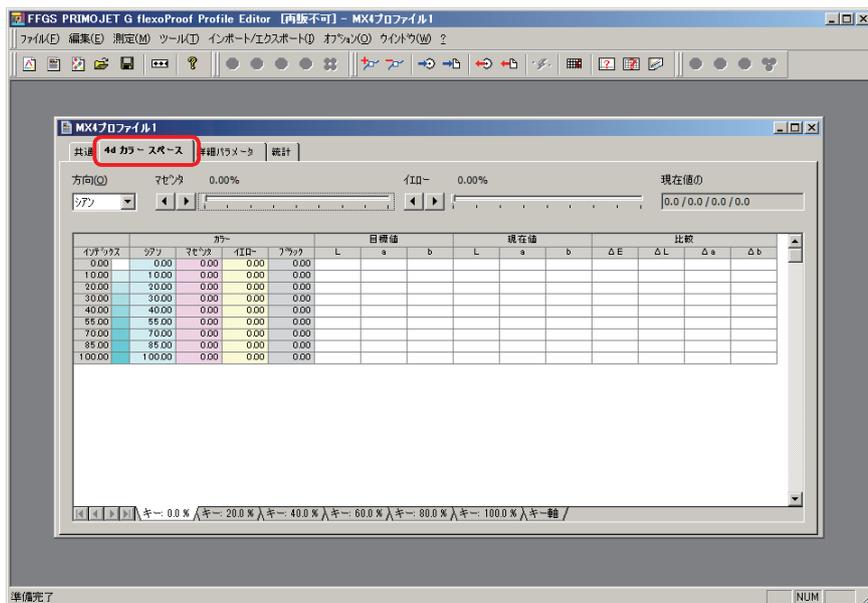


参考

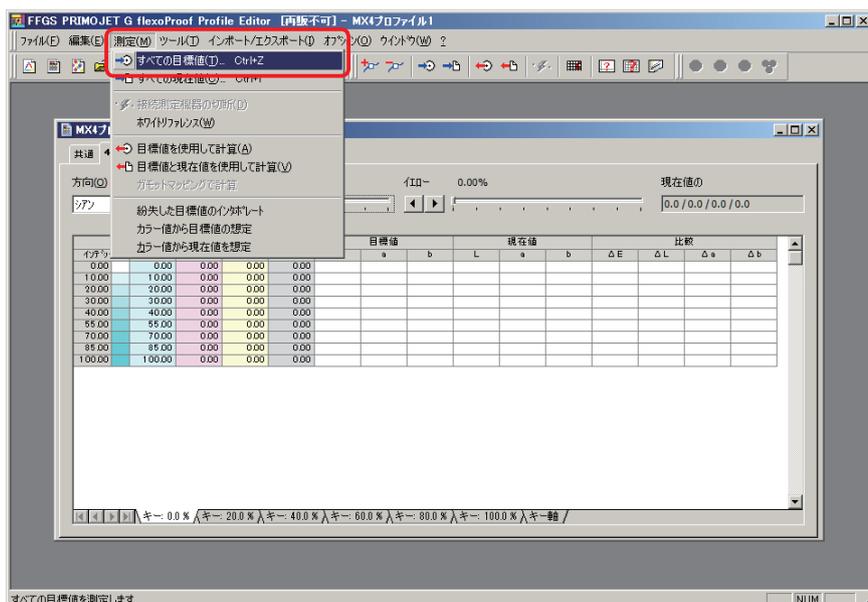
「最大キー」と「キー開始位置」はモアレが目立ちやすいK版（キー）のインク使用率を決定する項目です。上記設定の場合、71%～100%及び1%～29%まではKインクを使用しません。キー変更することでモアレ軽減に効果があります。

**STEP 2** ターゲットを測色 → 測色値の状態を確認

10 「4d カラースペース」タブをクリックします。



11 ターゲット印刷物（出力物）からカットしたチャートを測色器にセットし、「測定」メニューから「すべての目標値」をクリックします。



➡ 本書は i1iO2 でご説明しています。iSis や DTP70 をお使いの場合、チャートを読み込む際の測色器の動作に若干違いがあります。詳しくは 5 章「各測色器の動作について」をご覧ください。

1 章 事前準備

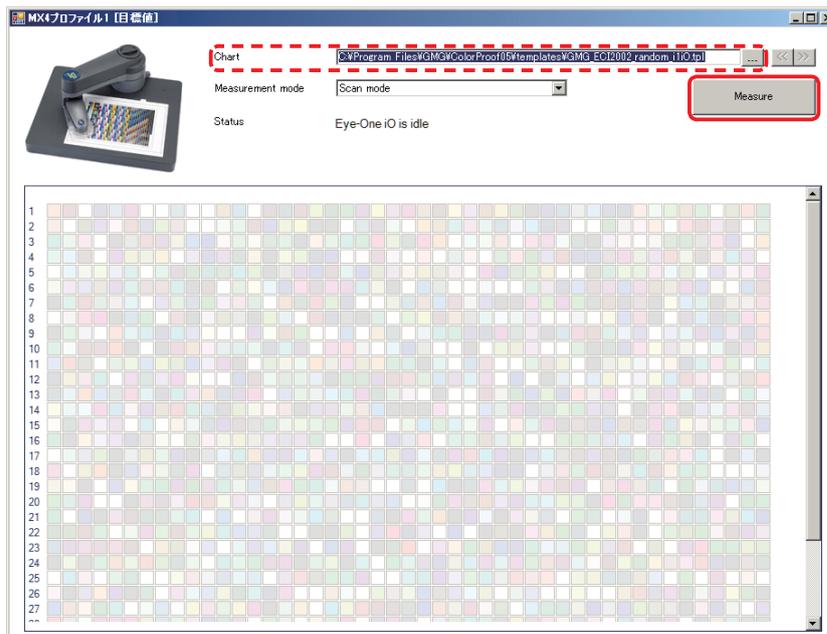
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

- 12** 測色ウィンドウが表示されますので、「Measure」をクリックします。  
 ※「Chart」には**7**番の「チャート」で設定したテンプレートファイル (\*.tpl) が自動的に選択されていますが、違うテンプレートが選択されていても [...] をクリックすれば変更可能です (テンプレート種類は P11 参照)。  
 ※正しいテンプレートが選択されていないとエラーとなり、測色出来ません。



事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

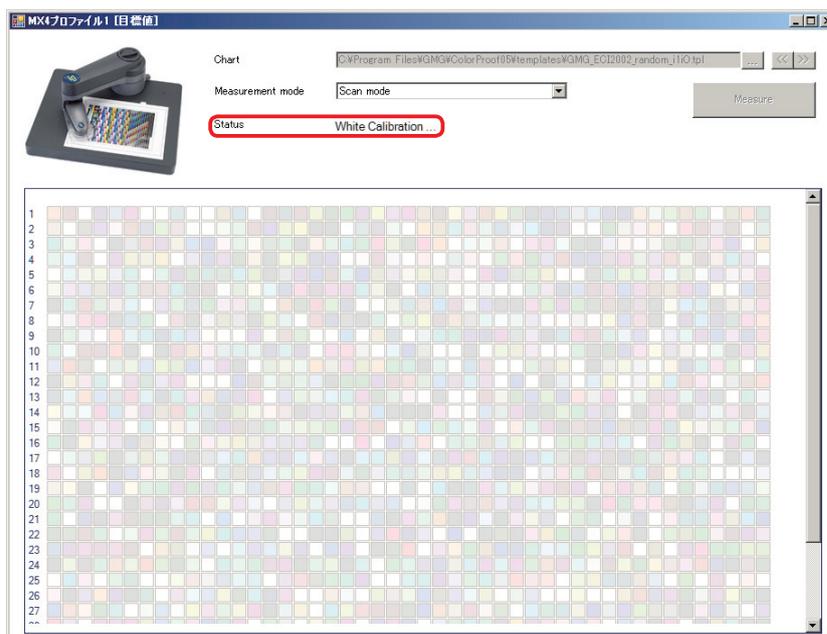
プロファイル  
の修正

4章

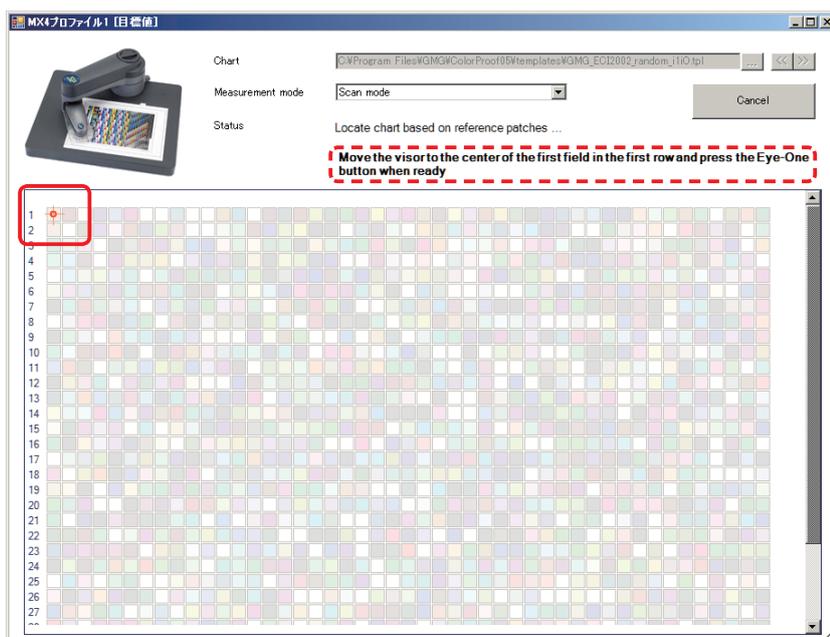
その他

5章

- 13** 「Status」に「White Calibration...」と表示され、自動的にアームが動き、測色器のホワイトキャリブレーションが始まりますので少し待ちます。



- 14** ホワイトキャリブレーションが終了したら、「Move the visor to the center of the first field in the first row and press the Eye-One button when ready」というメッセージと共にチャートの左上（1列目の一番左）のパッチに赤い十字が表示されます。



手で i1i02 のアームを動かし（写真 A）、i1 の半透明のベースプレートの照準がパッチのちょうど真ん中に来ようセットします（写真 B）。セットしたら i1 本体左の黒いボタンを押します。

※この作業は測色器のチャート位置認識の為にいきます。



このような感じでアームを動かし、指定のパッチに合わせて下さい。



半透明のベースプレートの+印がパッチの真ん中に来ようセットしボタンを押して下さい。

1 事前準備

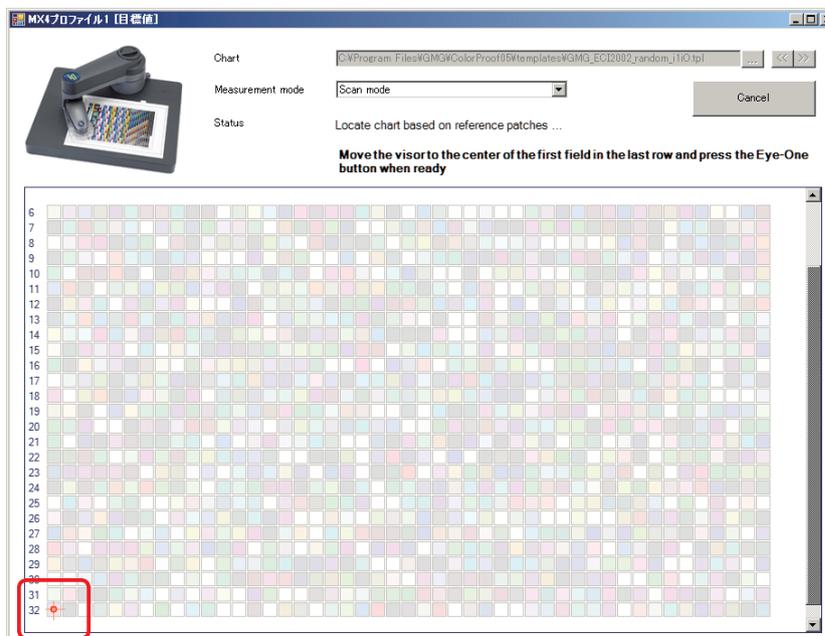
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

**15** 引き続き左下のパッチに赤い十字が表示されますので、同じ作業を繰り返します。



事前準備

1章

プロフィール  
の作成

2章

プロフィール  
の適用

3章

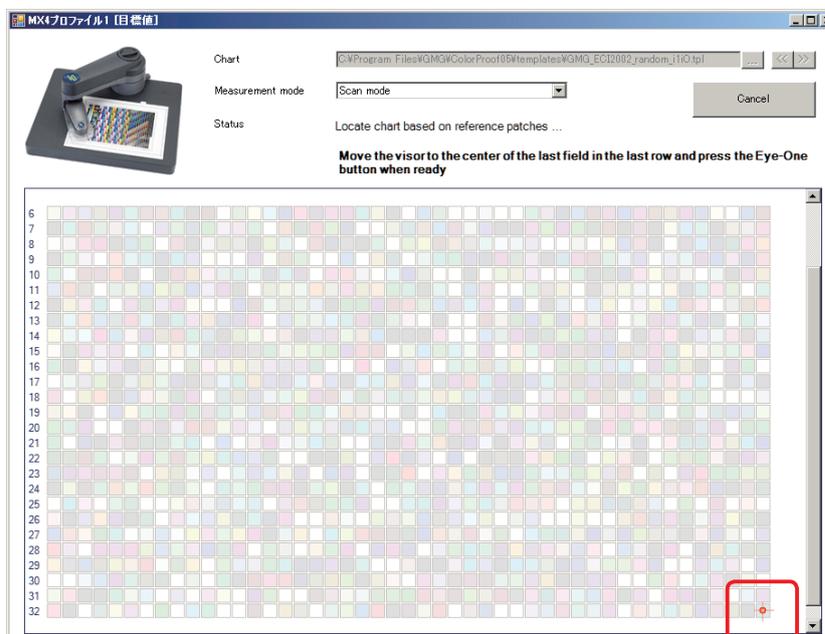
プロフィール  
の修正

4章

その他

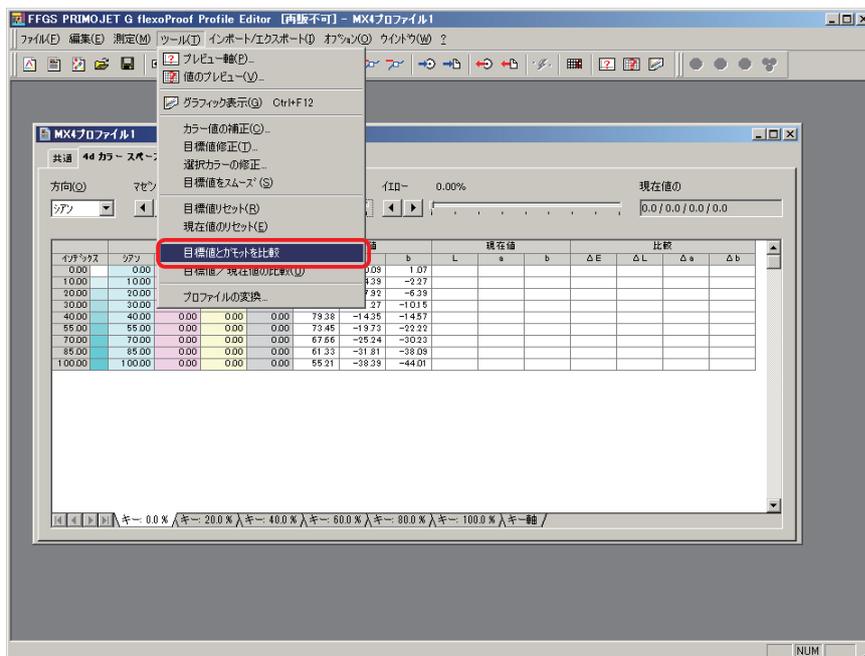
5章

**16** 最後に右下に赤い十字が表示されますので、同じ作業を繰り返します。





- 19** 測色したターゲット印刷物(出力物)の測色値の状態を確認します。「ツール」メニューから「目標値とガモットを比較」をクリックします。



事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

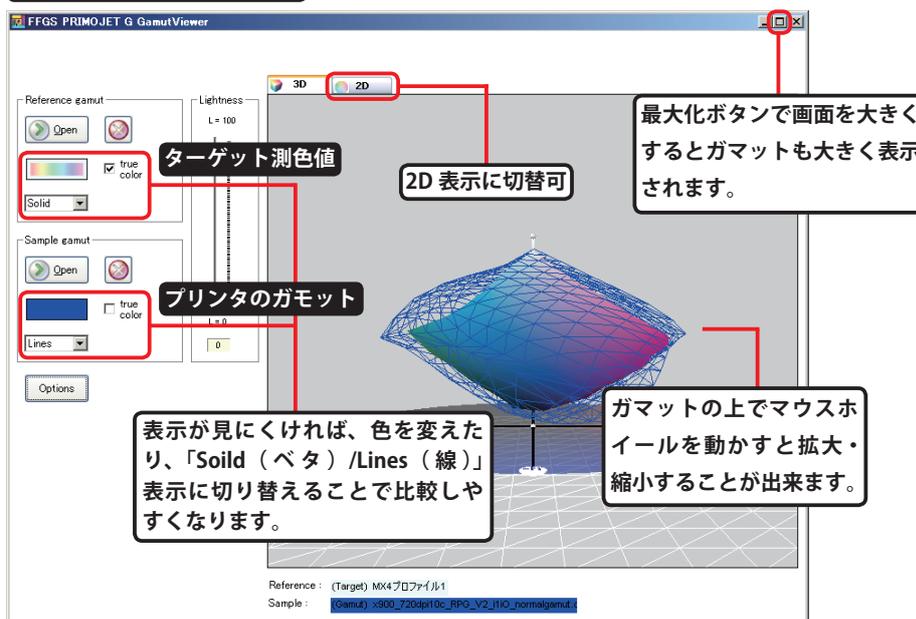
4章

その他

5章

- 20** ガモットビューワー (FFGS PRIMOJET G Gamut Viewer) が開きます。測色した目標値の状態を立体的に確認することができます。ガモットと測色値のバランスの確認、測色値のガタつきの有無などを確認します。なお、ガモットからはみ出した測色値はプリンタの再現範囲外です。

### ガモットビューワーの見方



## ！ 必要であればこの段階でスムージングをかけます

ガモットビューワーで測色値を確認し、必要があればスムージングをかけます（手順はP38で説明）。スムージング機能を使用すると以下のような効果が期待出来ます。  
（※測色値の状態が良好であればスムージングをかける必要はありません）

### スムージングの効果

- ◆ トーンジャンプを改善する。
- ◆ ターゲット印刷物・出力物の階調つぶれを改善する（階調を取り戻す）。

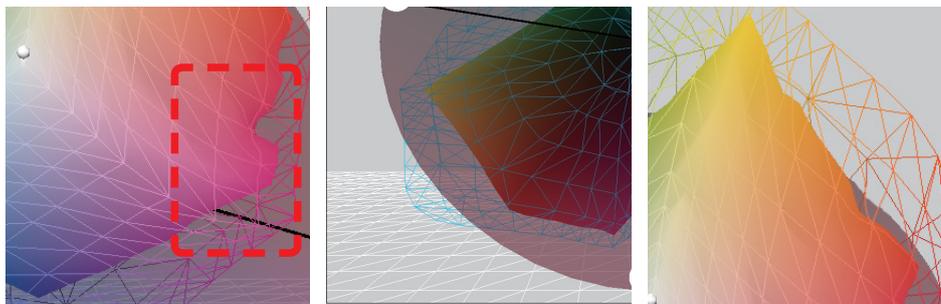
ただし、スムージングをかけるとターゲット測色値が補正計算される為、かけすぎるとプロファイルのマッチング精度が下がる場合があります。

### スムージングをかける判断基準

- 1) ガモットビューワーで測色値の輪郭に極端なガタつき（凸凹）が見られる。
- 2) ターゲット印刷物（出力物）に階調つぶれがある。

※ 1) は測色器そのもののトラブルにより測色結果が安定しない、測色ヘッドの原点がずれて各色パッチが正しい位置で測色出来ていないなどの可能性もあります。この場合、スムージングでは良化しません。

スムージングをかける必要がないと判断される場合は本章 **STEP 3** へ進んで下さい。



#### 状態の良い測色値

極端なガタつきがある。

#### 状態の良い測色値

ガタつきがほとんどない。

#### ガタつきの許容

スムーズをかけなくても問題が出ない可能性があるレベル

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

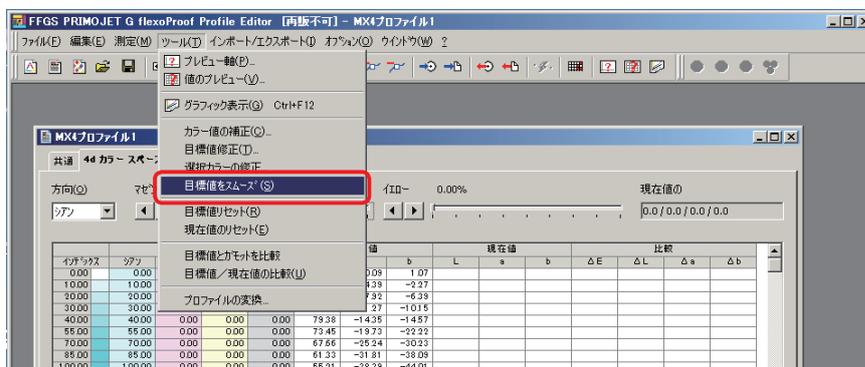
## スムージング

## スムージングの目安

スムージング限度の目安は強度「3」までです。これ以上かけないとスムーズ効果が得られない場合、ターゲット印刷物の見直しが必要な場合があります。

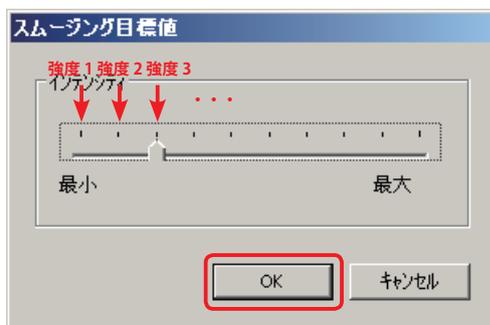
21

「ツール」メニューから「目標値をスムーズ」をクリックします。



22

「スムージング目標値」というウィンドウが表示されたら「インテンシティ（強度）」を設定し、「OK」をクリックします。



## memo

「最小」目盛りが強度「1」です。つまり、ウィンドウを開きスライダーを動かさずに「OK」をクリックするだけで強度「1」がかかります。目盛りをひとつ動かすと強度「2」がかかります。

## 重要

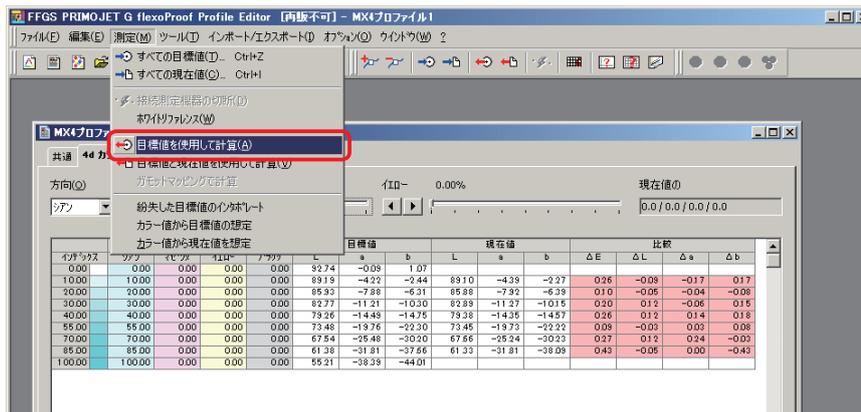
スムージングをかけた後、再度ガモットビューワーで目標値とガモットを比較するとスムージングの効果を確認できます。スムージングの効果が弱いと思われる場合、もう少しスムージングをかけてみて下さい。ただし、強いスムージングをかけなければいけないターゲット印刷物（出力物）は刷り直すなどの見直しが必要な場合があります。

<スムージングを再度かけ直す場合>

1. ガモットビューワーで確認→再度かけ直す必要がある
2. プロファイルを×で閉じる→保存しない→プロファイルを再度開く
3. スムージングをかけ直す

**STEP 3** ターゲット測色値から (FBO) 回の DLP を作成

**23** 「測定」メニューから「目標値を使用して計算」をクリックします。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

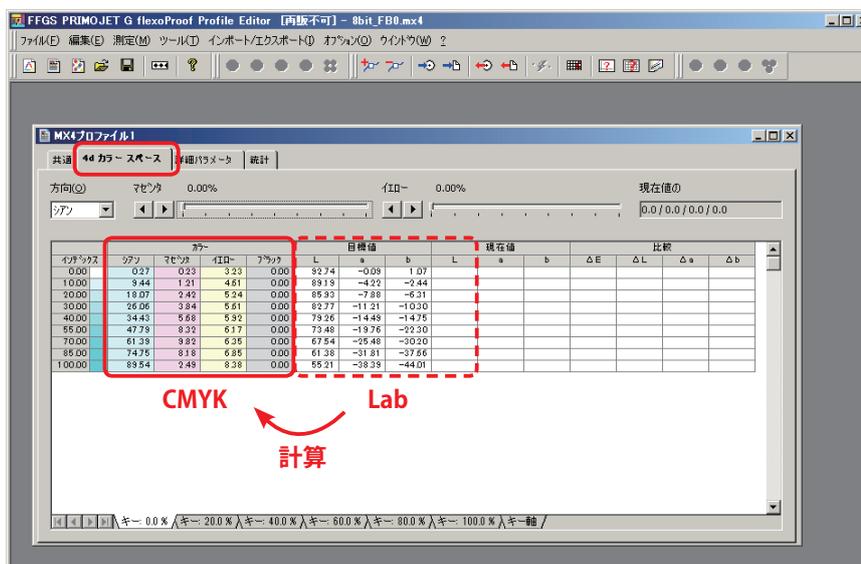
**24** 計算の進捗状況が表示されます。



3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

**25** 計算が終了すると、「4d カラースペース」タブの「カラー」欄にターゲットの測色値が Lab から CMYK に計算された結果が表示されます。

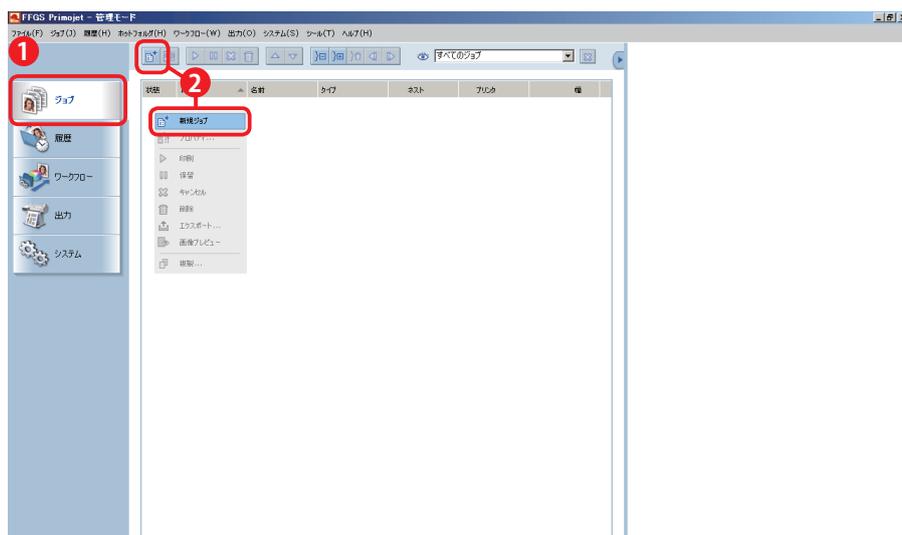


5 章 その他



**STEP 4** STEP 3 の (FBO) 回の DLP を適用してチャート出力

**28** PRIMOJET-XGに戻ります。「ジョブ」ビュー(1)の何もないところで右クリックし、「新規ジョブ」をクリック、または「新規ジョブ」アイコン(2)をクリックします。



1 事前準備

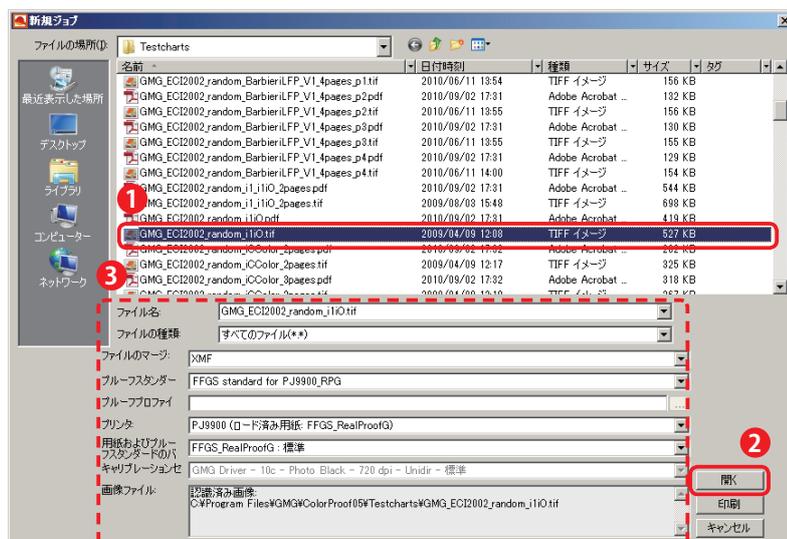
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

**29** 「新規ジョブ」ウィンドウが表示されたら、「C:\Program Files\GMG\ColorProof05\Testcharts」フォルダ内からお使いの測色器に合ったチャートデータ(\*)を選択し(1)、「開く」をクリックします(2)。その他の設定は次のステップで変更しますので何を選択していても構いません(3)。

※各測色器用のチャートデータについては本書 P11 をご参照下さい。

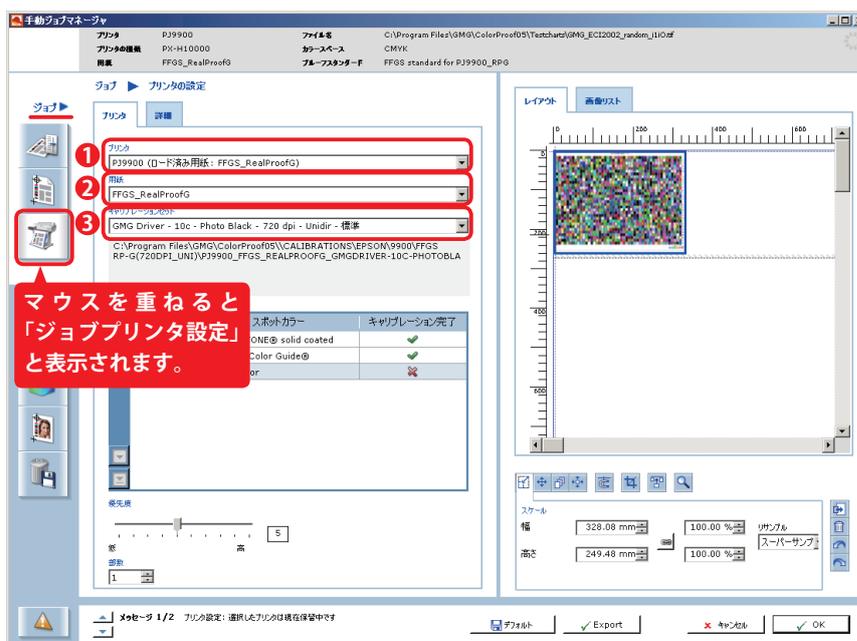


5 その他

30

手動ジョブマネージャが表示されたら以下の設定を行います (1 ~ 6)。

### ジョブ/ジョブプリンタ設定



- ①「プリンタ」→ お使いのプリンタを選択
- ②「用紙」→ お使いの用紙を選択
- ③「キャリブレーションセット」→ お使いのキャリブレーションを選択

#### 注意

「キャリブレーションセット」から Unidir (単方向印刷) と Bidir (双方向印刷) の2つを選択できる設定になっている場合、必ず Unidir (単方向印刷) を選択して下さい。

**PRIMOJET-XG は単方向印刷推奨です。単方向印刷で精度が出るよう設計されています。**



事前準備 1章

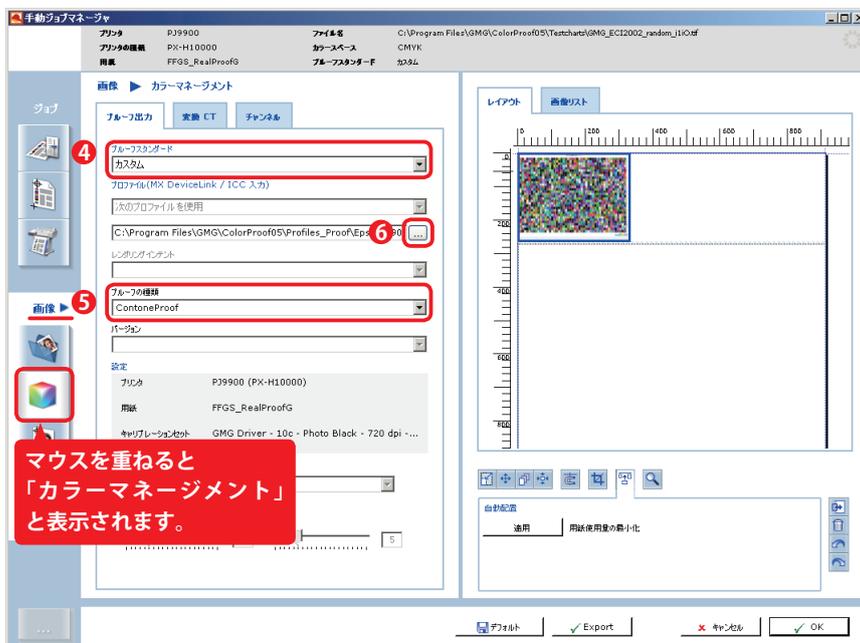
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

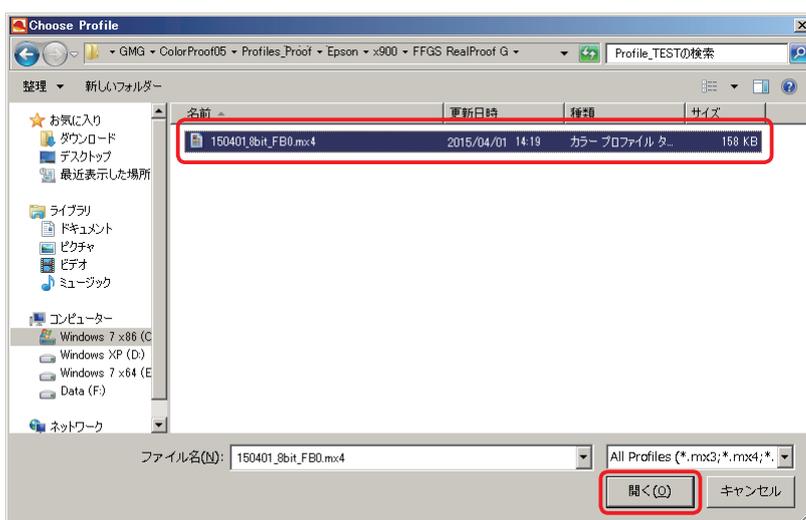
プロファイルの修正 4章

その他 5章

## 画像 / カラーマネージメント



- ④ 「プルーフスタンダード」 → 「カスタム」を選択
- ⑤ 「プルーフの種類」 → 「ContoneProof」を選択
- ⑥ ... をクリック



27番で保存したプロファイル (\*.mx4) を選択し、「開く」をクリックします。

1章 事前準備

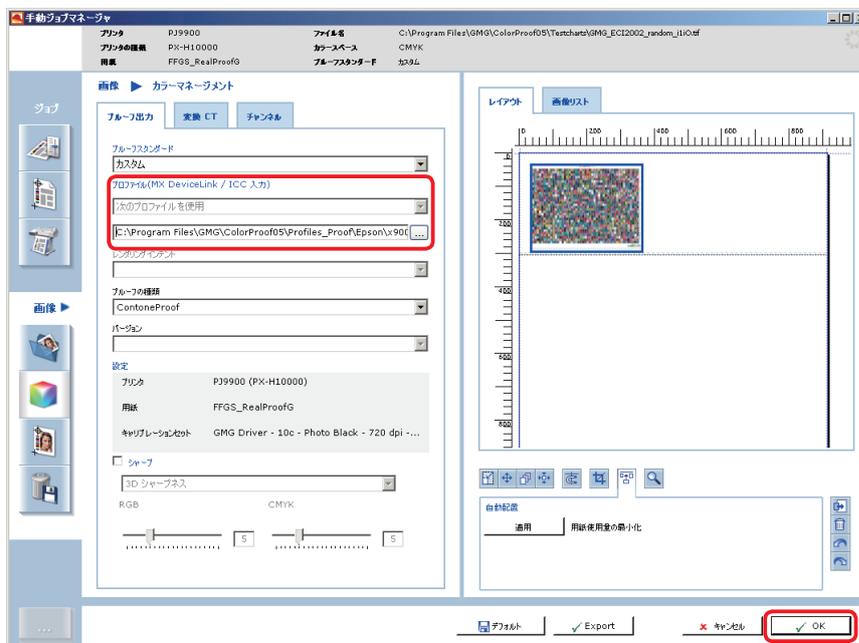
2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

選択したプロファイルが指定されていることを確認したら「OK」をクリックします。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

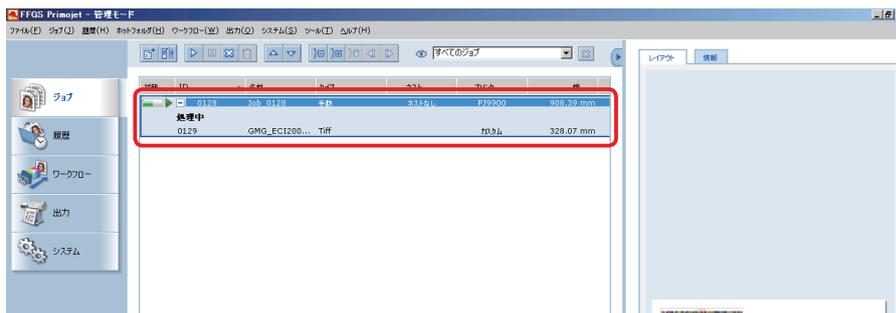
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

31

チャートが出力されますので、カットして下さい。必ず乾燥させる為に時間を置いてからカットして下さい。  
 ※印刷直後は色が安定していません。必ず乾燥時間を設けて下さい。  
 ※カットする際、印刷部分に定規などが当たってこすれたり剥げたりしないようご注意ください。

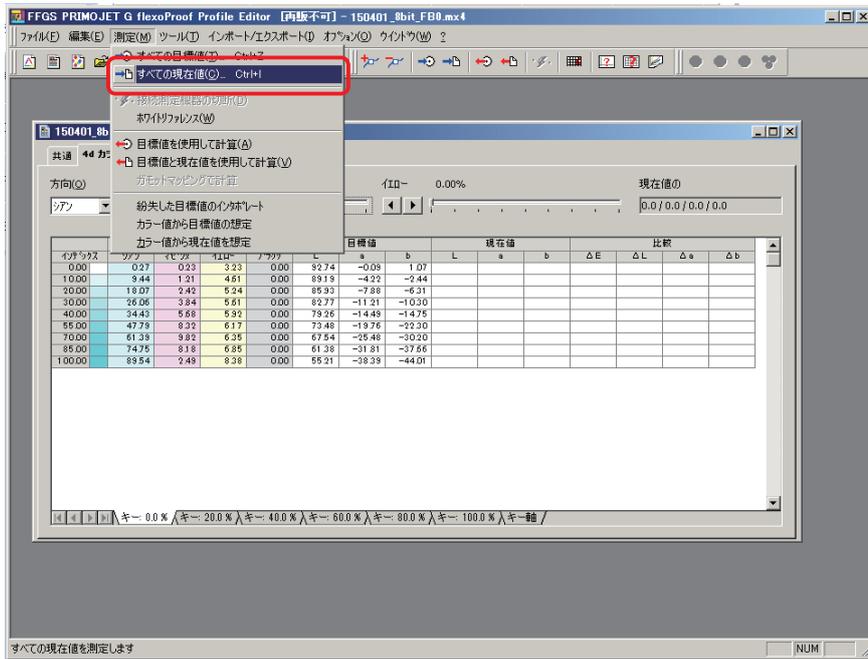


<乾燥時間>

リアルプルーフ G/R/W/O/P : 5分  
 リアルプルーフ MK : 10分

**STEP 5** **STEP 4** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **1** 回目のFB

**32** カットしたチャートを測色器にセットしたら、プロファイルエディタの「測定」メニューから「すべての現在値」をクリックします。測色が始まります。



1 章 事前準備

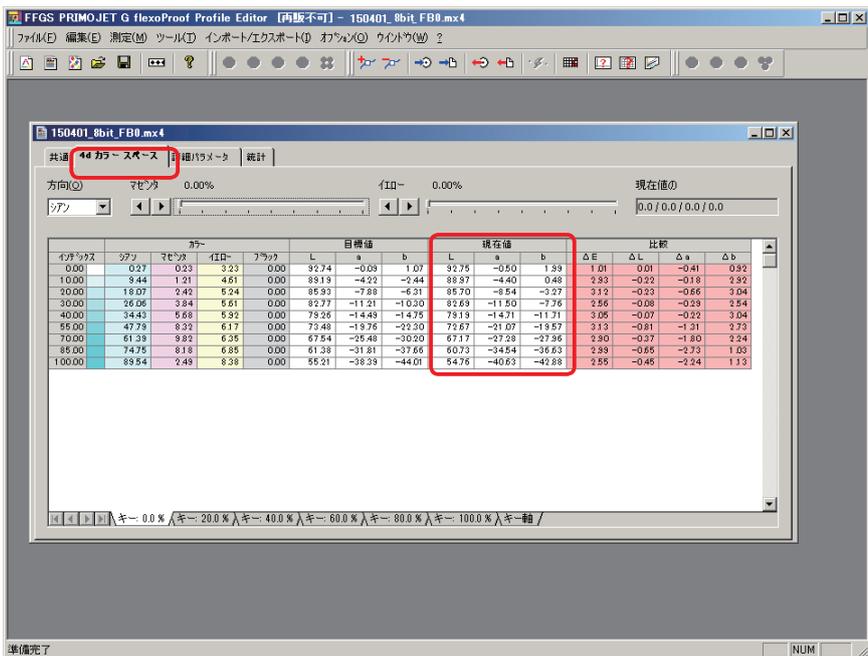
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

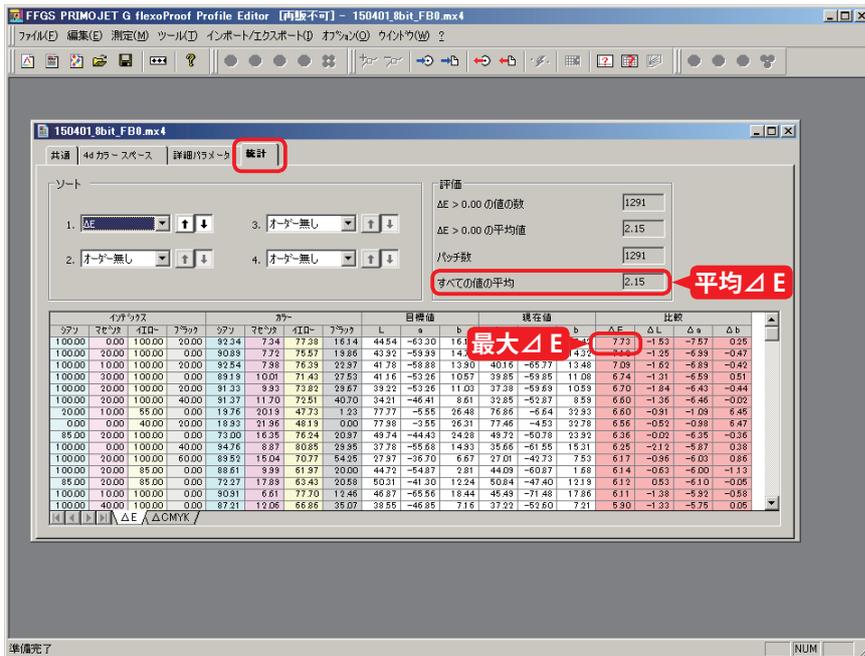
**33** 測色が終了すると、「4d カラースペース」タブの「現在値」欄に測色値が表示されます。



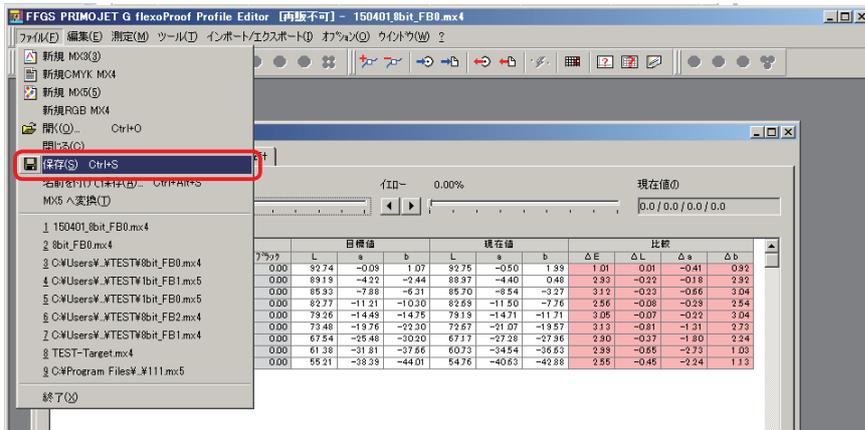
**34** ターゲット印刷物（出力物）とプリンタ出力物の色差（ $\Delta E$ ）を確認するため、「統計」タブをクリックします。「すべての値の平均」と「最大 $\Delta E$ 」を控えておきます。

**目安となる目標精度**

品質保証紙・推奨紙の場合、「すべての値の平均」が「0.7」以下です。



**35** 「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。



**memo**

ここで上書き保存しておくと「統計タブ」の $\Delta E$ 値表示が保持されます。上書き保存しないと次のステップで行う作業によって表示が消えてしまいます。あくまで表示が消えるだけで作業に問題はありますが、後の工程で前作業に立ち戻って $\Delta E$ 値を確認したいケースなどに備え、上書き保存して $\Delta E$ 表示を保持しておくことをおすすめします。

事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

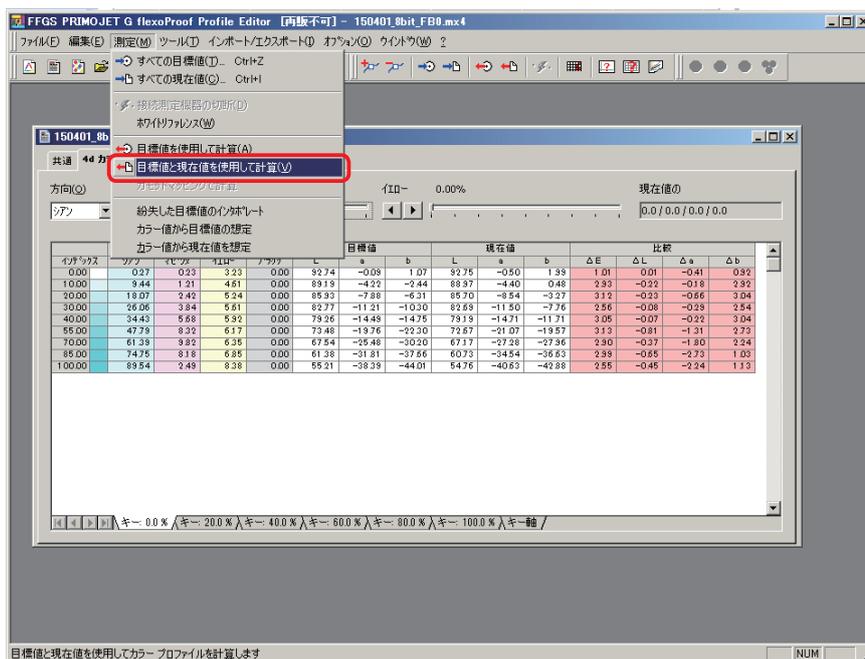
プロファイルの修正 4章

その他 5章

## 8bit プロファイル / 1 回目のフィードバック

**36** 再び「4d カラースペース」タブをクリックし、「測定」メニューから「目標値と現在値を使用して計算」をクリックします。

※必ず「4d カラースペース」タブを選択した状態で「目標値と現在値を使用して計算」をクリックして下さい。



1 章 事前準備

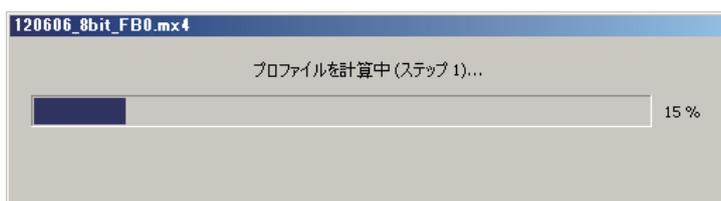
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

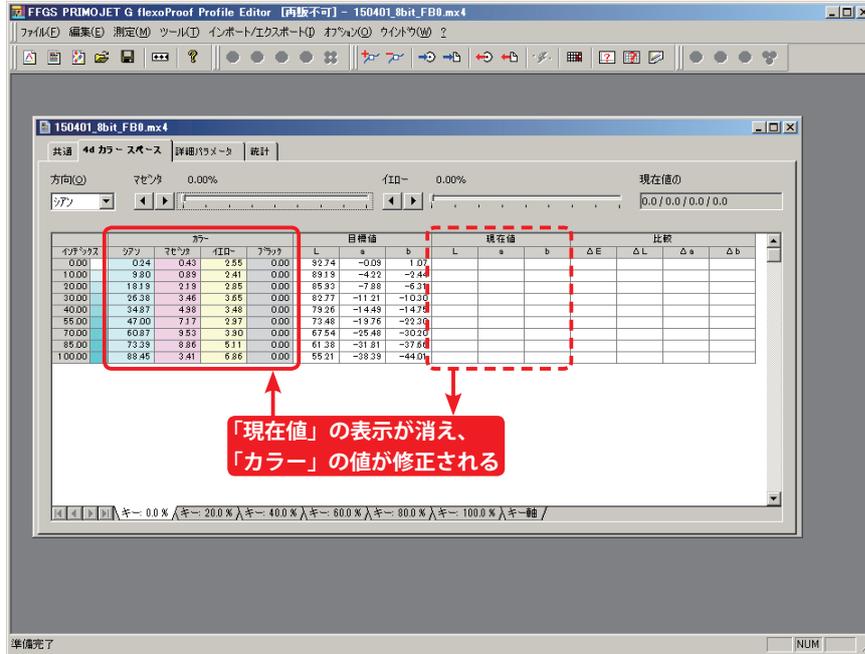
5 章 その他

**37** 計算の進捗状況が表示されます。



38

計算が終了すると「現在値」の表示が消え、「カラー」の値が修正されます。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

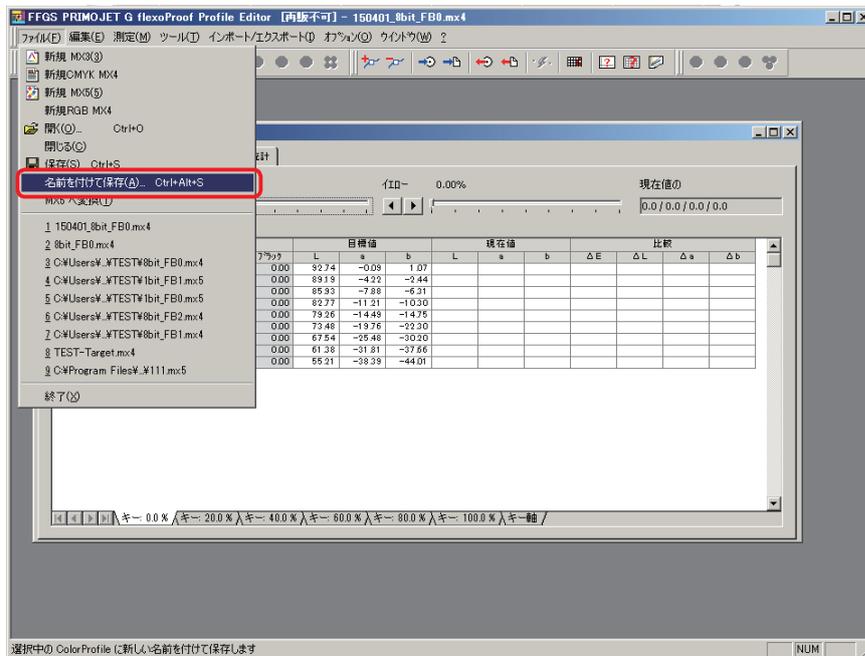
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

39

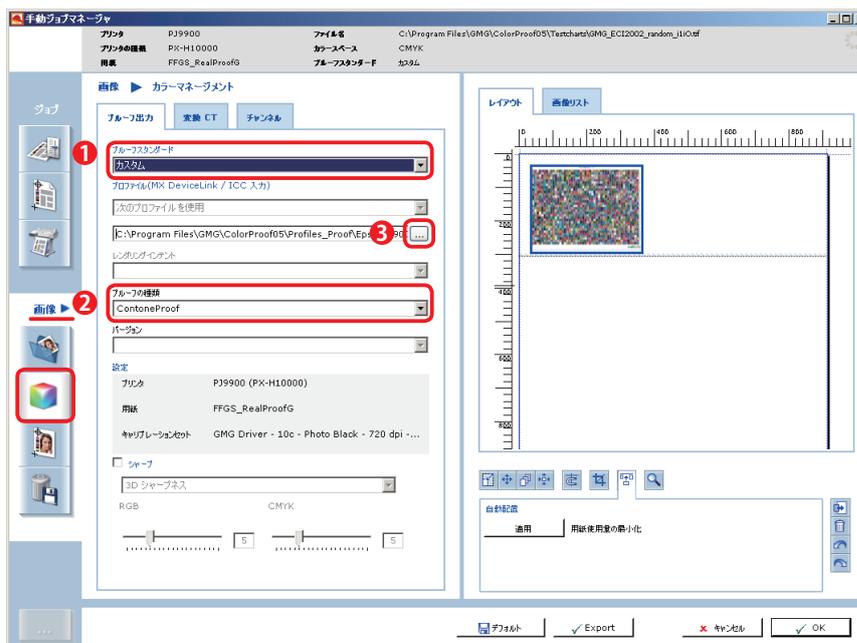
「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックします。



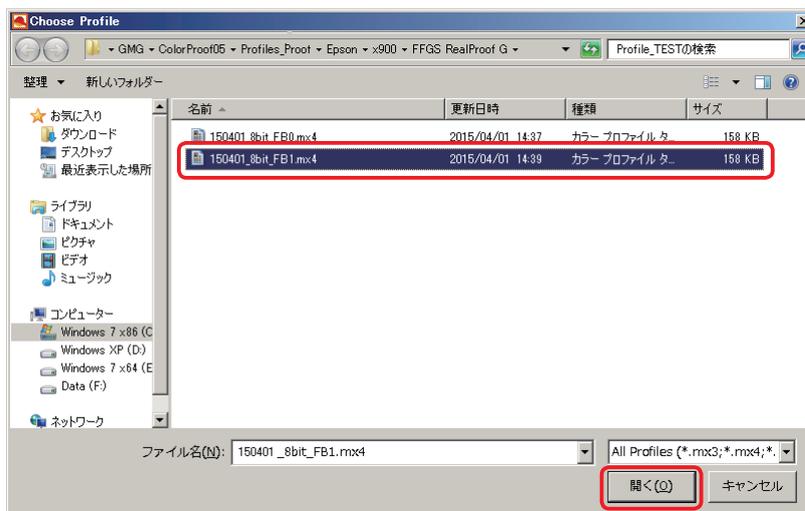


42 手動ジョブマネージャが表示されたら以下の設定を行います (①～③)。

### 画像 / カラーマネージメント

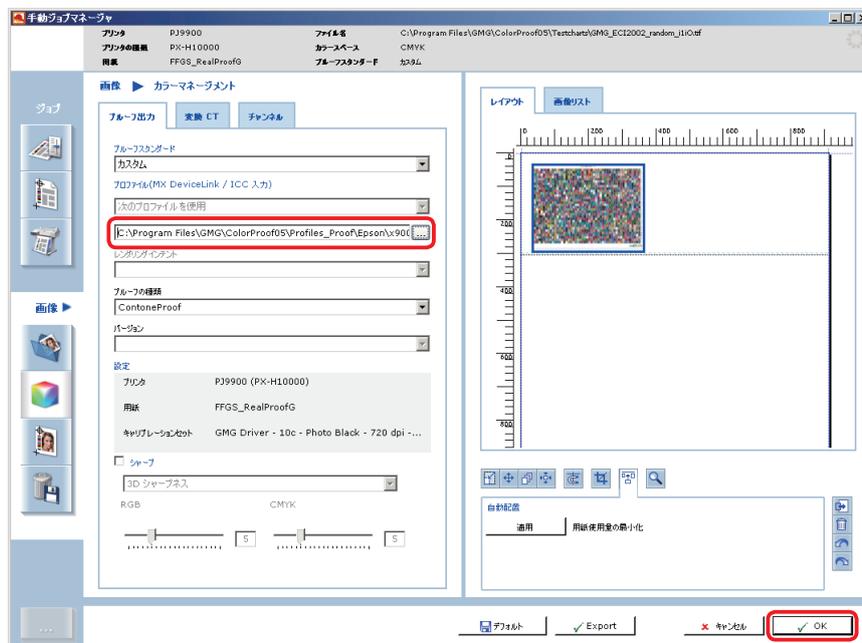


- ① 「プルーフスタンダード」 → 「カスタム」が選択されていることを確認
- ② 「プルーフの種類」 → 「ContoneProof」が選択されていることを確認
- ③ 「...」をクリック

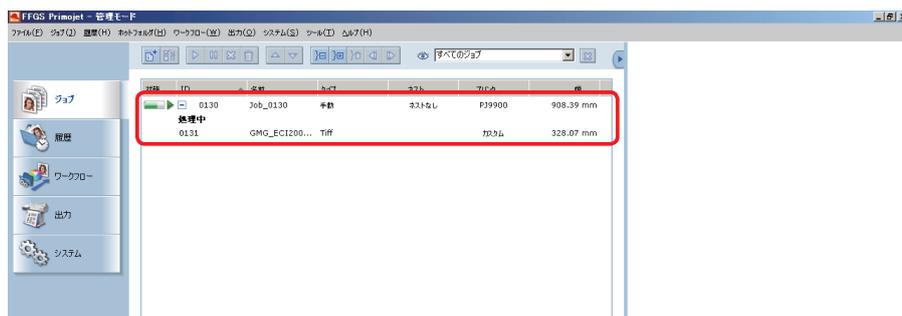


40番で保存したプロファイル (\*.mx4) を選択し、「開く」をクリックします。

**43** 選択したプロファイルが指定されていることを確認したら「OK」をクリックします。



**44** チャート出力後、乾燥させる為に時間を置いてからカットして下さい。  
 ※印刷直後は色が安定していません。必ず乾燥時間を設けて下さい。  
 ※カットする際、印刷部分に定規などが当たってこすれたり剥げたりしないようご注意ください。



**<乾燥時間>**

リアルプルーフ G/R/W/O/P : 5分  
 リアルプルーフ MK : 10分

1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

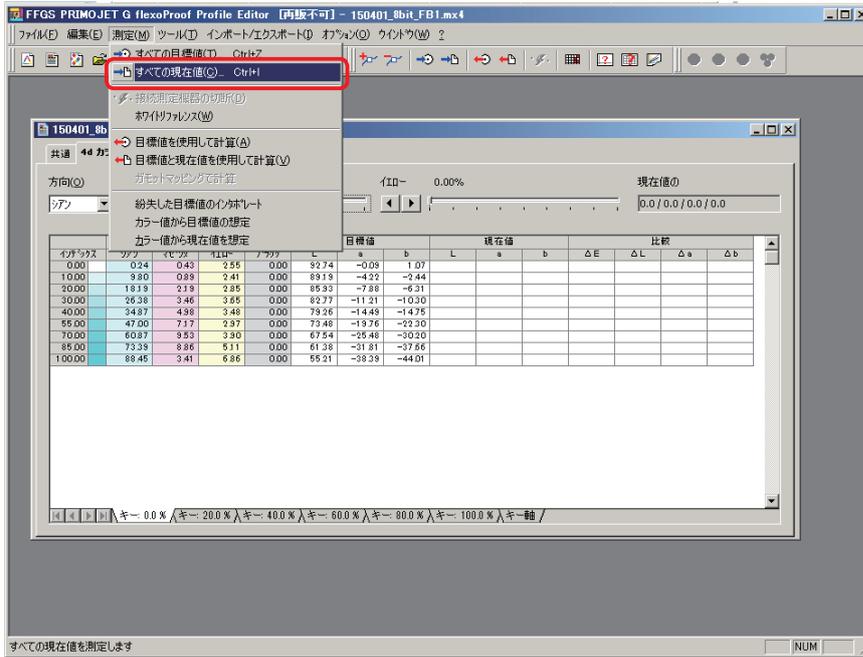
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

**STEP 7** **STEP 6** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **2 回目**のFB

**45** カットしたチャートを測色器にセットしたら、プロファイルエディタの「測定」メニューから「すべての現在値」をクリックします。測色が始まります。



事前準備 1章

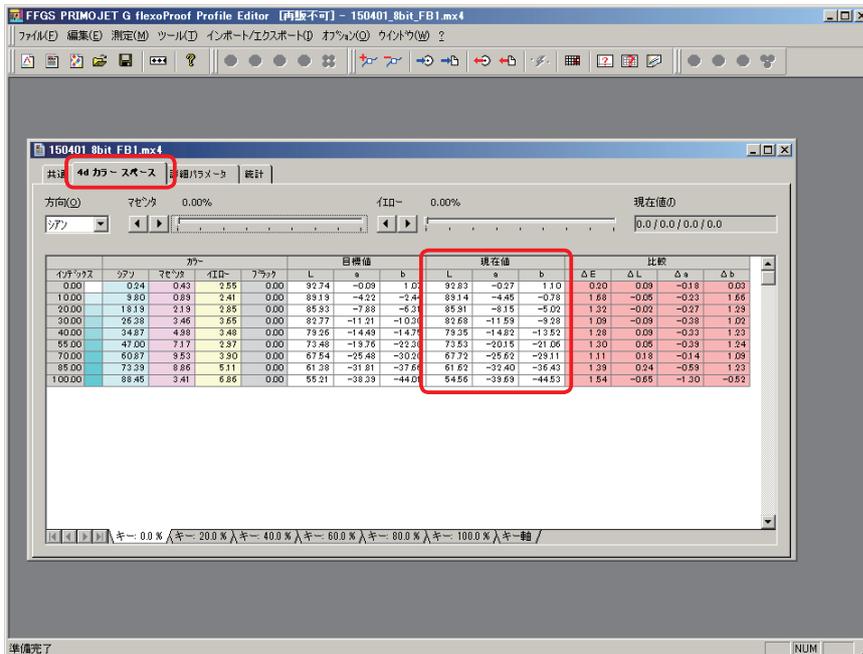
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

**46** 測色が終了すると、「4d カラースペース」タブの「現在値」欄に測色値が表示されます。



**47** ターゲット印刷物（出力物）とプリンタ出力物の色差（ $\Delta E$ ）を確認をするため、「統計」タブをクリックします。下図に示した「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」が共にFB0（＝P46の34番で控えた数値）より小さくなっていることを確認します。また、ここでも「すべての値の平均」と「最大 $\Delta E$ 」を控えておきます。

### 目安となる目標精度

品質保証紙・推奨紙の場合、「すべての値の平均」が「0.7」以下です。

**CHECK!**  
図に示した「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」が共にFB0より小さくなっていることを確認して下さい。

項目	値
平均 $\Delta E$	0.95
最大 $\Delta E$	1.291

1 事前準備

2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

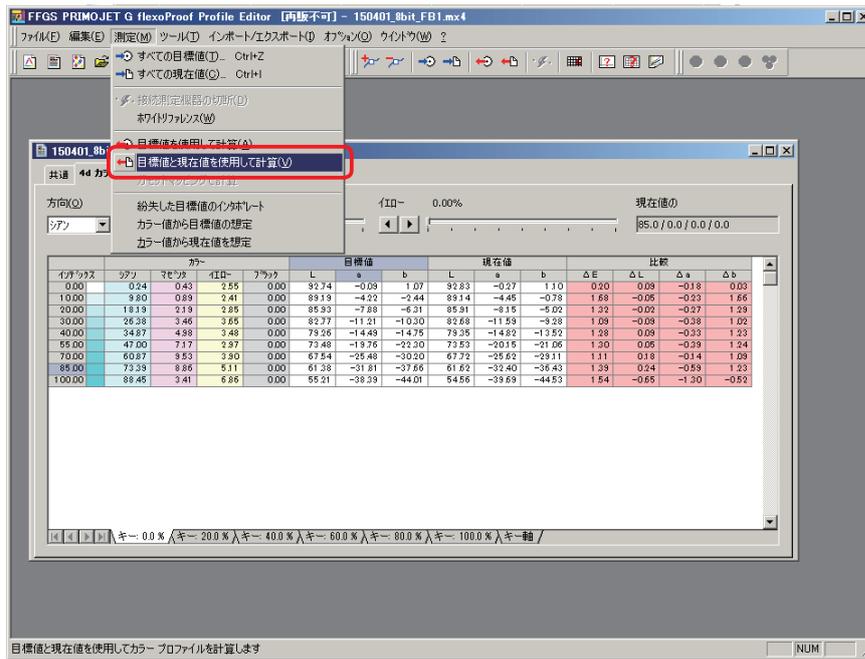
**48**  $\Delta E$ を確認したら「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。

### memo

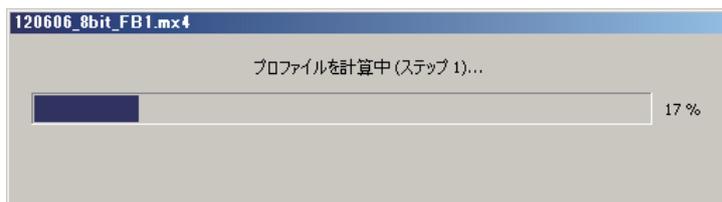
ここで上書き保存しておくことで「統計」タブの $\Delta E$ 値表示が保持されます。上書き保存しないと次のステップで行う作業によって表示が消えてしまいます。あくまで表示が消えるだけで作業に問題はありませんが、後の工程で前作業に立ち戻って $\Delta E$ 値を確認したいケースなどに備え、上書き保存して $\Delta E$ 表示を保持しておくことをおすすめします。

8bit プロファイル /2 回目のフィードバック

- 49** 再び「4d カラースペース」タブをクリックし、「測定」メニューから「目標値と現在値を使用して計算」をクリックします。  
 ※必ず「4d カラースペース」タブを選択した状態で「目標値と現在値を使用して計算」をクリックして下さい。

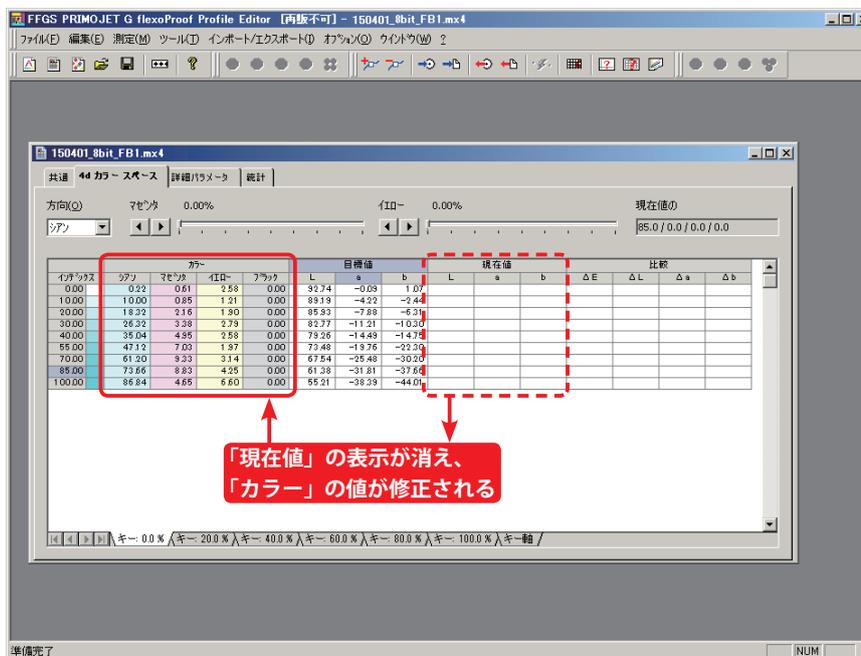


- 50** 計算の進捗状況が表示されます。



- 事前準備 1章
- プロフィールの作成 2章
- プロフィールの適用 3章
- プロフィールの修正 4章
- その他 5章

51 計算が終了すると「現在値」の表示が消え、「カラー」の値が修正されます。



1 章 事前準備

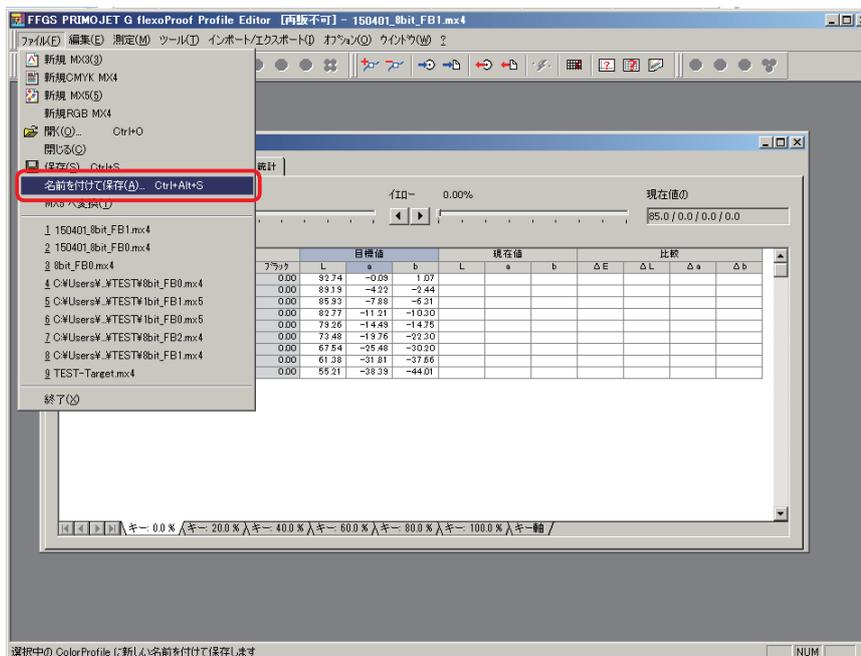
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

52 「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックします。

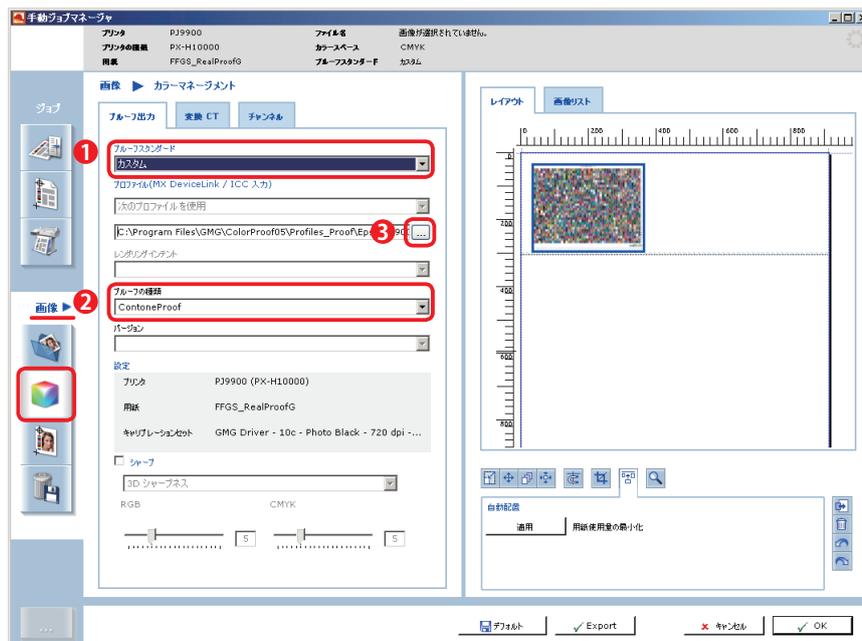




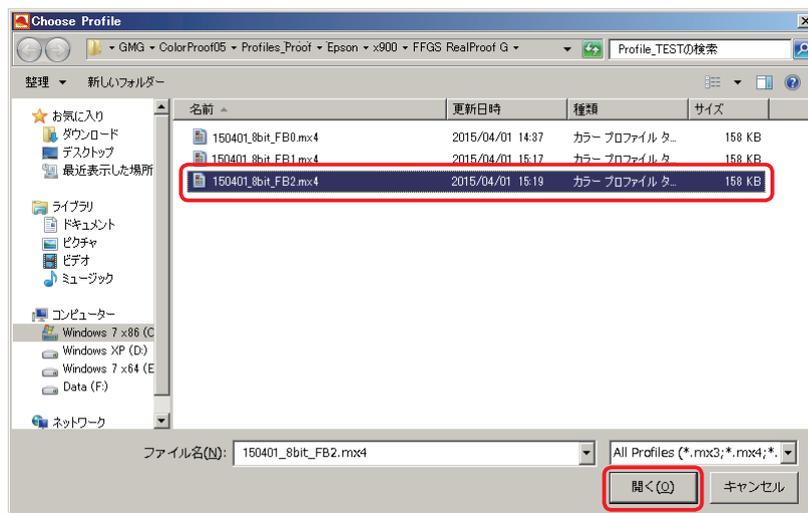
55

手動ジョブマネージャが表示されたら、以下の設定を行います (1 ~ 3)。

### 画像 / カラーマネジメント



- ① 「プルーフスタンダード」 → 「カスタム」が選択されていることを確認
- ② 「プルーフの種類」 → 「ContoneProof」が選択されていることを確認
- ③ 「...」をクリック



53番で保存したプロファイル (\*.mx4) を選択し、「開く」をクリックします。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

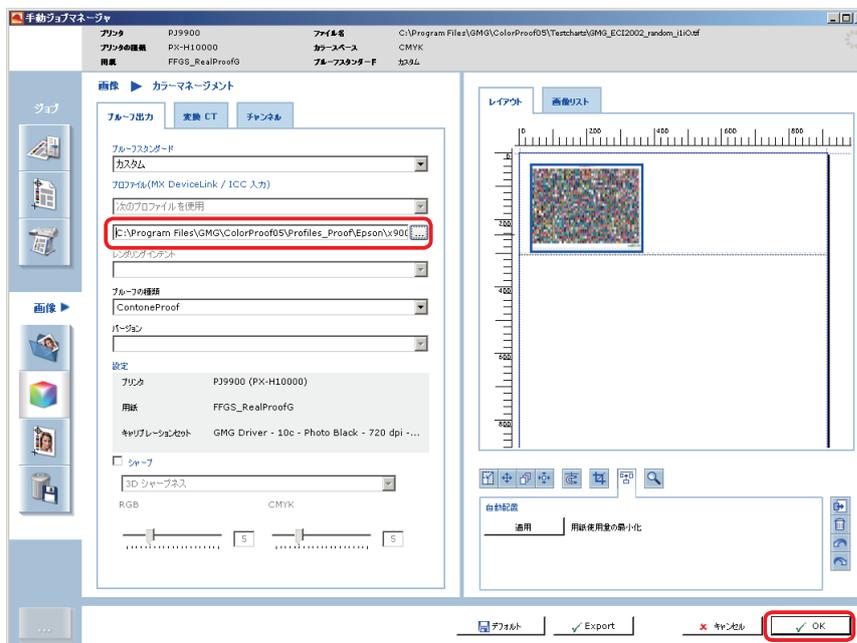
3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

56

選択したプロファイルが指定されていることを確認したら「OK」をクリックします。



事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

4章

その他

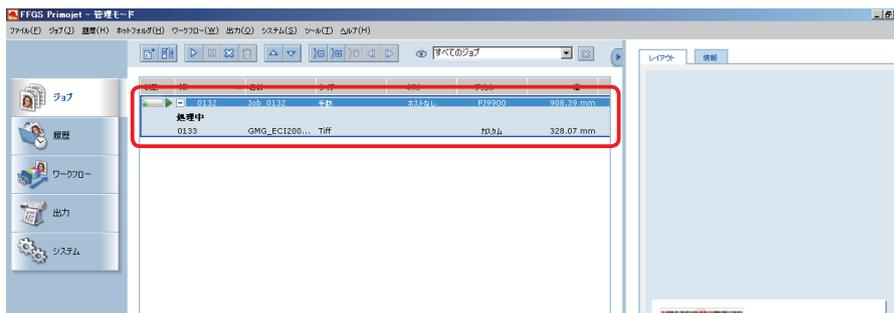
5章

57

チャートが出力されますので、カットして下さい。必ず乾燥させる為に時間を置いてからカットして下さい。

※印刷直後はまだ色が安定していません。必ず乾燥時間を設けて下さい。

※カットする際、印刷部分に定規などが当たってこすれたり剥げたりしないようご注意ください。



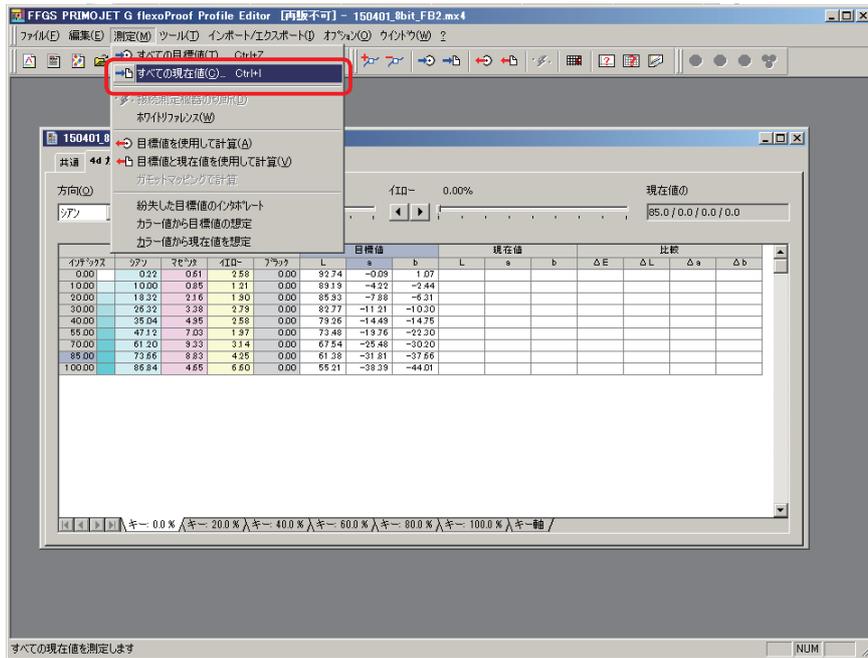
<乾燥時間>

リアルブルーフ G/R/W/O/P : 5分

リアルブルーフ MK : 10分

**STEP 9** **STEP 8** のチャートを測色 → ターゲットと比較

**58** カットしたチャートを測色器にセットしたら、プロファイルエディタの「測定」メニューから「すべての現在値」をクリックします。測色が始まります。



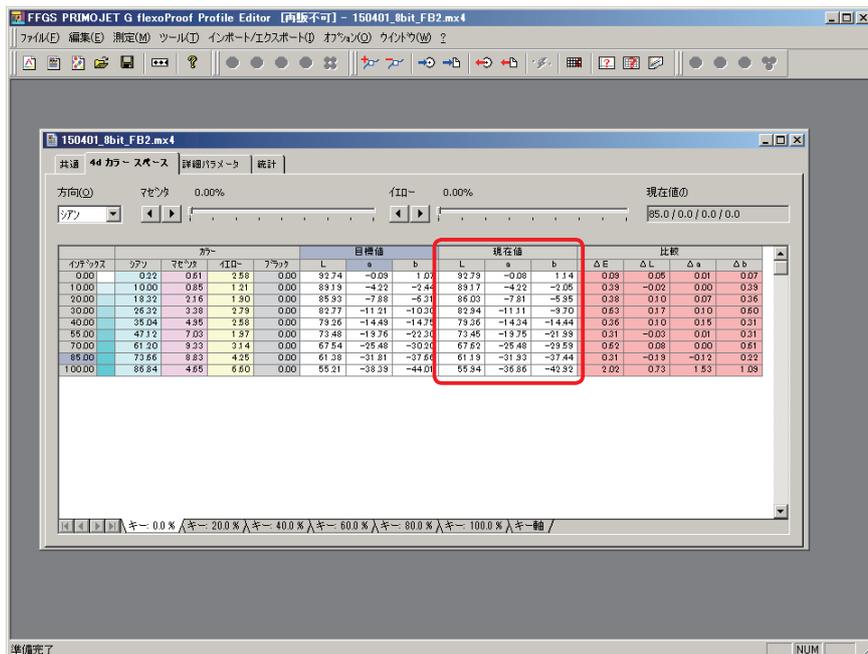
1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

**59** 測色が終了すると、「4d カラースペース」タブの「現在値」欄に測色値が表示されます。



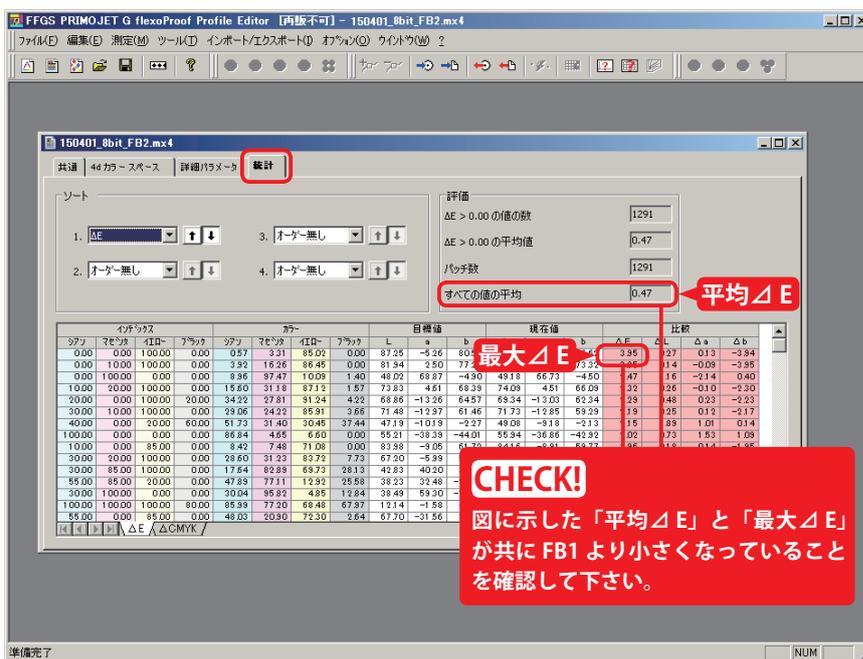
5 章 その他

60

ターゲット印刷物（出力物）とプリンタ出力物の色差（ $\Delta E$ ）を確認するため、「統計」タブをクリックします。下図に示した「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」が共にFB1（＝P53の47番で控えた数値）より小さくなっていることを確認します。また、ここでも「すべての値の平均」と「最大 $\Delta E$ 」を控えておきます。

目安となる目標精度

品質保証紙・推奨紙の場合、「すべての値の平均」が「0.7」以下です。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

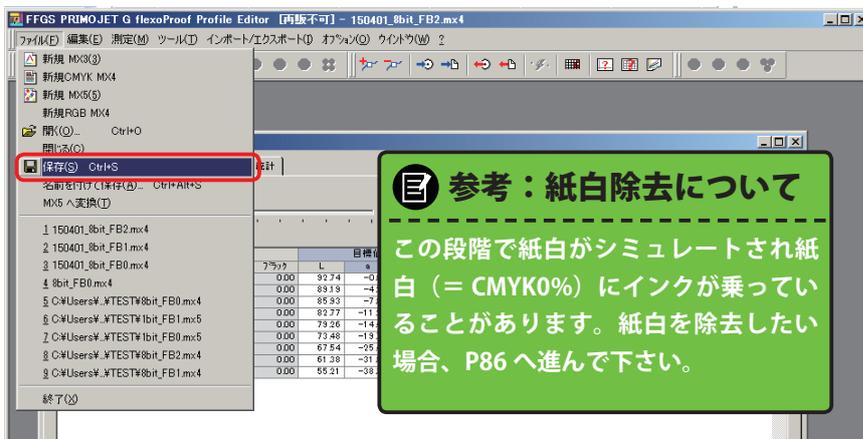
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

61

$\Delta E$ を確認したら「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。



memo

ここで上書き保存しておくことで「統計」タブの $\Delta E$ 値表示が保持されます。上書き保存しないと次のステップで行う作業によって表示が消えてしまいます。あくまで表示が消えるだけで作業に問題はありませんが、後の工程で前作業に立ち戻って $\Delta E$ 値を確認したいケースなどに備え、上書き保存して $\Delta E$ 表示を保持しておくことをおすすめします。

**STEP 10** ターゲット出力物と目視の比較 → 精度が良ければ終了  
 ✓ 必要であればプロファイルを調整

**62** この段階で絵柄も含めた品質確認の出力を行い、必要であればプロファイルの色調整を行います。

8bit 運用する場合（1bit 運用しない）

色調整する必要がない

➡ プロファイル作成作業は終了 → P90 へ進んで下さい。

色調整する必要がある

➡ カーブ調整したい → P112 へ進み、調整後は P90 へ進んで下さい。

➡ 部分調整したい → P128 へ進み、調整後は P90 へ進んで下さい。

紙白を修正したい

➡ 紙白 CMYK0%にインクが乗らないようにしたい  
 → P86 の **41** 番へ進み、調整後は P90 へ進んで下さい。

8bit と 1bit 両方運用する場合

➡ 引き続き 1bit 用プロファイルを作成する → P62 へ進んで下さい。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

2章  
2ドットプルーフ（1bit）用  
プロファイルを作成する

実運用でご使用になる RIP から書き出されたターゲット印刷物（出力物）の 1bitTIFF データをご用意頂き、以下の手順に従って操作して下さい。

**！ 注意**

プロファイル作成と運用とでご使用になる網種・網角度・カーブが異なると、意図したマッチング精度を得られません。また大きくえぐれたような CTP（刷版）カーブが適用されていると、プロファイル作成時に精度が出なかったり、トーンジャンプが起きる可能性があります。基本的にプロファイル作成及び作成後の運用で使用する 1bitTIFF データはカーブを含めずリニアの状態にして下さい。カーブの調整によって PRIMOJET-XG が受ける色変動も避けることができます。

事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

4章

その他

5章

**作業の流れ**

※ FB = フィードバックの略 / 精度アップの為の計算の意  
※ DLP = デバイスリンクプロファイルの略

**STEP 1**

1章で作成した 8bit 用 DLP を 1bit 用 DLP（mx5）に変換（P63 参照）

**STEP 2****STEP 1** の **FB0** 回の DLP を適用してチャート出力（P65 参照）**STEP 3****STEP 2** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **1 回目の FB**（P69 参照）**STEP 4****STEP 3** の **FB1** 回の DLP を適用してチャート出力（P73 参照）**STEP 5****STEP 4** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **2 回目の FB**（P76 参照）**STEP 6****STEP 5** の **FB2** 回の DLP を適用してチャート出力（P81 参照）**STEP 7****STEP 6** のチャートを測色 → ターゲットと比較（P84 参照）

✔ 目安となる目標精度は  $\Delta E$  が「0.7」以下（品質保証紙・推奨紙の場合）

**STEP 8**

ターゲット出力物と目視の比較 → 精度が良ければ終了（P87 参照）

✔ 必要であればプロファイルを調整

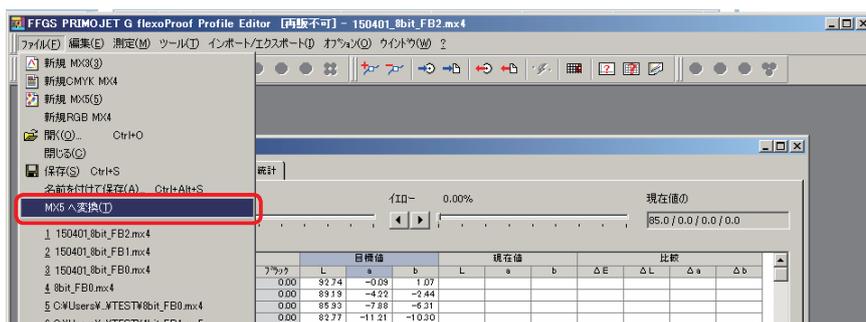
注意



品質保証紙・推奨紙をお使い下さい。それら以外の用紙では  $\Delta E$  の収束精度が悪い場合があります。

**STEP 1** 1章で作成した8bit用DLPを1bit用DLPに変換

- 1** 前章で作成した8bit用プロファイル(※)を開いた状態で、「ファイル」メニューから「MX5へ変換」をクリックします。

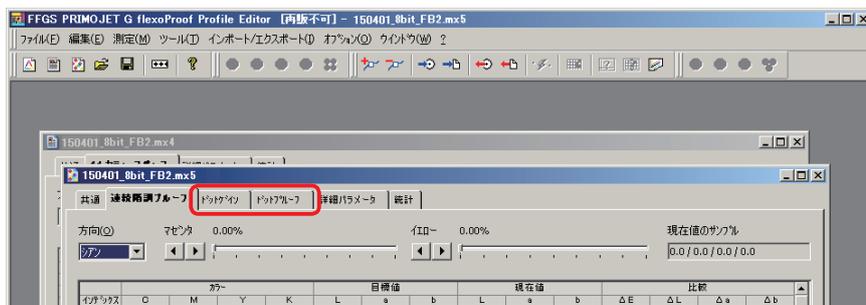


※ここで開いて変換するプロファイル

1bit運用する場合(8bit運用はしない)・・・P53の48番のmx4

8bit運用する場合/8bitと1bit両方運用する場合・・・P60の61番のmx4

- 2** 1bit用プロファイル(mx5)に変換されます。1bit用プロファイルは「カーブ」と「ドットプルーフ」というタブが増えます。

**8bitプロファイルと1bitプロファイルのタブの違い**

8bit用プロファイルの「4d カラースペース」タブは1bit用プロファイルに変換後「連続階調プルーフ」タブという名称に変わります。タブ名が変わるだけで「連続階調プルーフ」タブは変換前の8bitプロファイルと全く同じ数値を保持しています。「ドットプルーフ」タブは1bitプロファイルを表しています。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

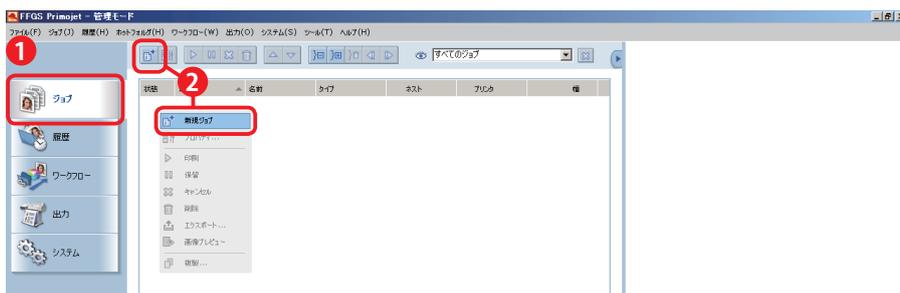
4章 プロファイルの修正

5章 その他

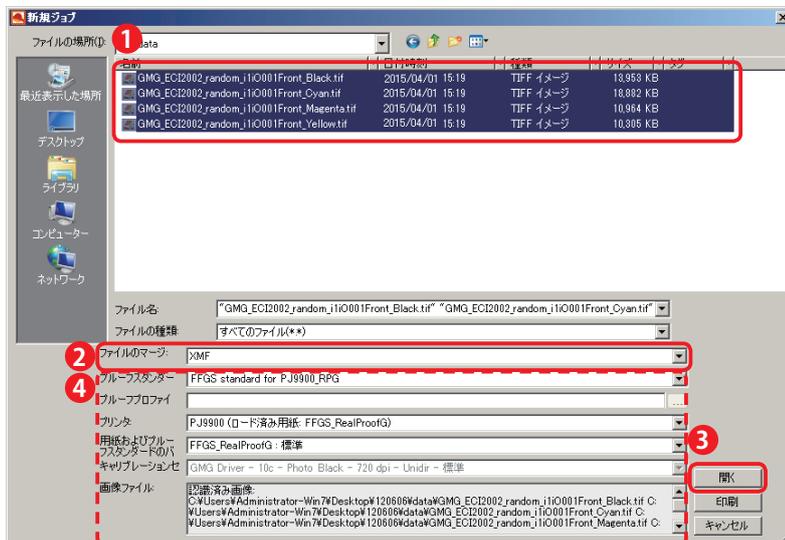


**STEP 2****STEP 1** の **(FB0)** 回の DLP を適用してチャート出力**5**

PRIMOJET-XG に戻ります。「ジョブ」ビュー **(1)** の何もないところで右クリックし、「新規ジョブ」をクリック、または「新規ジョブ」アイコン **(2)** をクリックします。

**6**

「新規ジョブ」ウィンドウが表示されたら、お使いの RIP にて生成した 1bitTIFF ファイルを選択 **(1)**、環境に合った「ファイルのマージ」パターン **(2)** を選択したら「開く」をクリックします **(3)**。その他の設定は次のステップで変更しますので何を選択していても構いません **(4)**。



マージパターンがない・正しくマージされないなどの場合、お使いの RIP で生成されるファイルの名称規則に合ったマージパターンを作成して下さい。作成方法は「PRIMOJET-XG 操作手順書」をご参照下さい。

1章

事前準備

2章

プロファイルの作成

3章

プロファイルの適用

4章

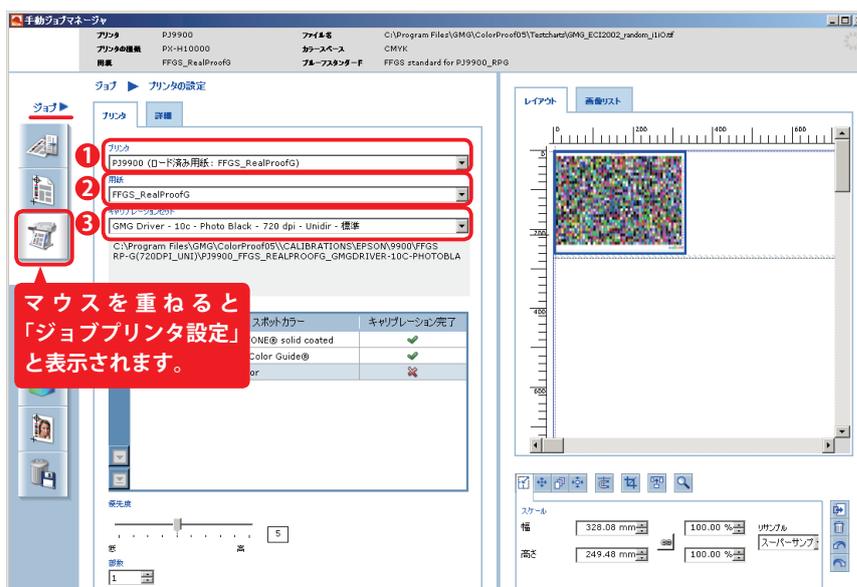
プロファイルの修正

5章

その他

7 手動ジョブマネージャが表示されたら以下の設定を行います (1 ~ 6)。

### ジョブ / ジョブプリンタ設定



- 1 「プリンタ」 → お使いのプリンタを選択
- 2 「用紙」 → お使いの用紙を選択
- 3 「キャリブレーションセット」 → お使いのキャリブレーションを選択

#### 注意

「キャリブレーションセット」から Unidir (単方向印刷) と Bidir (双方向印刷) の2つを選択できる設定になっている場合、必ず Unidir (単方向印刷) を選択して下さい。

**PRIMOJET-XG は単方向印刷推奨です。**  
単方向印刷で精度が出るよう設計されています。



事前準備 1章

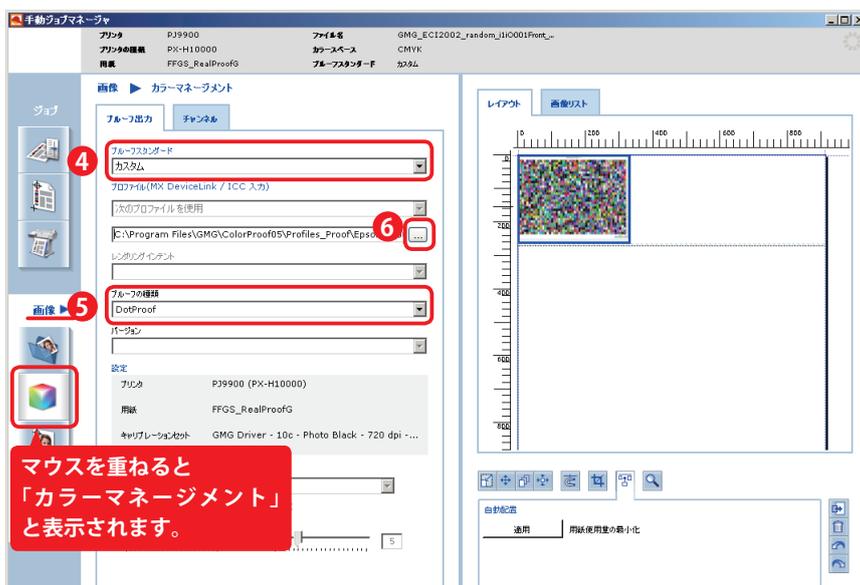
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

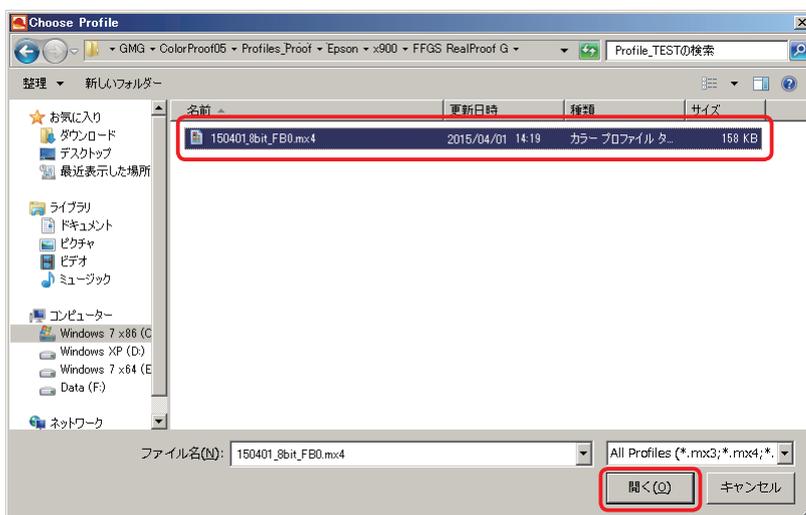
プロファイルの修正 4章

その他 5章

## 画像 / カラーマネージメント



- 4 「プルーフスタンダード」 → 「カスタム」を選択
- 5 「プルーフの種類」 → 「DotProof」を選択
- 6 ... をクリック



- 4 番で保存したプロファイル (\*.mx5) を選択し、「開く」をクリックします。

1 章 事前準備

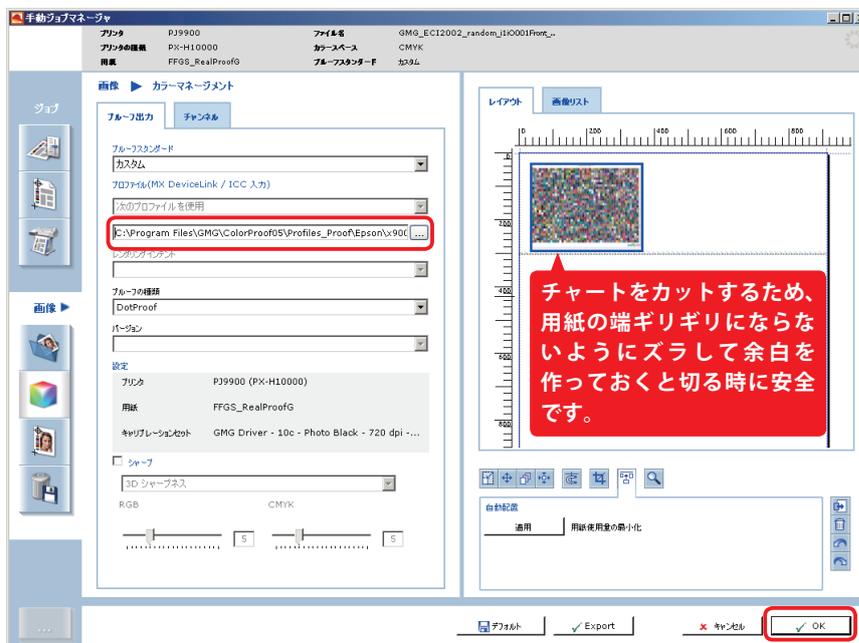
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

選択したプロファイルが指定されていることを確認したら「OK」をクリックします。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

8

チャートが出力されますので、カットして下さい。必ず乾燥させる為に時間を置いてからカットして下さい。

※印刷直後はまだ色が安定していません。必ず乾燥時間を設けて下さい。

※カットする際、印刷部分に定規などが当たってこすれたり剥げたりしないようご注意ください。



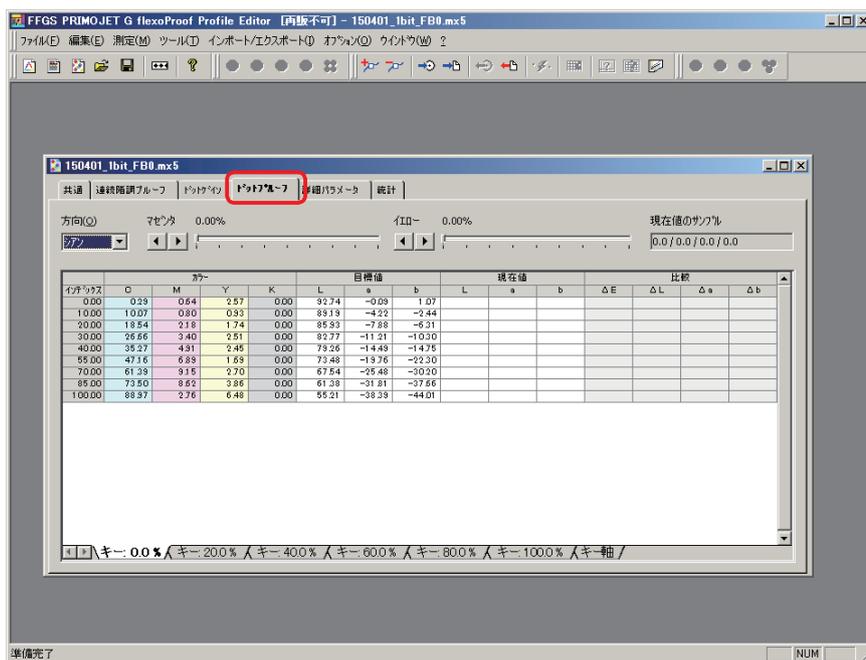
<乾燥時間>

リアルプレーフ G/R/W/O/P : 5分

リアルプレーフ MK : 10分

**STEP 3** **STEP 2** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **1 回目の FB**

**9** プロファイルエディタに戻り、1bit プロファイルの「ドットプルーフ」タブをクリックします。



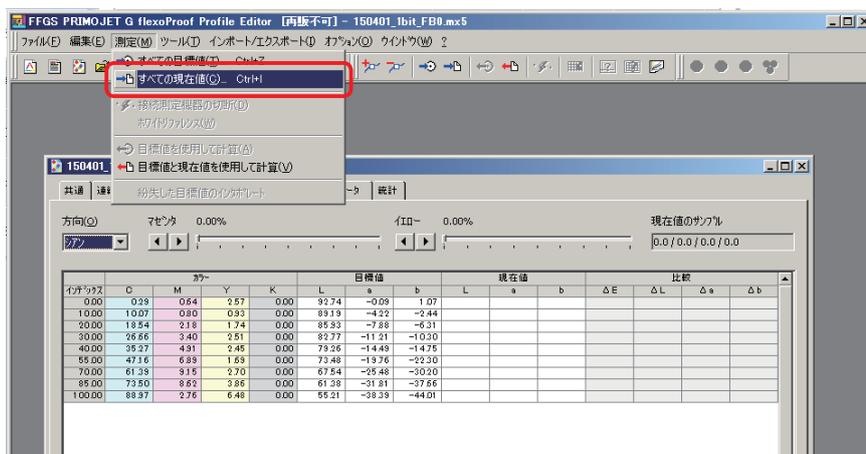
1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

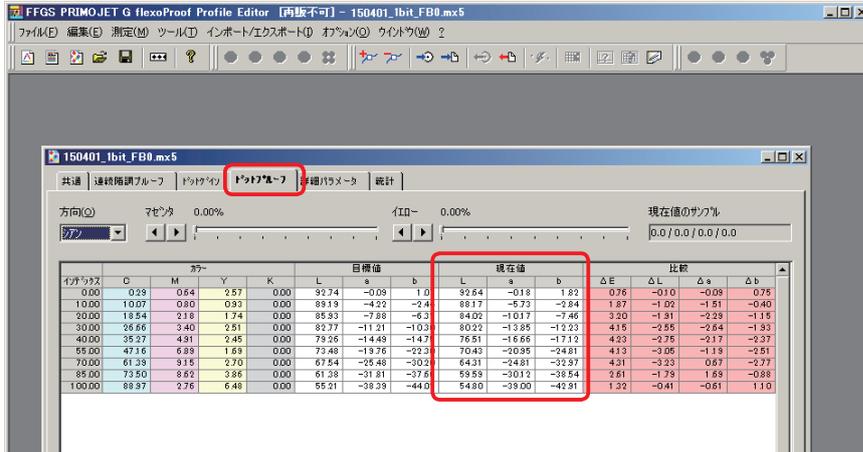
4 章 プロファイルの修正

**10** カットしたチャートを測色器にセットしたら、「測定」メニューから「すべての現在値」をクリックします。測色が始まります。



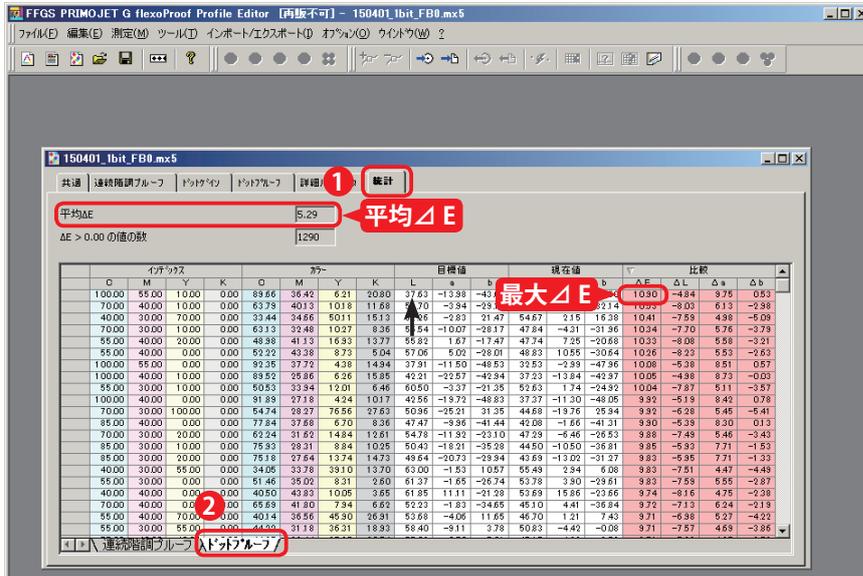
5 章 その他

11 測色が終了すると、「ドットブルーフ」タブの「現在値」欄に測色値が表示されます。



事前準備 1章

12 ここでターゲット印刷物(出力物)とプリンタ出力物の色差( $\Delta E$ )を確認をするため、「統計」タブ(1)の「ドットブルーフ」シート(2)をクリックします。「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」を控えておきます。

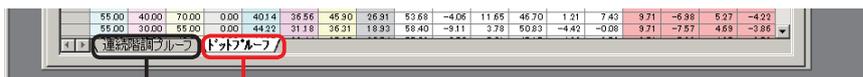


プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

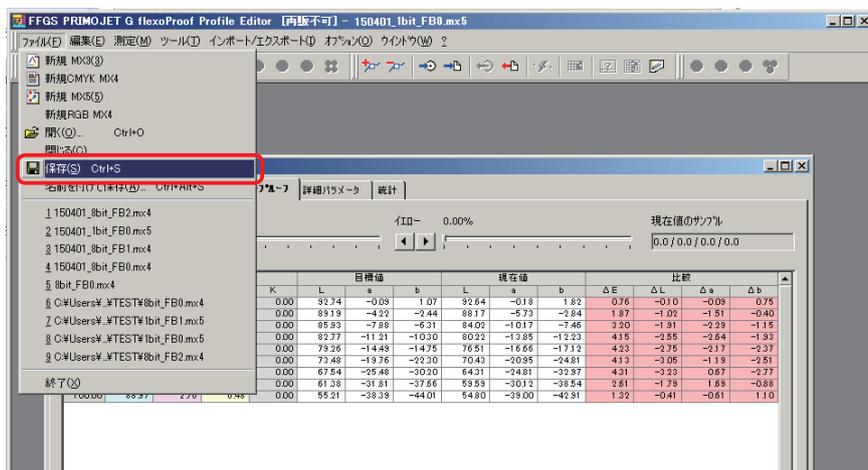


1bitの測色結果を表示  
(本章ではこちらを確認)

8bitの測色結果を表示

1bit用プロファイル作成時は必ず「ドットブルーフ」シートの $\Delta E$ を確認して下さい。

13 「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。



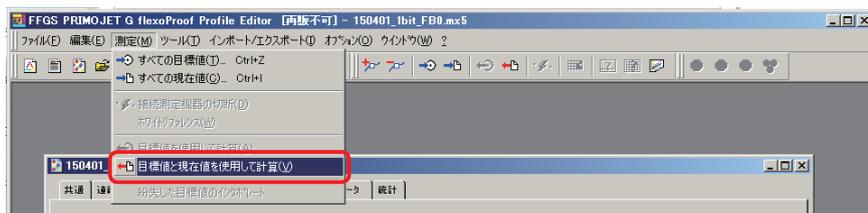
#### memo

ここで上書き保存しておくことで $\Delta E$ 値表示が保持されます。上書き保存しないと次のステップで行う作業によって表示が消えてしまいます。あくまで表示が消えるだけで作業に問題はありませんが、後の工程で前作業に立ち戻って $\Delta E$ 値を確認したいケースなどに備え、上書き保存して $\Delta E$ 表示を保持しておくことをおすすめします。

### 1bit プロファイル / 1 回目のフィードバック

14 再度「ドットプルーフ」タブをクリックし、「測定」メニューから「目標値と現在値を使用して計算」をクリックします。

※必ず「ドットプルーフ」タブを選択した状態で「目標値と現在値を使用して計算」をクリックして下さい。



15 計算の進捗状況が表示されます。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

16 以下のようなアラートが表示されたら「OK」をクリックします。



**参考**

規定の収束範囲内に収まらなかった項目があり、「統計」タブで結果の確認を促すメッセージです。ほとんどのケースで紙白 (= CMYK0%) が該当しますが、後の工程 (P86 の 41 番) で紙白は 0% に修正するので (インクを吹かない) 問題ありません。

事前準備 1章



プロファイルの作成 2章



プロファイルの適用 3章



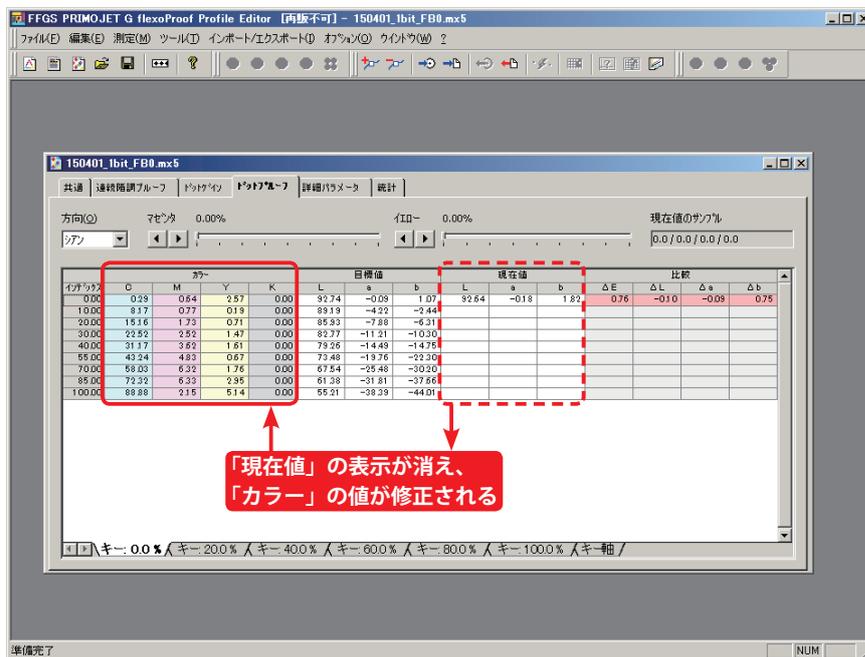
プロファイルの修正 4章



その他 5章



17 計算が終了すると「現在値」の表示が消え、「カラー」の値が修正されます。



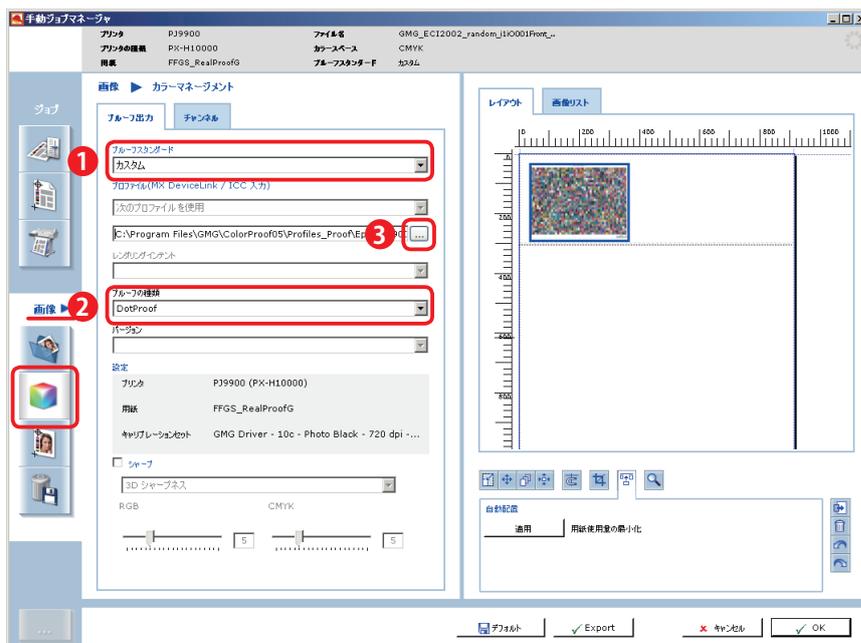
18 「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックします。



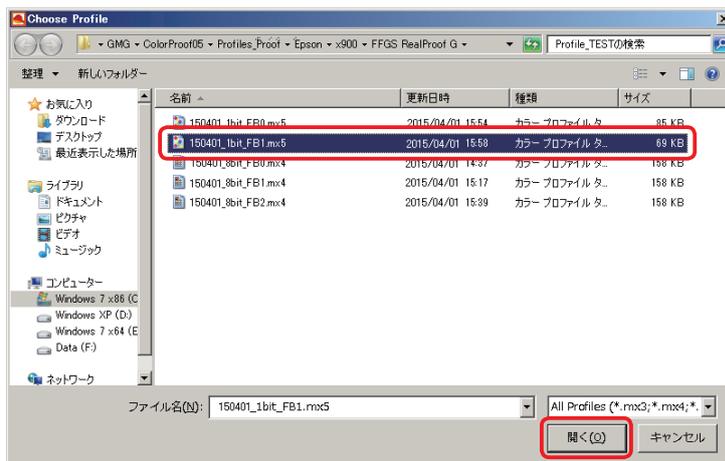


21 手動ジョブマネージャが表示されたら以下の設定を行います (1~3)。

### 画像 / カラーマネジメント

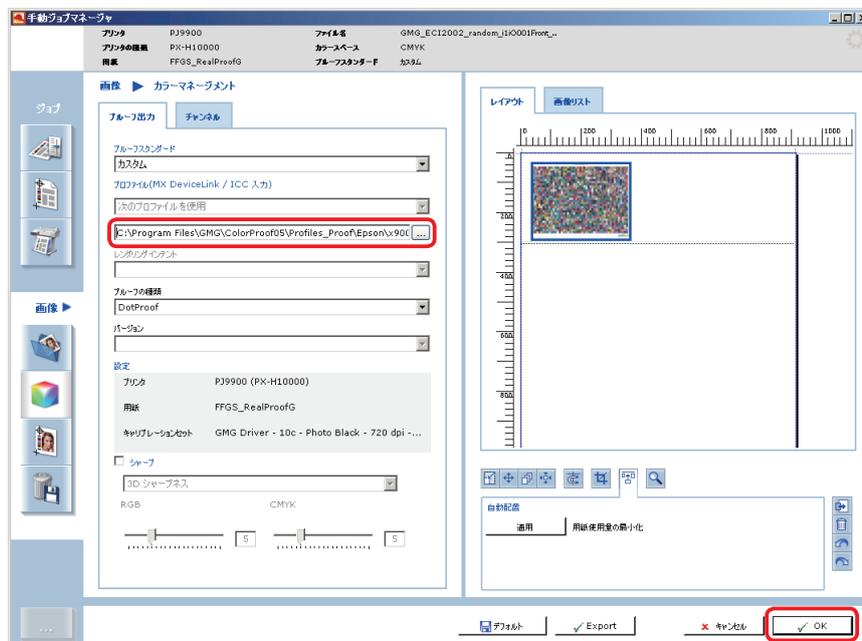


- 1 「プルーフスタンダード」 → 「カスタム」が選択されていることを確認
- 2 「プルーフの種類」 → 「DotProof」が選択されていることを確認
- 3 ... をクリック



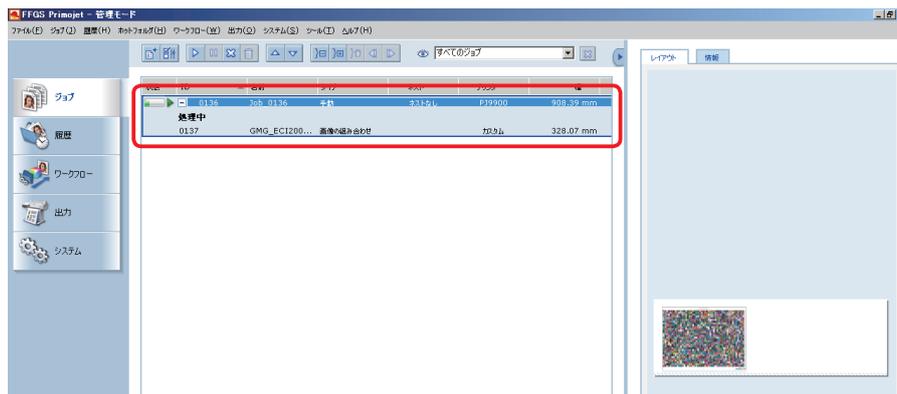
19 番で保存したプロファイル (\*.mx5) を選択し、「開く」をクリックします。

**22** 選択したプロファイルが指定されていることを確認したら「OK」をクリックします。



**23** チャートが出力されますので、カットして下さい。必ず乾燥させる為に時間を置いてからカットして下さい。

※印刷直後はまだ色が安定していません。必ず乾燥時間を設けて下さい。  
 ※カットする際、印刷部分に定規などが当たってこすれたり剥げたりしないようご注意ください。



**<乾燥時間>**

リアルブルーフ G/R/W/O/P : 5分  
 リアルブルーフ MK : 10分

1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

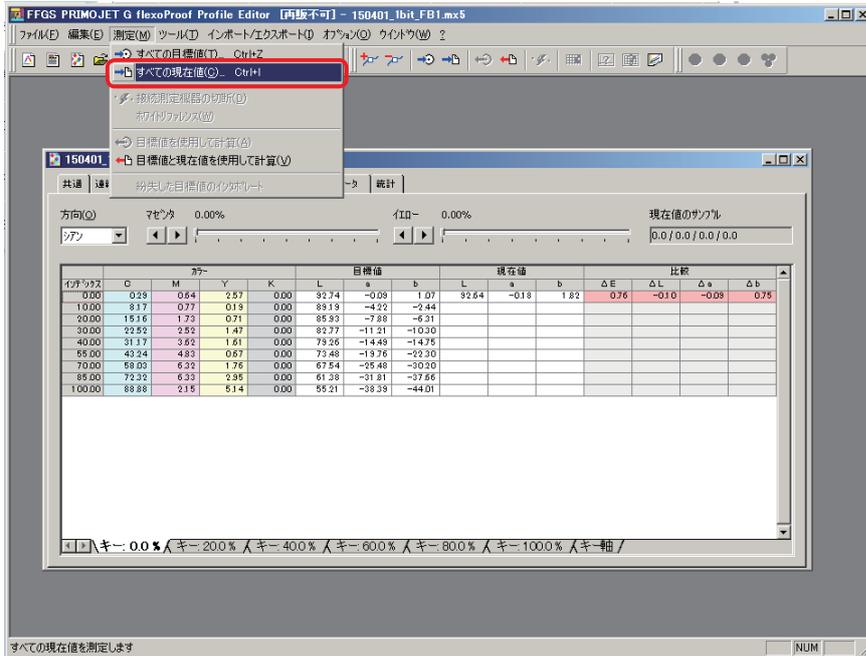
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

**STEP 5**    **STEP 4** のチャートを測色 → ターゲットと比較 → **2 回目**のFB

**24** カットしたチャートを測色器にセットしたら、プロファイルエディタの「測定」メニューから「すべての現在値」をクリックします。測色が始まります。



事前準備 1章

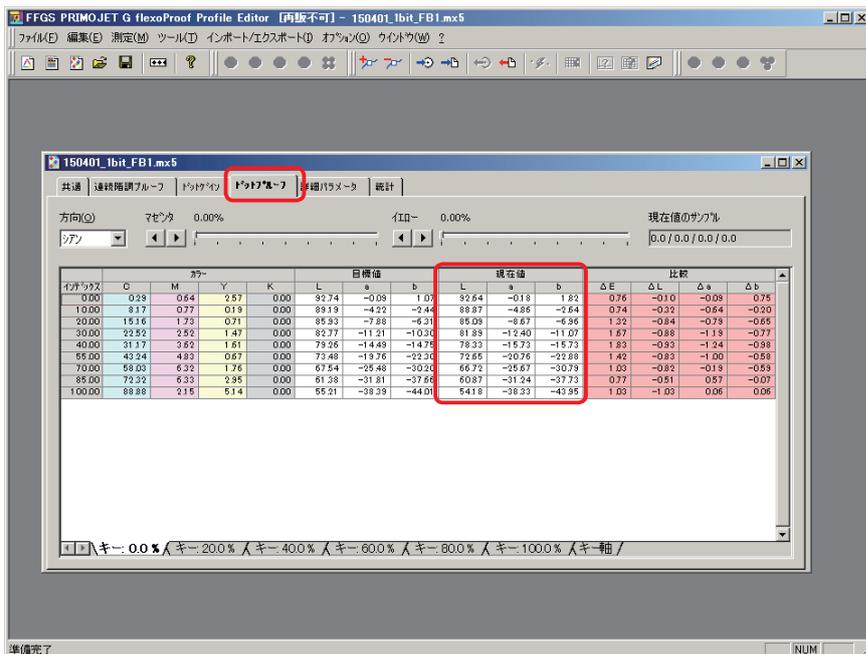
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

**25** 測色が終了すると、「ドットブルー」タブの「現在値」欄に測色値が表示されます。

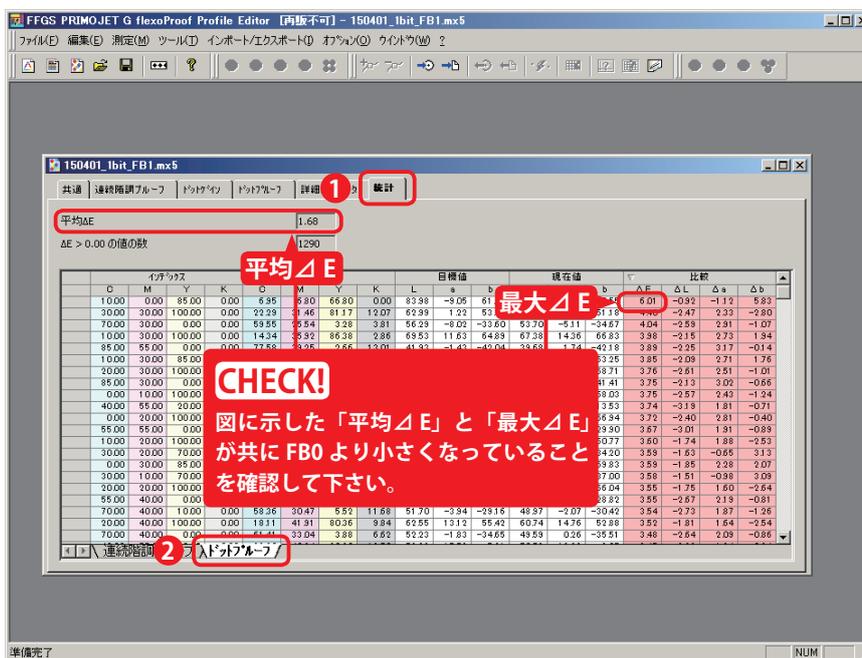


26

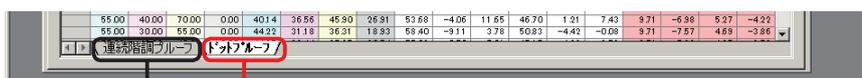
ここでターゲット印刷物(出力物)とプリンタ出力物の色差(ΔE)を確認するため、「統計」タブ(1)の「ドットブルーフ」シート(2)をクリックします。下図に示した「平均ΔE」と「最大ΔE」が共にFBO(=P70の12番で控えた数値)より小さくなっていることを確認します。また、ここでも「平均ΔE」と「最大ΔE」を控えておきます。

目安となる目標精度

品質保証紙・推奨紙の場合、「すべての値の平均」が「0.7」以下です。



- 1 事前準備
- 2 プロファイルの作成
- 3 プロファイルの適用
- 4 プロファイルの修正
- 5 その他

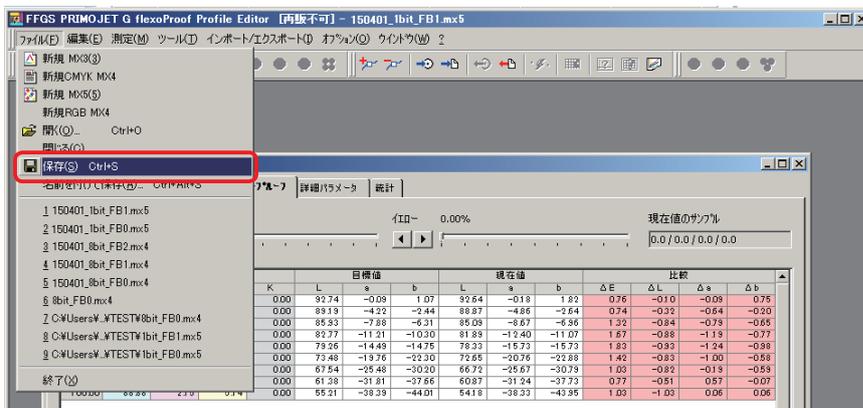


→ 1bitの測色結果を表示  
(本章ではこちらを確認)

→ 8bitの測色結果を表示

1bit用プロファイル作成時は必ず「ドットブルーフ」シートのΔEを確認して下さい。

27 「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。



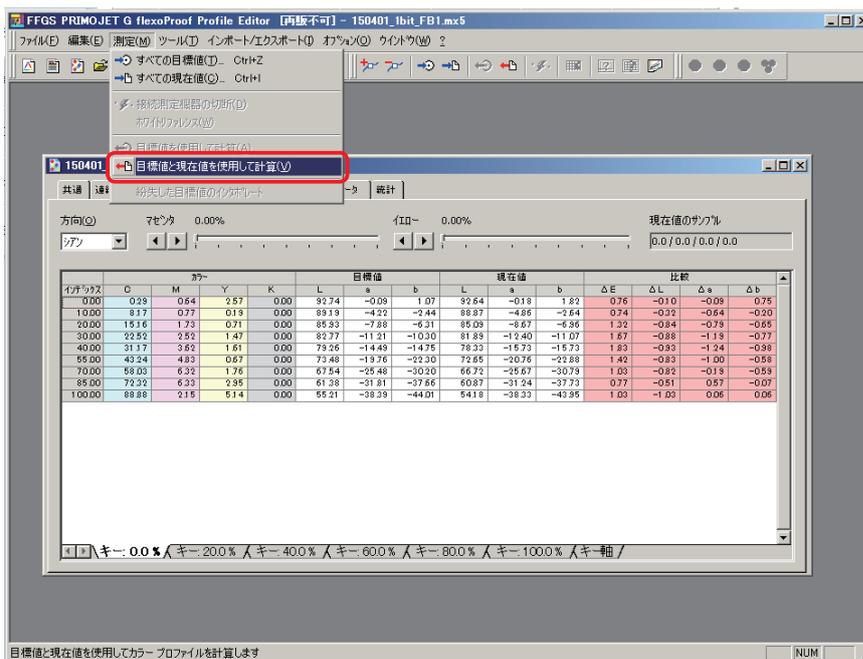
memo

ここで上書き保存しておくとΔE値表示が保持されます。上書き保存しないと次のステップで行う作業によって表示が消えてしまいます。あくまで表示が消えるだけで作業に問題はありませんが、後の工程で前作業に立ち戻ってΔE値を確認したいケースなどに備え、上書き保存してΔE表示を保持しておくことをおすすめします。

1bit プロファイル / 2 回目のフィードバック

28 再度「ドットプルーフ」タブをクリックし、「測定」メニューから「目標値と現在値を使用して計算」をクリックします。

※必ず「ドットプルーフ」タブを選択した状態で「目標値と現在値を使用して計算」をクリックして下さい。



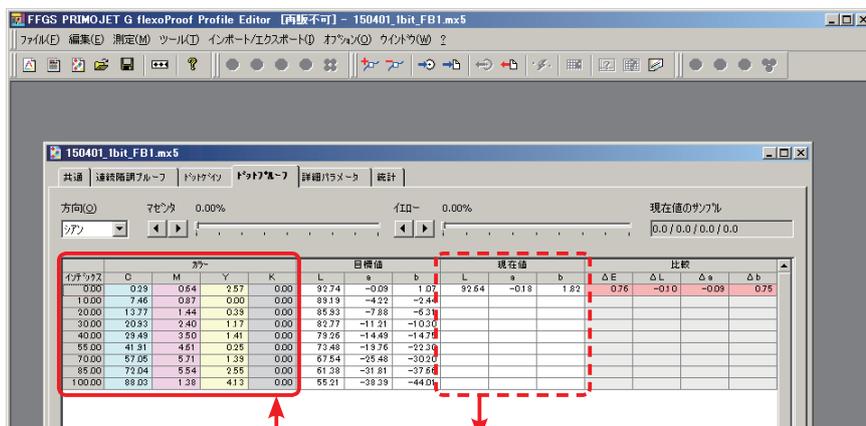
29 計算の進捗状況が表示されます。



30 以下のようなアラートが表示されたら「OK」をクリックします。



31 計算が終了すると「現在値」の表示が消え、「カラー」の値が修正されます。



「現在値」の表示が消え、「カラー」の値が修正される

1章 事前準備

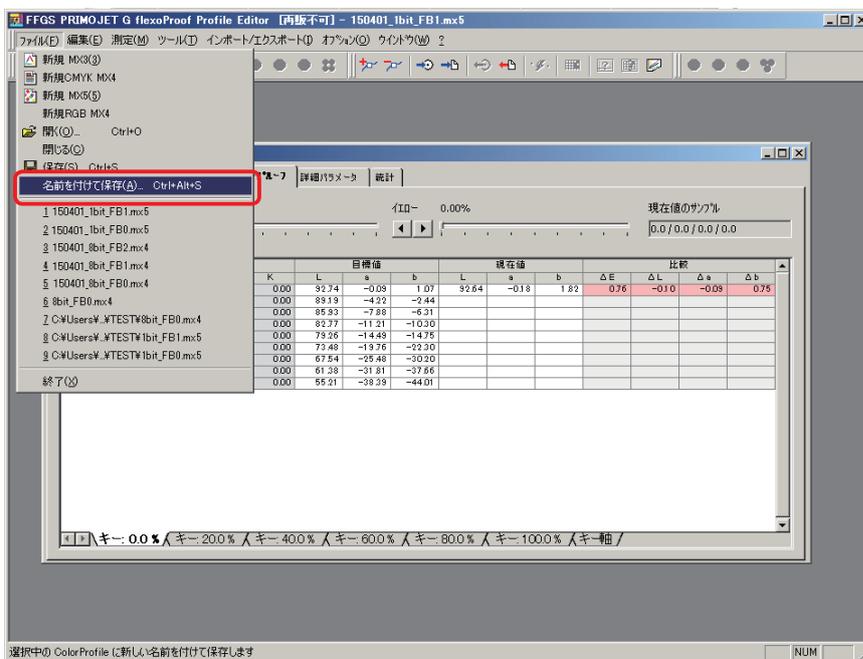
2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

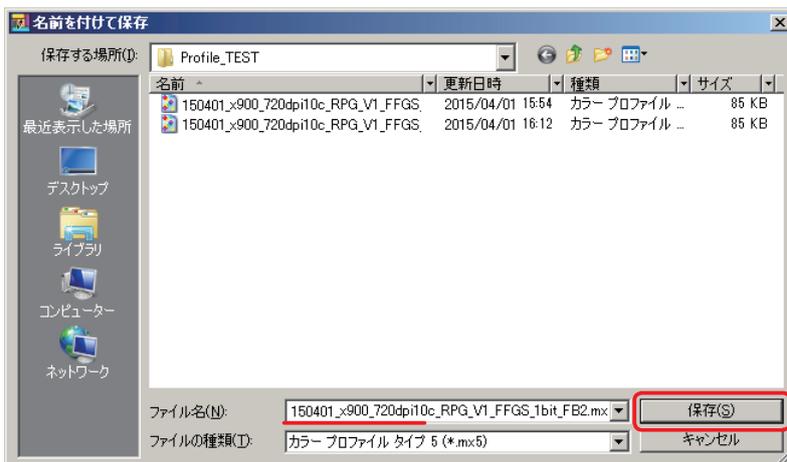
**32** 「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックします。



選択中の ColorProfile に新しい名前を付けて保存します

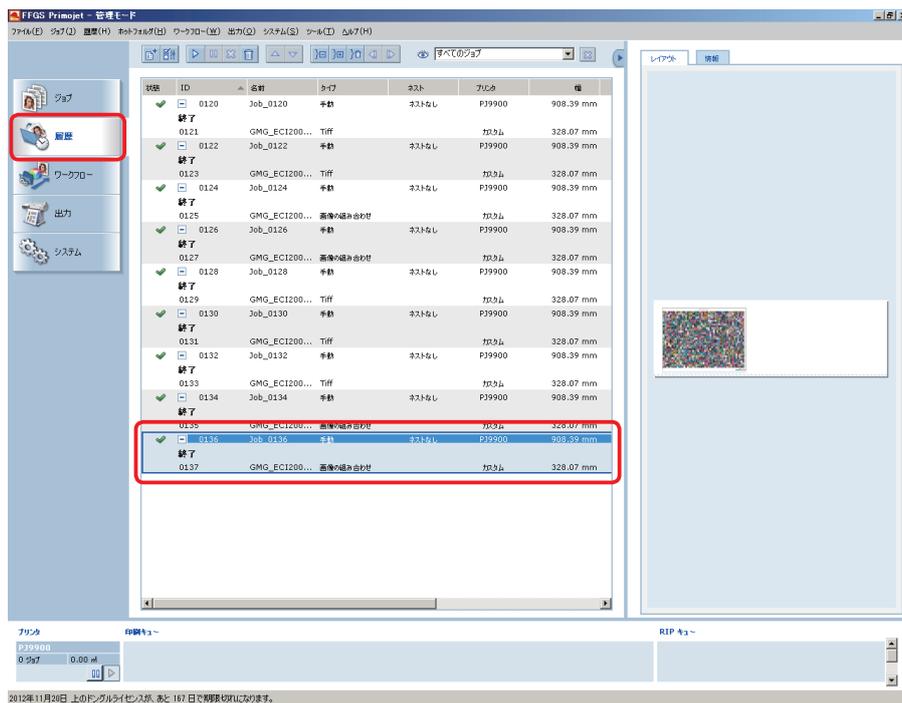
**33** ファイル名を入力したら「保存」をクリックします。ファイル名は任意で構いませんが、便宜上日付や用紙などの情報を入れておくと便利です。種類とフィードバック回数は必ず入れて下さい（赤字部分）。

例) 150401\_x900\_720dpi10c\_RPG\_V1\_FFGS\_1bit\_FB2.mx4  
 日付                      用紙                      種類      フィードバック回数



**STEP 6****STEP 5** の **(FB2)** 回の DLP を適用してチャート出力**34**

PRIMOJET に戻ります。「履歴」ビューをクリックし、先ほど出力したジョブをダブルクリックします。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

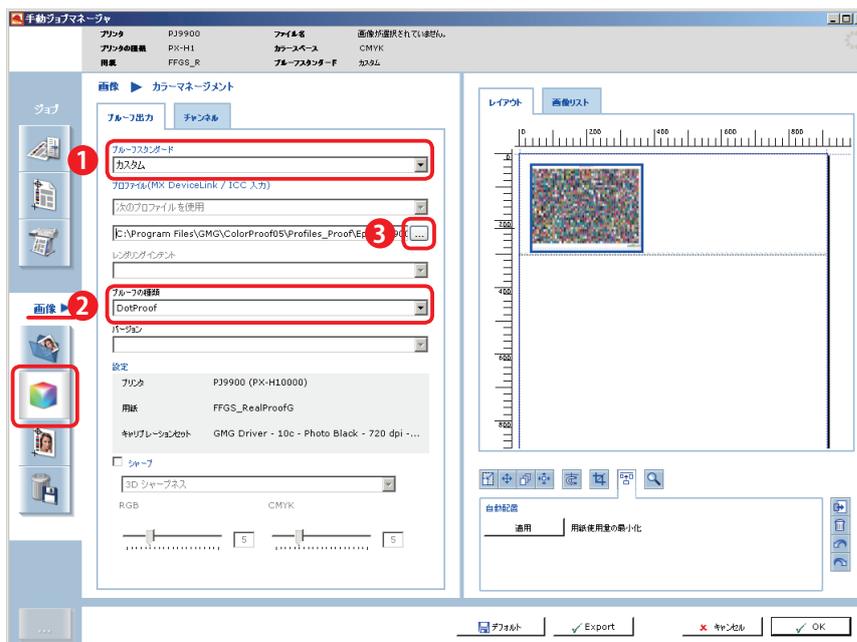
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

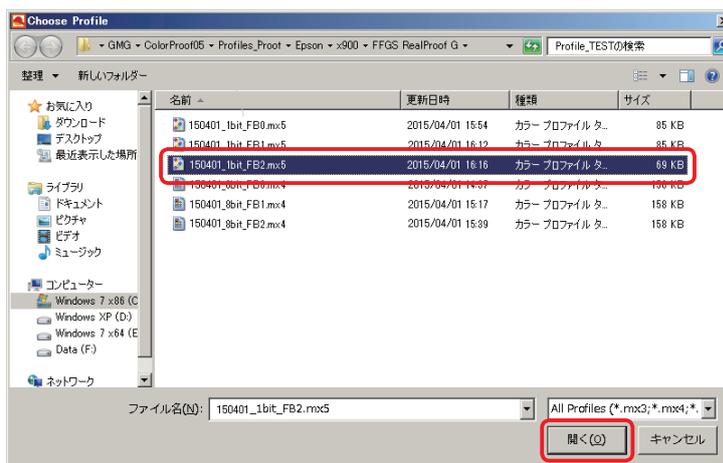
5 章 その他

**35** 手動ジョブマネージャが表示されたら以下の設定を行います (1~3)。

### 画像 / カラーマネジメント

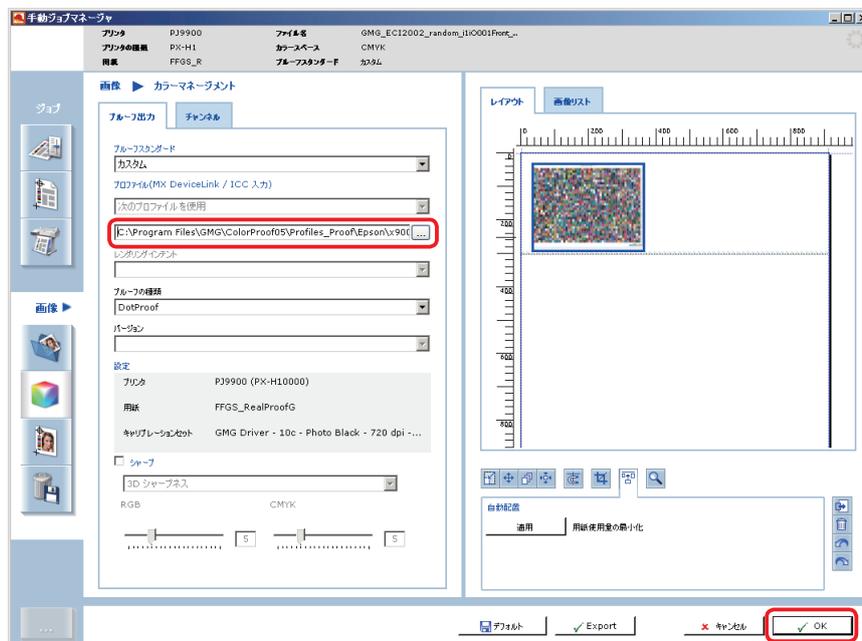


- 1 「プルーフスタンダード」 → 「カスタム」が選択されていることを確認
- 2 「プルーフの種類」 → 「DotProof」が選択されていることを確認
- 3 「...」をクリック

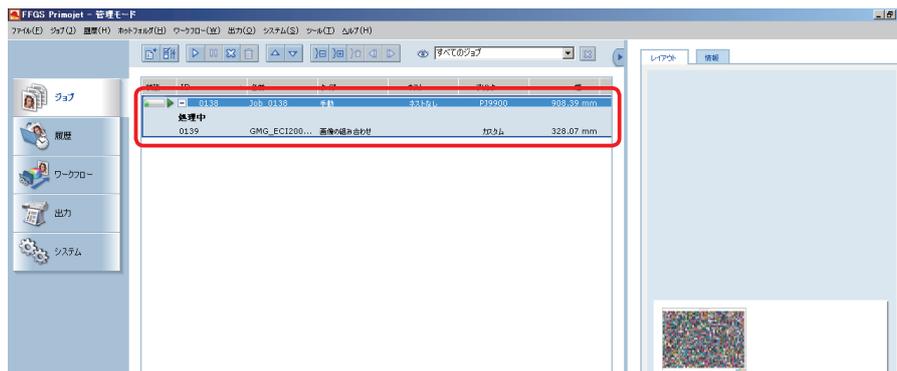


**33** 番で保存したプロファイル (\*.mx5) を選択し、「開く」をクリックします。

**36** 選択したプロファイルが指定されていることを確認したら「OK」をクリックします。



**37** チャートが出力されますので、カットして下さい。必ず乾燥させる為に時間を置いてからカットして下さい。  
 ※印刷直後はまだ色が安定していません。必ず乾燥時間を設けて下さい。  
 ※カットする際、印刷部分に定規などが当たってこすれたり剥げたりしないようご注意ください。



**<乾燥時間>**

リアルブルーフ G/R/W/O/P : 5分  
 リアルブルーフ MK : 10分

1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

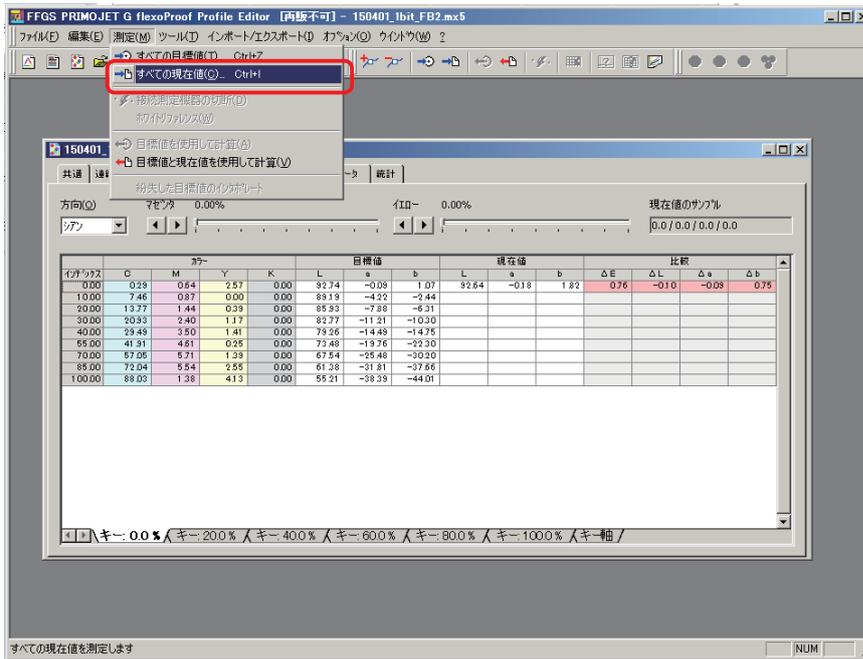
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

**STEP 7** STEP 6 のチャートを測色 → ターゲットと比較

**38** カットしたチャートを測色器にセットしたら、プロファイルエディタの「測定」メニューから「すべての現在値」をクリックします。測色が始まります。



事前準備 1章

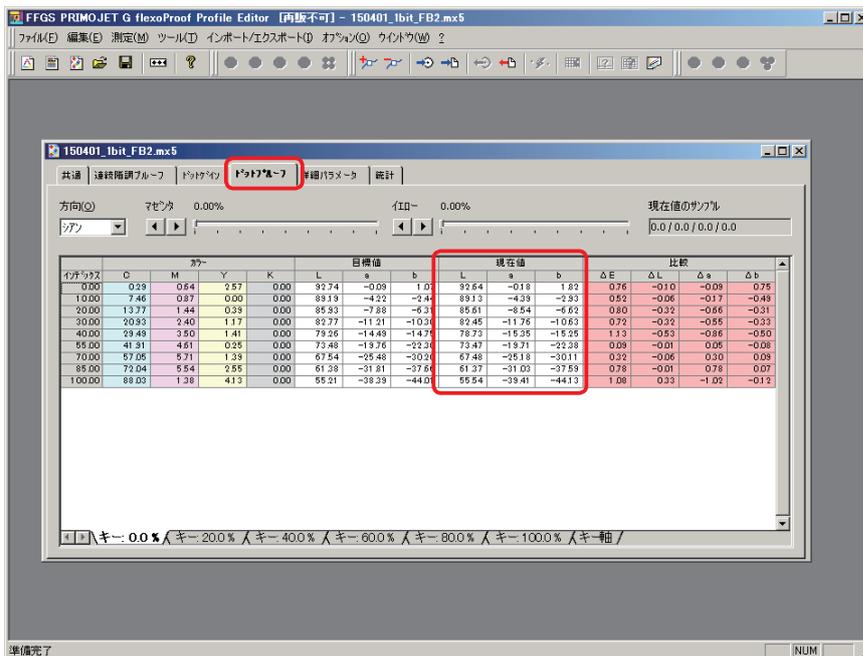
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

**39** 測色が終了すると、「ドットプルーフ」タブの「現在値」欄に測色値が表示されます。



40

ここでターゲット印刷物(出力物)とプリンタ出力物の色差( $\Delta E$ )を確認するため、「統計」タブ(①)の「ドットプルーフ」シート(②)をクリックします。下図に示した「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」が共にFB0(=P77の26番で控えた数値)より小さくなっていることを確認します。また、ここでも「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」を控えておきます。

### 目安となる目標精度

品質保証紙・推奨紙の場合、「すべての値の平均」が「0.7」以下です。

図に示した「平均 $\Delta E$ 」と「最大 $\Delta E$ 」が共にFB0より小さくなっていることを確認して下さい。

1 事前準備

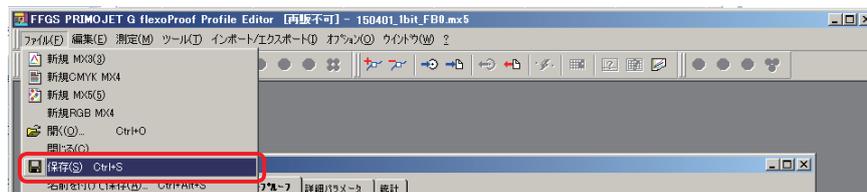
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

続いて「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。



### memo

ここで上書き保存しておくことで $\Delta E$ 値表示が保持されます。上書き保存しないと次のステップで行う作業によって表示が消えてしまいます。あくまで表示が消えるだけで作業に問題はありませんが、後の工程で前作業に立ち戻って $\Delta E$ 値を確認したいケースなどに備え、上書き保存して $\Delta E$ 表示を保持しておくことをおすすめします。

紙白除去

**41** 「0.00 (%)」の「シアン」「マゼンダ」「イエロー」「ブラック」に数値が入っている場合、紙白に色が入ります。紙白を除去したい場合は、下図のタブに対し各欄をクリック→直接「0」と入力して下さい。

**1bit プロファイル 「連続階調プルーフ」「ドットプルーフ」タブを修正**



**8bit プロファイル 「4d カラースペース」タブを修正**



**42** 紙白調整したことが分かるような名称を入力し、「保存」をクリックします。別名保存したい場合は「名前を付けて保存」して下さい。

例) 150401\_x900\_720dpi10c\_RPG\_V1\_FFGS\_1bit\_FB2\_W0.mx5  
W0=White ゼロの意



- 事前準備 **1**章
- プロファイルの作成 **2**章
- プロファイルの適用 **3**章
- プロファイルの修正 **4**章
- その他 **5**章

**STEP 8** ターゲット出力物と目視の比較 → 精度が良ければ終了  
✔ 必要であればプロファイルを調整

この段階で絵柄も含めた品質確認の出力を行い、必要であればプロファイルの色調整を行います。

1bit 運用する場合 8bit と 1bit 両方運用する場合

**色調整する必要がない**

➡ プロファイル作成作業は終了 → P90 へ進んで下さい。

**色調整する必要がある**

➡ カーブ調整したい → P102 へ進み、調整後は P90 へ進んで下さい。

➡ 部分調整したい → P120 へ進み、調整後は P90 へ進んで下さい。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

5章 その他

---

**MEMO**

# 3 章

## プロファイルの適用

- 3-1 標準設定を複製し、  
新しく作成したプロファイルを適用する ...P90

## 3章 標準設定を複製し、 1 新しく作成したプロファイルを適用する



PRIMOJET には品質保証紙・推奨紙の標準設定が搭載されています。その既存設定を複製し、新しく作成したプロファイルを適用する方法をご説明します。以下の手順に従って操作して下さい。

### memo

複製することで標準設定はそのまま残り、新たに新プロファイル用の設定を作ることが出来ます。また、最初から作成する手順も省けます。

事前準備

1章

**STEP 1** 標準設定のプルーフスタンダードを複製し、新プロファイルを適用 (P91 参照)

**STEP 2** 標準設定のホットフォルダとワークフローを複製 (P94 参照)

**STEP 3** **STEP 2** で複製したワークフローに **STEP 1** で複製したプルーフスタンダードを適用 (P100 参照)

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

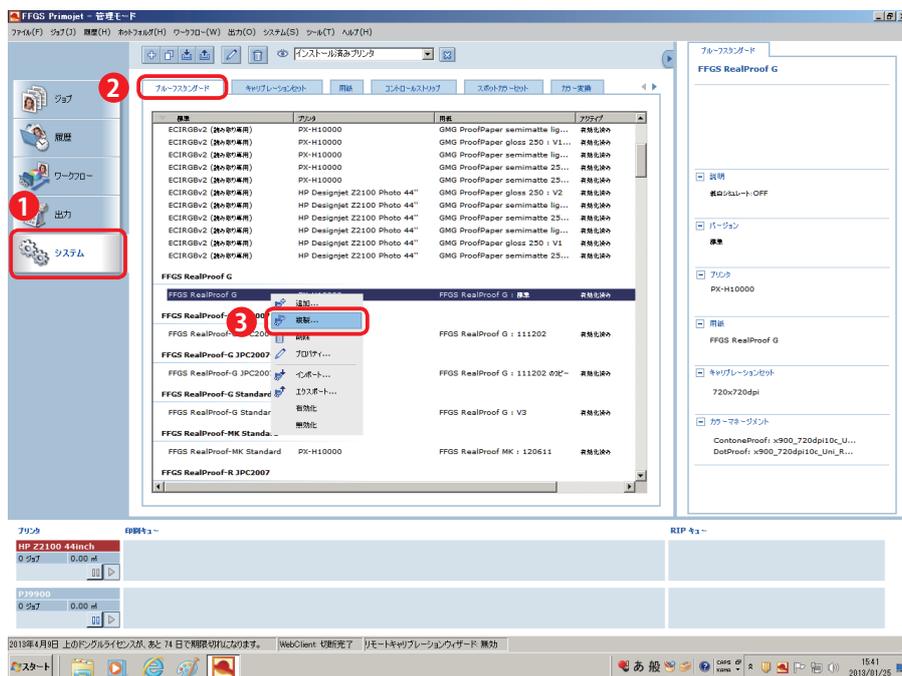
4章

その他

5章

## STEP 1 標準設定のプルーフスタンダードを複製し、新プロファイルを適用

- 1** 「システム」ビュー (1) → 「プルーフスタンダード」タブ (2) をクリックします。続いて既存の標準プルーフスタンダード (複数ある場合はよく使用している用紙の設定) (3) の上で右クリック → 「複製」をクリックします。  
※本書ではリアルプルーフ G の設定を複製する手順を説明します。



1 事前準備

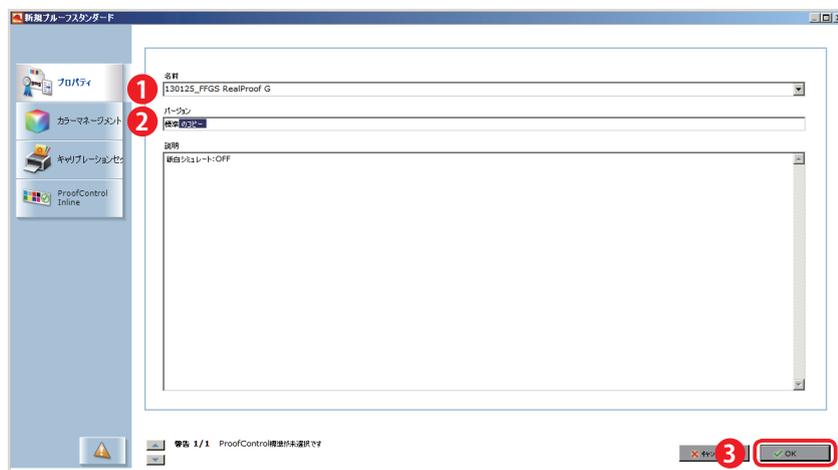
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

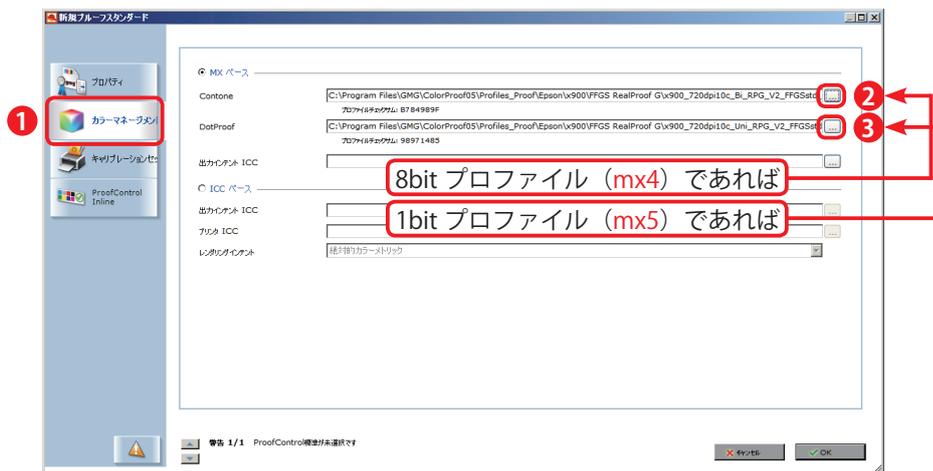
4 プロファイルの修正

5 その他

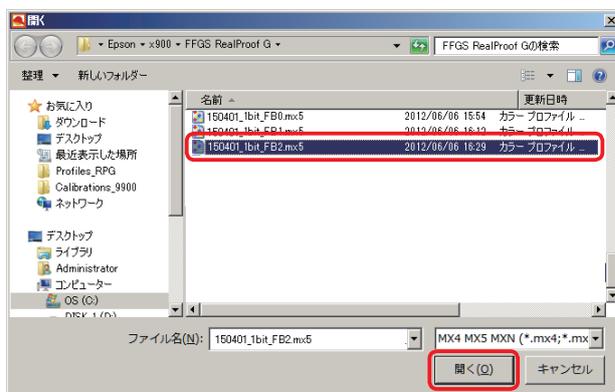
- 2** 「新規プルーフスタンダード」ウィンドウが表示されたら、「プロパティ」ビューの「名前」を任意の名前に変更 (1)、「バージョン」の「\*\*のコピー」という表記を消して (2)、「OK (3)」をクリックします。名前には便宜上、用紙名などの情報を入れておくと便利です。



**3** 「カラーマネージメント」ビュー (1) をクリックし、新しく作成したプロファイルが 8bit プロファイルであれば「Contone」の (2) を、1bit プロファイルであれば「DotProof」の (3) をクリックします。



**4** 適用したいプロファイルを選択し、「開く」をクリックします。



事前準備 1章

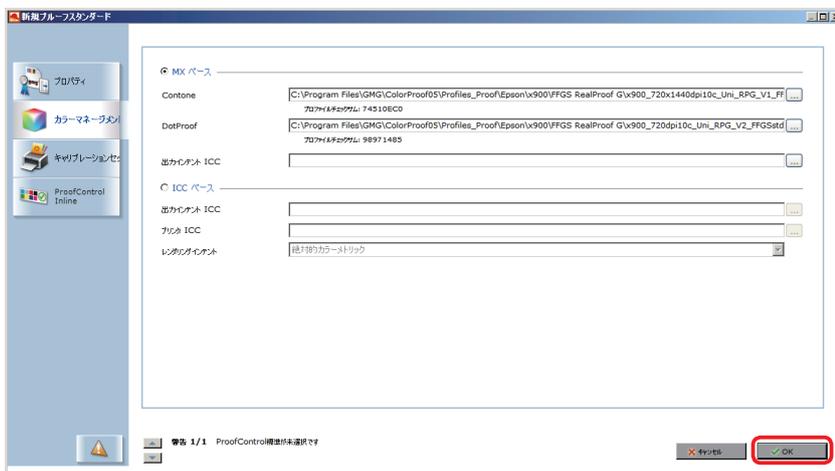
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

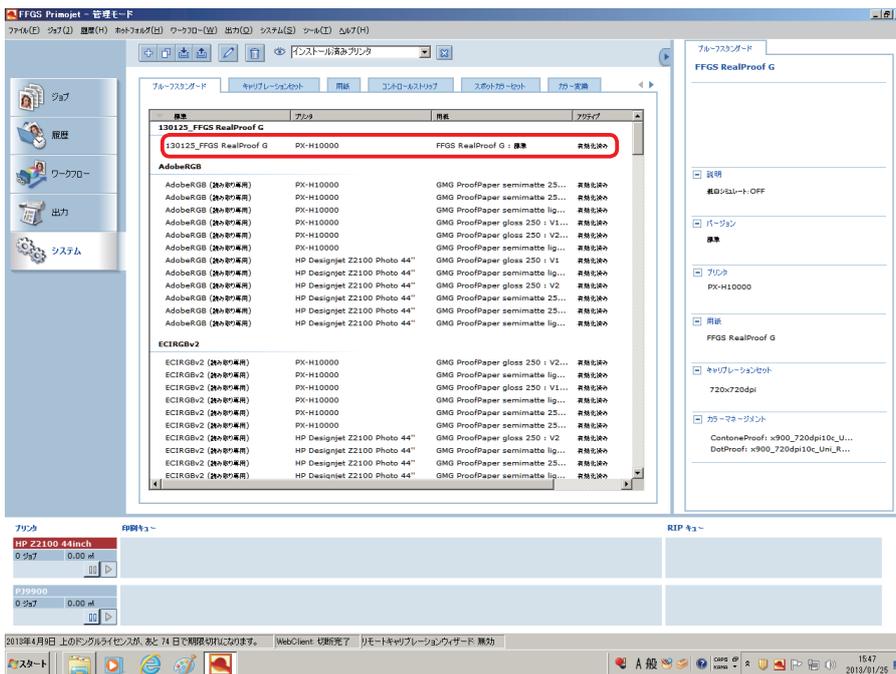
プロファイルの修正 4章

その他 5章

**5** 下図に戻ったら「OK」をクリックします。



**6** 標準設定を複製したプルーフスタンダードに新しいプロファイルが適用されました。



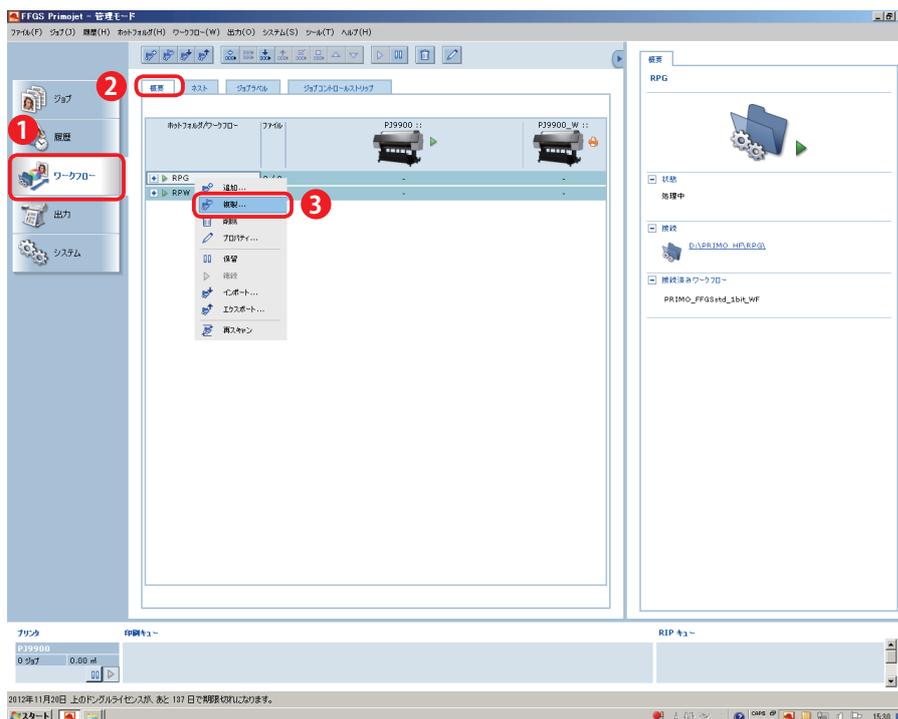
- 1 事前準備
- 2 プロファイルの作成
- 3 プロファイルの適用
- 4 プロファイルの修正
- 5 その他

**自動出力せず手動出力する場合**

手動出力で運用している場合、ここで作業終了です。「PRIMOJET-XG 操作手順書」の「手動出力をする方法」をご参照下さい。

**STEP 2** 標準設定のホットフォルダとワークフローを複製

**7** 「ワークフロー」ビュー (1) の「概要」タブ (2) をクリックし、「ホットフォルダ/ワークフロー」から標準設定のホットフォルダの上で右クリック→「複製 (3)」をクリックします。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

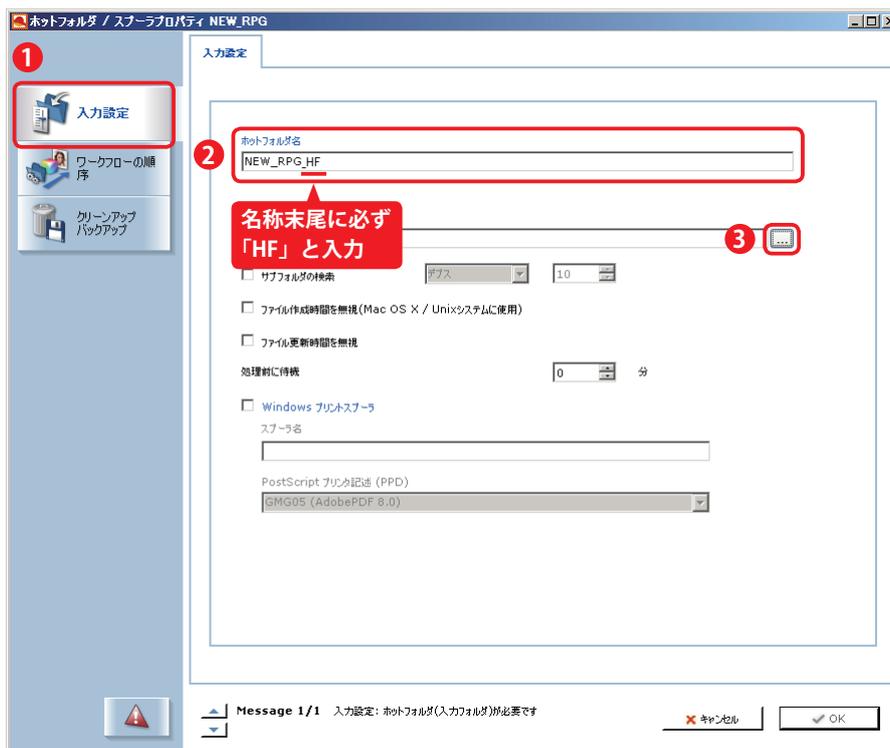
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

8

複製されたホットフォルダのウィンドウが表示されたら、「入力設定」ビュー (1) の「ホットフォルダ名 (2)」に任意の名称を入力し、「入力フォルダ」の (3) をクリックします。名称は任意で構いませんが、末尾には必ず「HF」と入力して下さい (例：△△△-HF、△△△\_HF)。「ホットフォルダ」の略称です。



1 事前準備

2 プロファイルの作成

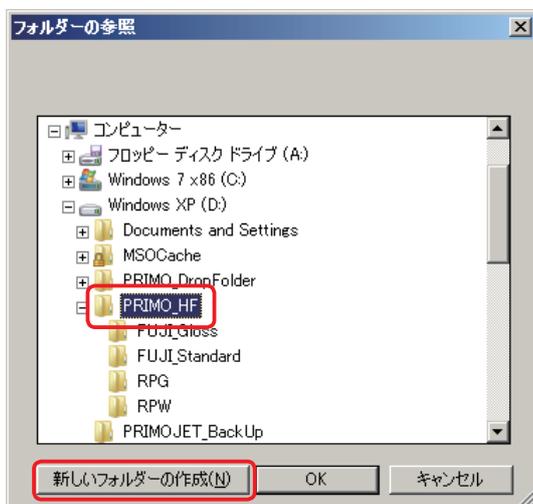
3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

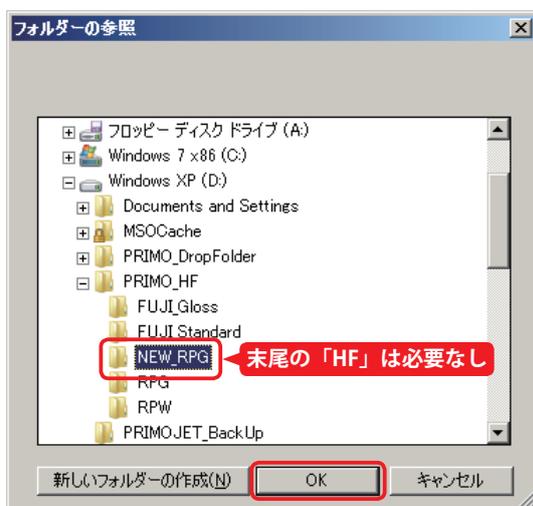
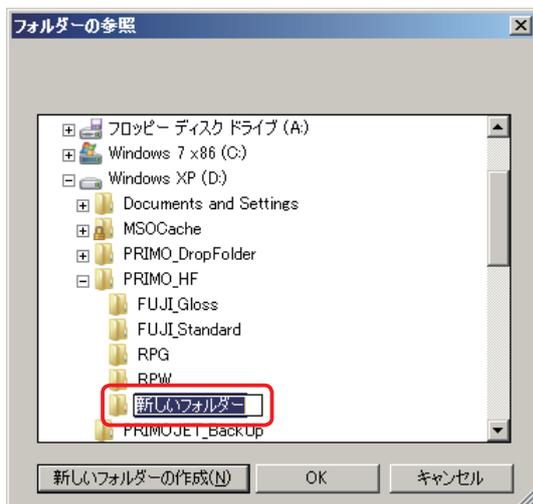
9

ホットフォルダを決定するウィンドウが表示されます。既存の PRIMO 用ホットフォルダがありますので、そのフォルダを選択した状態で「新しいフォルダの作成」をクリックします。



※フォルダの階層は任意ですが、基本的に標準設定用のホットフォルダと同一階層に作成することをおすすめします。

- 10** 新しいフォルダが作成されますので、P95の**8**番と同じ名称を入力し、「OK」をクリックします。ここでは末尾の「HF」は必要ありません。



事前準備 **1**章

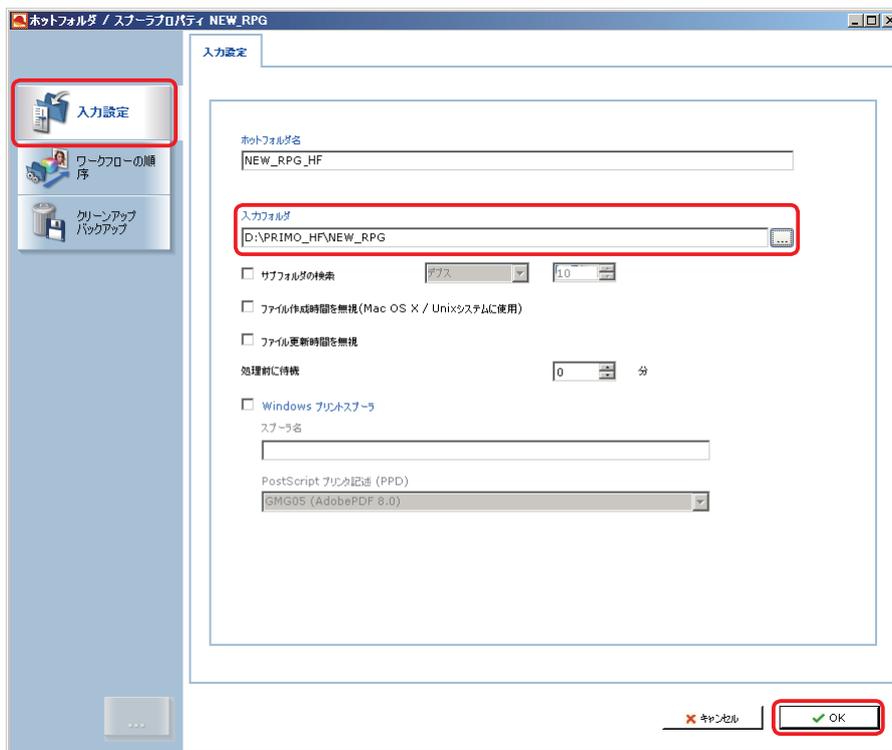
プロファイル  
の作成 **2**章

プロファイル  
の適用 **3**章

プロファイル  
の修正 **4**章

その他 **5**章

- 11** 「入力設定」ビューに戻ったら、「入力フォルダ」に **10** 番で作成したフォルダのパスが入力されていることを確認し、「OK」をクリックします。



1 章 事前準備

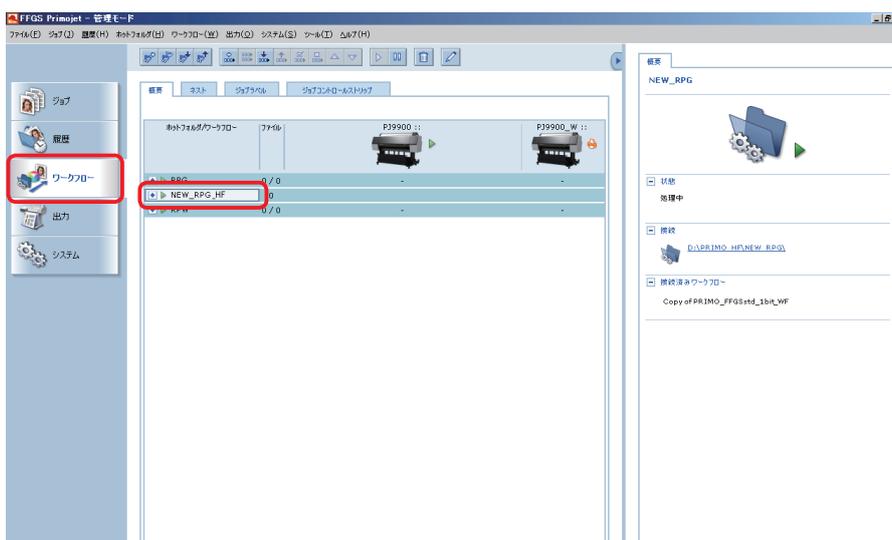
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

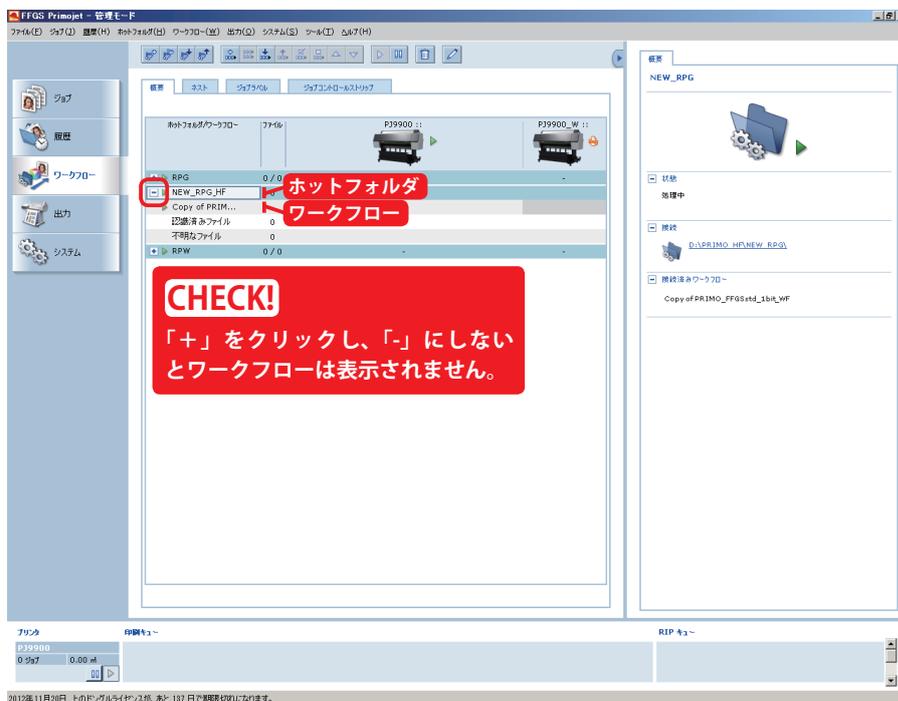
4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

- 12** 「ワークフロー」ビューに戻ります。これで標準設定のホットフォルダが複製されました。引き続きこのホットフォルダに新しいプロファイル用の設定をしていきます。



**13** ホットフォルダを複製すると、同時にワークフローも複製されます。複製したホットフォルダの「+」をクリックして展開し、ワークフローを表示させます。



事前準備 1章

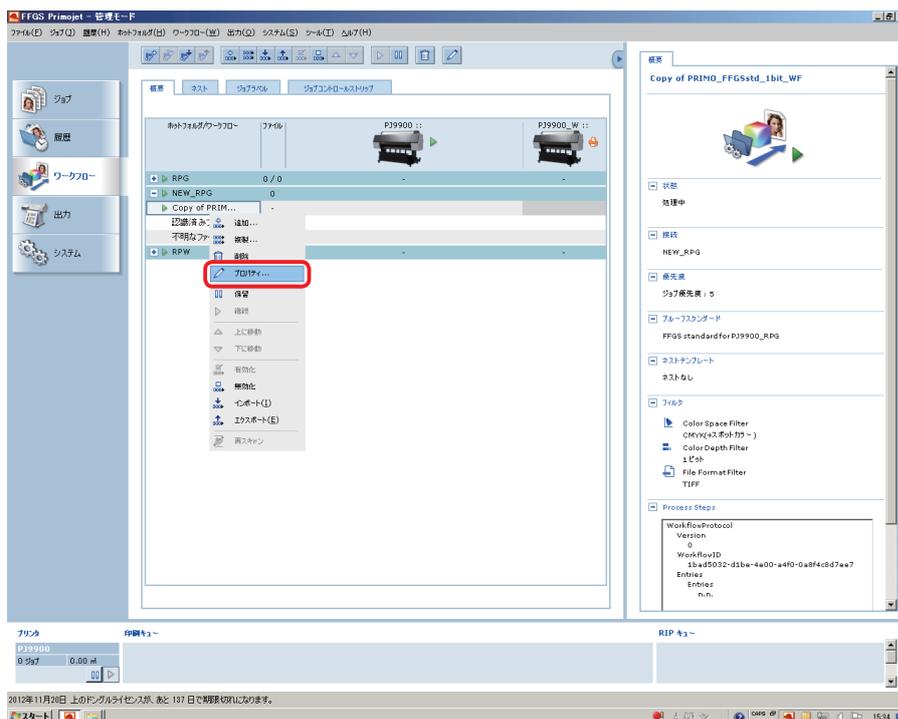
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

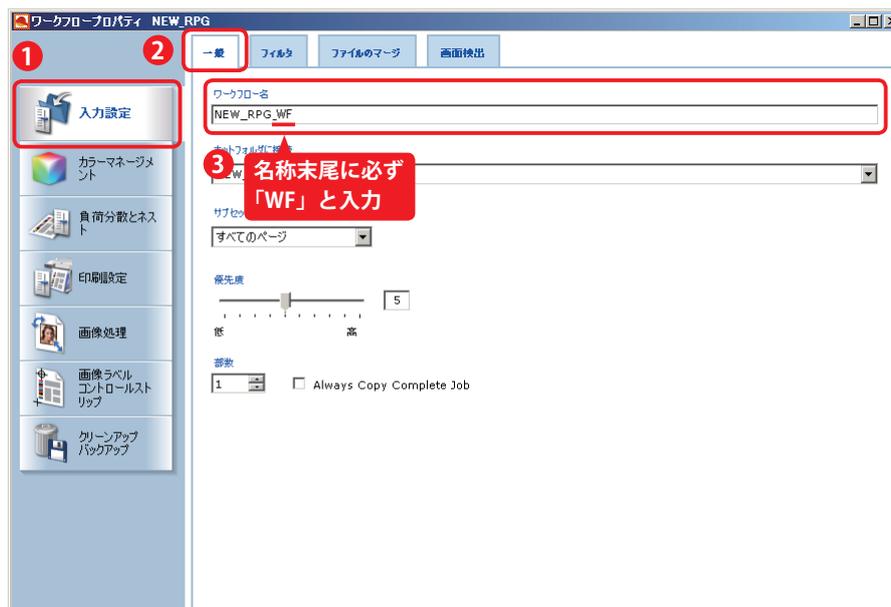
プロファイルの修正 4章

その他 5章

**14** 表示させたワークフロー（複製されたワークフロー）の上で右クリック→「プロパティ」をクリックします。ワークフローをダブルクリックしても構いません。



- 15** 「ワークフロープロパティ」ウィンドウが開いたら、「入力設定」ビュー (1) の「一般」タブ (2) をクリックし、「ワークフロー名 (3)」に P95 の 8 番と同じ名称を入力します。名称は任意で構いませんが、末尾には必ず「WF」と入力して下さい (例: △△△-WF、△△△\_WF)。「ワークフロー」の略称です。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

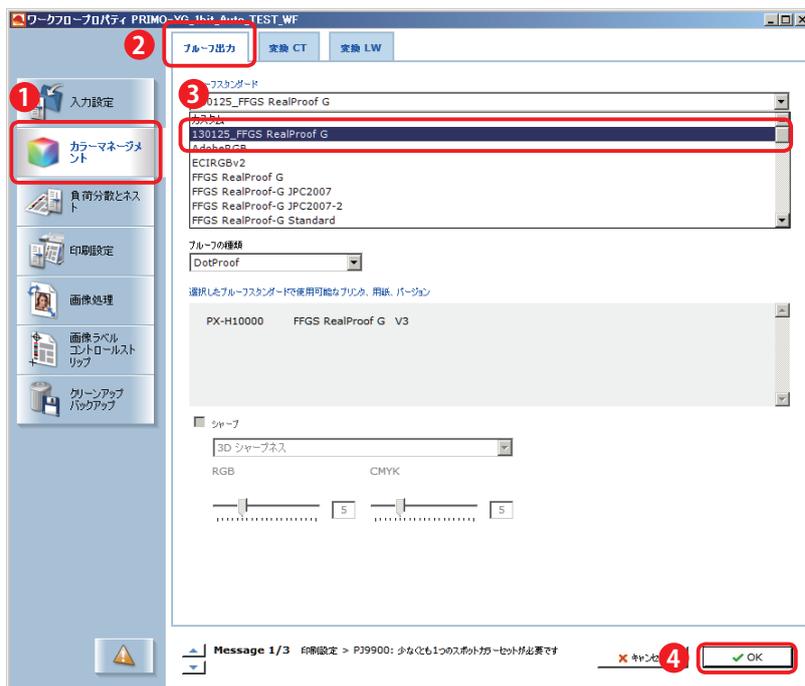
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

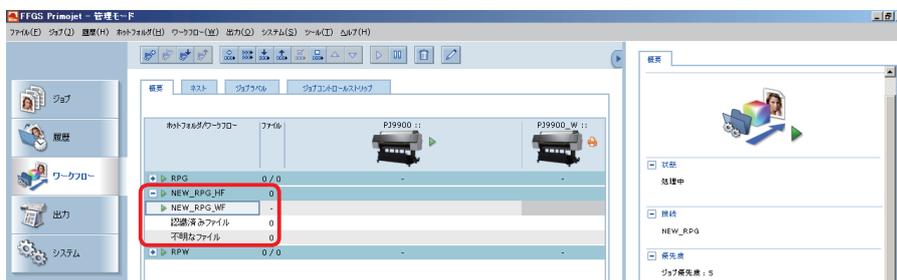
5 章 その他

**STEP 3** 複製したワークフローに **STEP 1** で複製したプルーフスタンダードを適用

**16** ワークフローの「カラーマネージメント」ビュー (1) の「プルーフ出力」タブ (2) をクリックし、「プルーフスタンダード (3)」から **STEP 1** で複製したプルーフスタンダードを選択、「OK (4)」をクリックします。



**17** これで新しいプロファイル用の出力設定が作成されました。出力確認を行って下さい。



### ホットフォルダへの 1bitTiff 入力について

ホットフォルダへ 1bitTiff を入力するには、ご使用の RIP の 1bitTiff 書き出し設定を追加・変更する必要があります。設定手順はお使いの RIP の製造元へお問合せ下さい。

# 4 章

## プロファイルの修正

4-1 カーブ調整をする ...P102

4-2 部分調整をする ...P120

## 4 章

## 1

## カーブ調整をする

## HOW TO



以下の手順に従って操作して下さい。

## 注意



下記手順は 1bit 用 mx5 の調整方法です (mx5 を 1bit と 8bit の両方で使用している場合も mx5 内で調整することが出来ます)。

➡ 8bit 用 mx4 の調整方法→ P112 をご参照下さい。

事前準備

1 章

## 作業の流れ

## STEP 1

プロファイルエディタで調整したい mx5 プロファイルを開く (P103 参照)

## STEP 2

「ドットゲイン」タブを選択 (P105 参照)

## STEP 3

調整ポイントを削除・追加 (P106 参照)

## STEP 4

調整ポイントの数値を変更 (P109 参照)

## STEP 5

名前を付けてプロファイルを別名保存 (P110 参照)

## STEP 6

**STEP 5** のプロファイルをジョブに適用して出力確認 (P111 参照)

プロファイル  
の作成

2 章

プロファイル  
の適用

3 章

プロファイル  
の修正

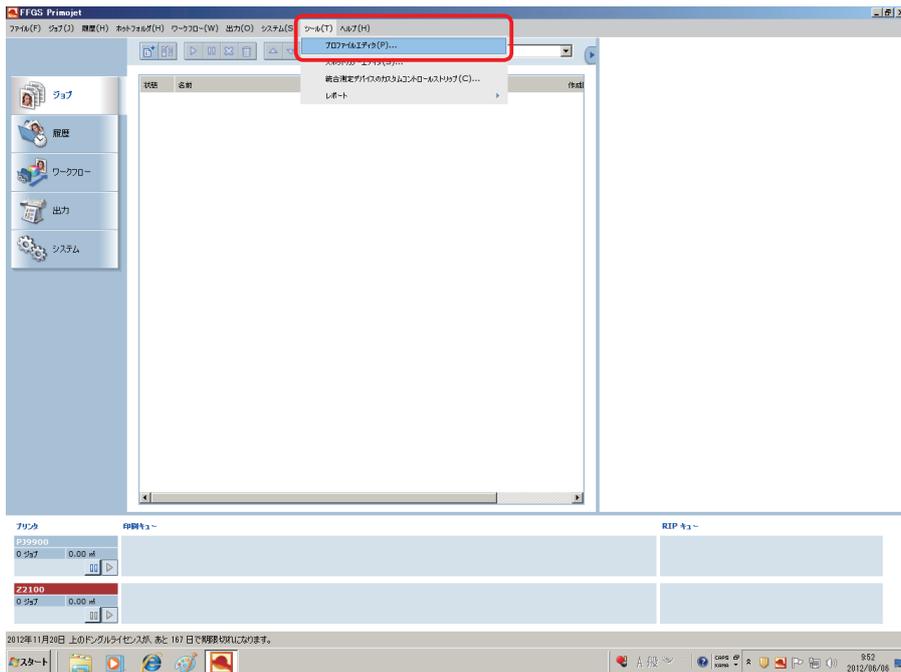
4 章

その他

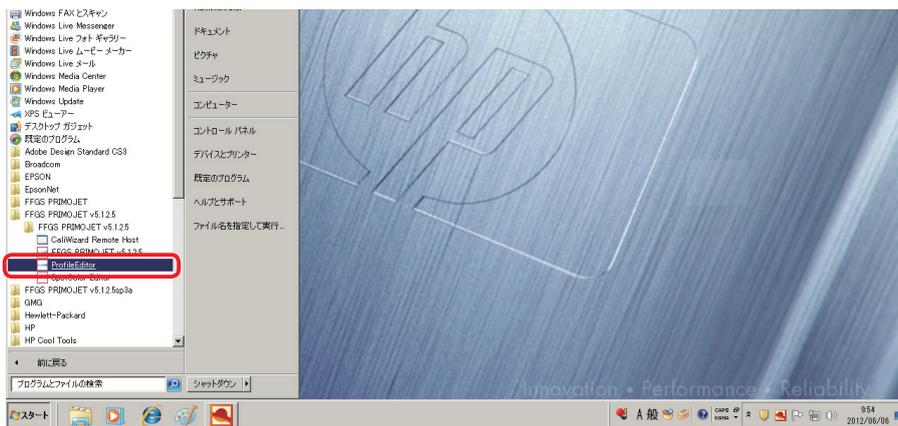
5 章

**STEP 1** プロファイルエディタで調整したいプロファイルを開く

**1** PRIMOJET-XGの「ツール」メニューから「プロファイルエディタ」をクリックします。



もしくは、Windowsの「スタート」メニューから「FFGS PRIMOJET v5.x.x.x」下の「ProfileEditor」をクリックします。



1 事前準備

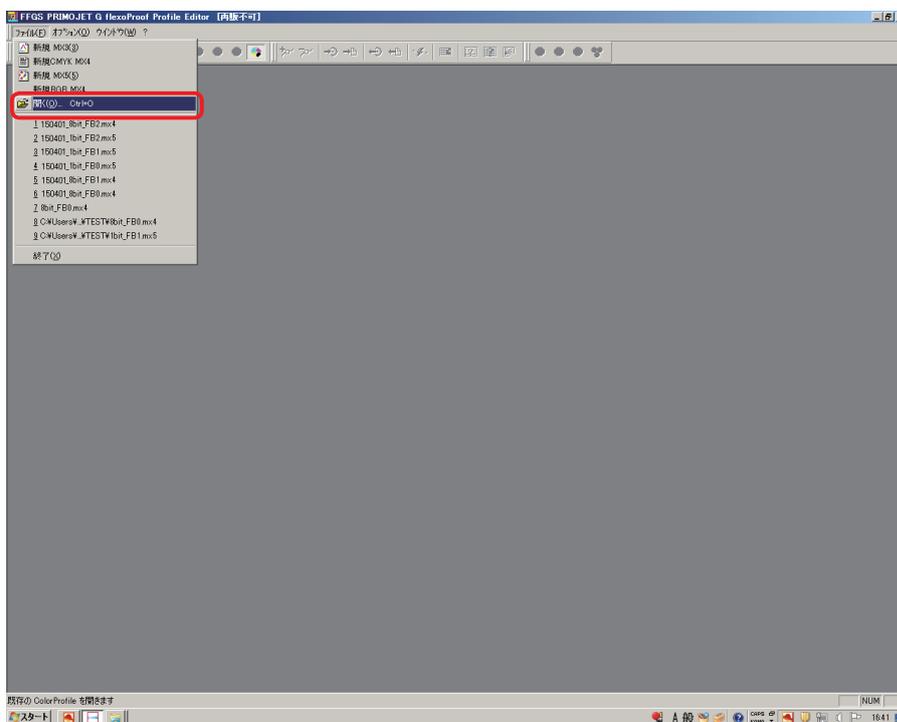
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

- 2** プロファイルエディタ (= FFGS PRIMOJET G flexProof Profile Editor) が起動したら、「ファイル」メニューから「開く」をクリックします。



事前準備 **1**章

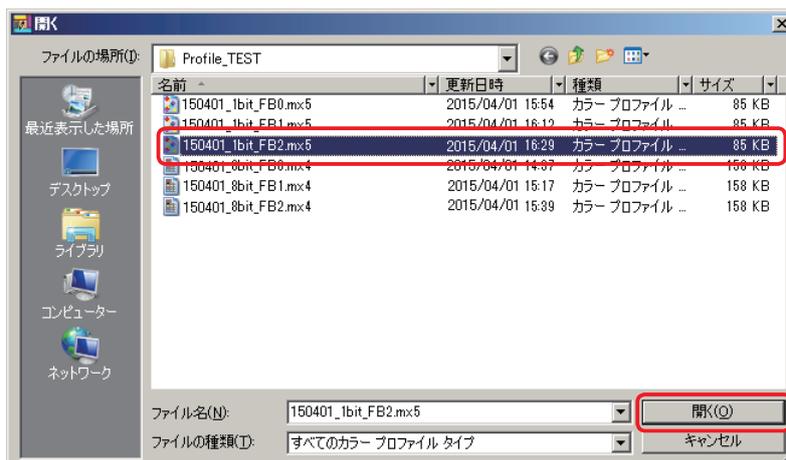
プロファイル  
の作成 **2**章

プロファイル  
の適用 **3**章

プロファイル  
の修正 **4**章

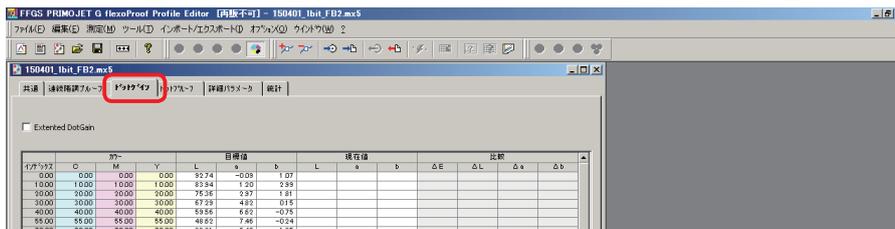
その他 **5**章

- 3** 調整したいプロファイル (\*.mx5) を選択し、「開く」をクリックします。



**STEP 2** 「ドットゲイン」タブを選択

**4** 続いて「ドットゲイン」タブをクリックします。



mx5 を 1bit と 8bit の両方で使用している場合

mx5 内でどちらも調整することが出来ます。

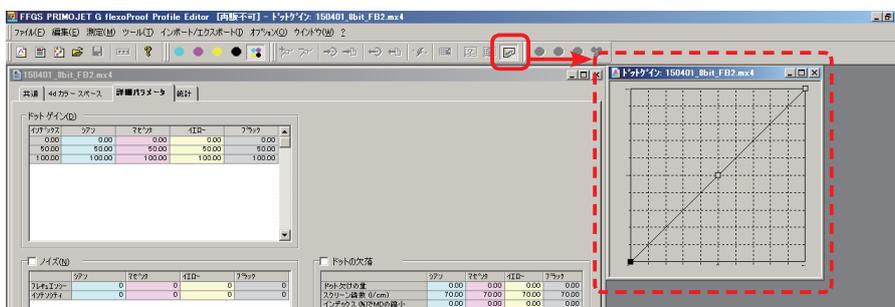
- ◆ 1bit を調整したい場合 = 「ドットゲイン」タブ
- ◆ 8bit を調整したい場合 = 「詳細パラメータ」タブ



**!** 重要

必ず調整したいタブが選択された状態で調整して下さい。誤って違うタブを選択すると意図する調整が行われませんのでご注意ください。

**5** 各プロファイルに「グラフィック表示」ボタンがあります。をクリックするとカーブが表示されますので、目視でイメージしやすくなります。



1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

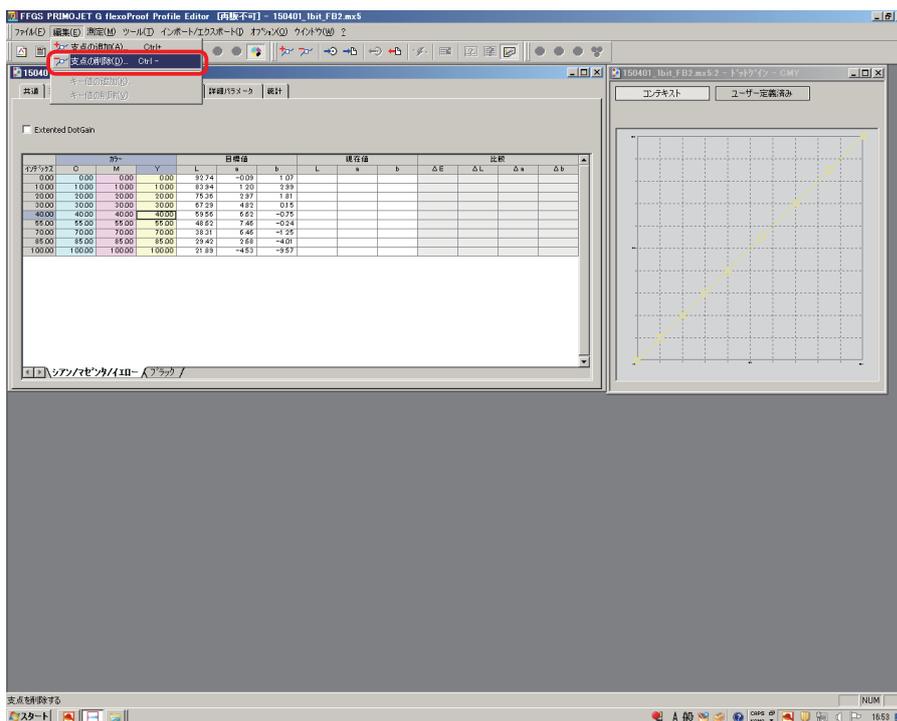
3章 プロファイルの適用

4章 プロファイルの修正

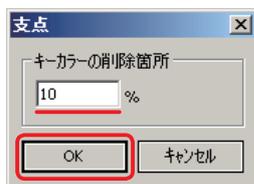
5章 その他

**STEP 3** 調整ポイントを削除・追加

**6** デフォルトでは「0.00」から「100.00」の間に調整ポイントが複数あります。調整ポイントが多過ぎると滑らかな階調にならずジャンプする可能性がある為、まずポイントを減らします。「編集」メニューから「支点の削除」をクリックします。



**7** 以下ウィンドウが表示されたら、まず「10」と入力して「OK」をクリックします。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

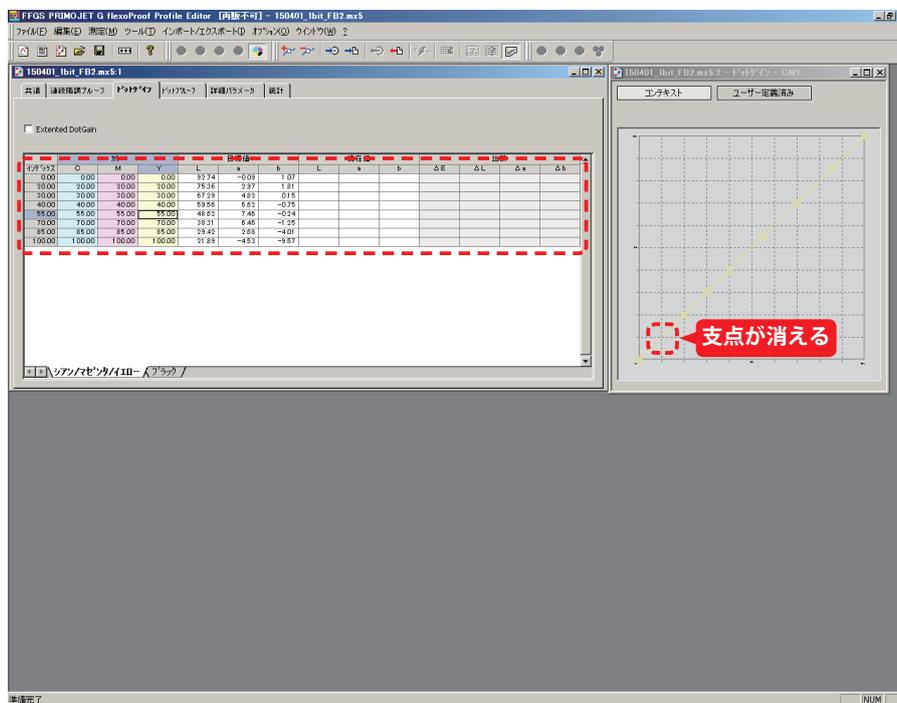
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

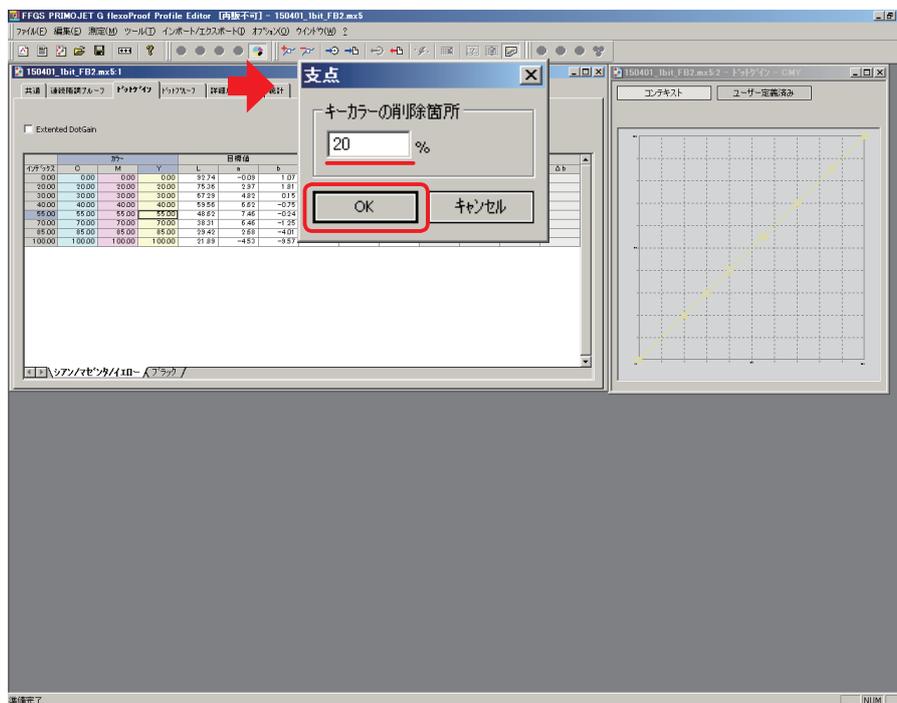
8

10%の調整ポイントが消えます。



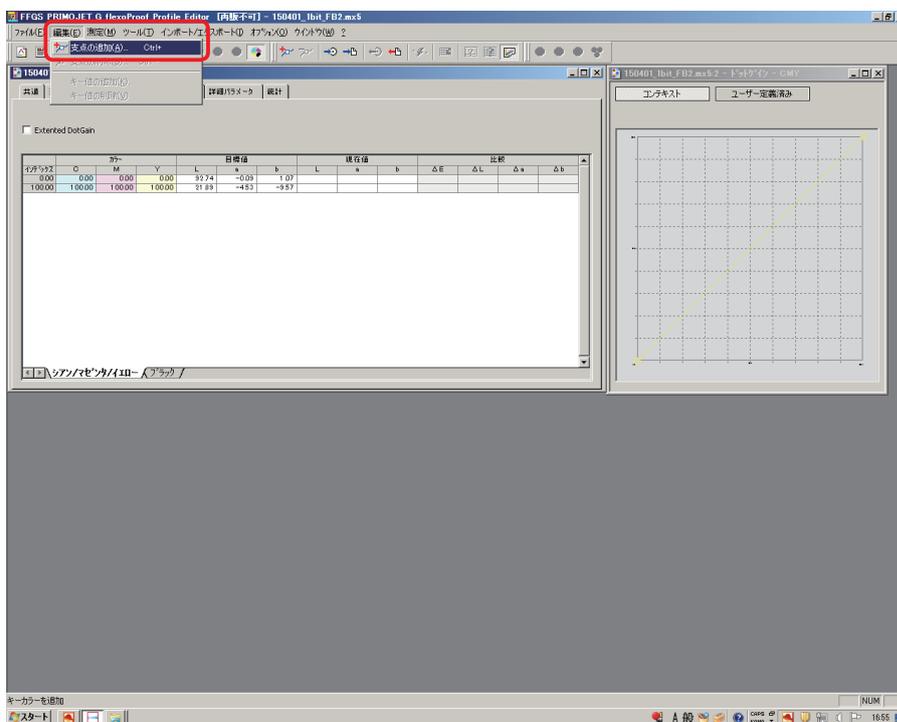
9

「支点の削除」を繰り返し、調整ポイントが「0.00」、「100.00」だけになります。



- 1 事前準備
- 2 プロファイルの作成
- 3 プロファイルの適用
- 4 プロファイルの修正
- 5 その他

**10** 支点が「0.00」と「100.00」だけになったら、「編集」メニューから「支点の追加」をクリックします。



事前準備 1章

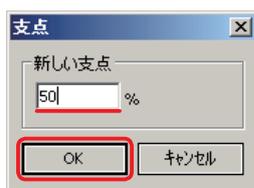
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

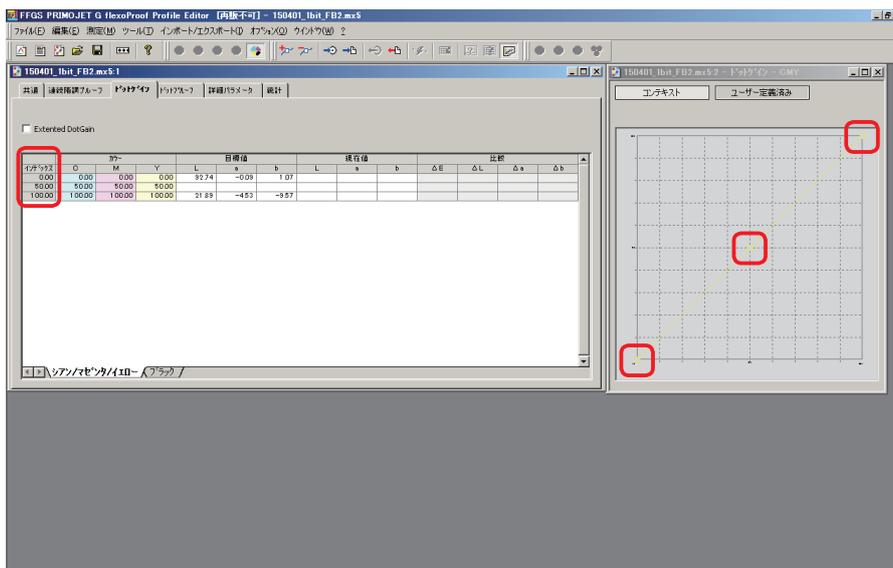
その他 5章

**11** 以下ウィンドウが表示されたら、調整したいポイントを入力し、「OK」をクリックします。ここでは中間を調整することを想定し、例として「50」と入力しています。



**STEP 4** 調整ポイントの数値を変更

**12** 支点が「0.00」、「50.00」、「100.00」の3点になりました。このようになるべく支点の少ない状態から調整することをおすすめします。

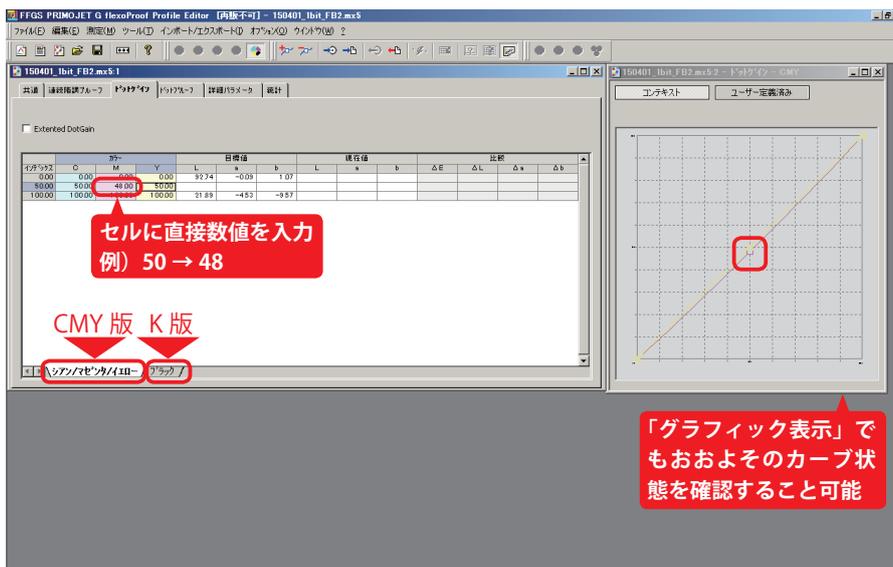


1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

**13** 調整したい数値を直接セルに入力します。CMY版の調整は「シアン/マゼンダ/イエロー」タブを、K版の調整は「ブラック」タブを選択して下さい。  
※ここでは中間の赤みを抑える目的でマゼンダを「50→48」に変更しています。



4章 プロファイルの修正

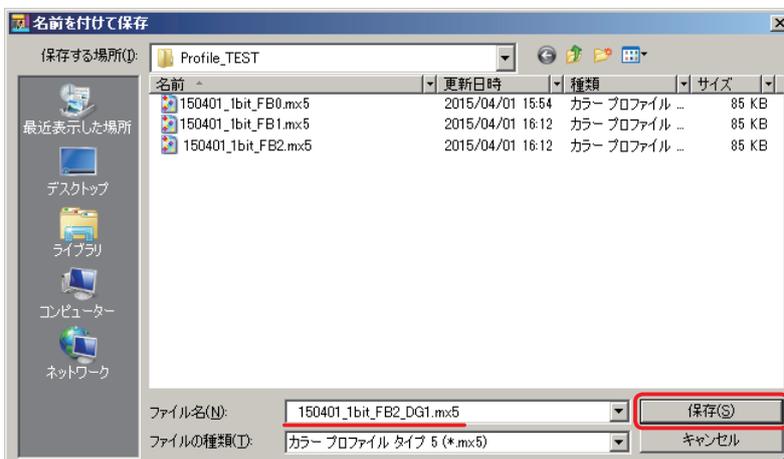
5章 その他

**STEP 5** 名前を付けてプロファイルを別名保存

**14** 調整したい支点を追加・削除しながら必要な作業を繰り返します。調整が終了したら、「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックします。



**15** 調整したことが分かる名称を入力し、「保存」をクリックします。  
例) 150401\_1bit\_FB2\_DG1.mx5 (DG = Dotgain/ ドットゲインの略)



事前準備 1章

プロファイル  
の作成 2章プロファイル  
の適用 3章プロファイル  
の修正 4章

その他 5章

**STEP 6****STEP 5** のプロファイルをジョブに適用して出力確認**16**

出力確認を行って下さい。



プロファイルの適用方法は本書の3章「プロファイルの適用」をご参照下さい。

出力結果を確認した上で更に調整を加えたい場合、**15** 番のプロファイルを開いて追加調整し、別名保存して下さい。例) 150401\_1bit\_FB2\_DG2.mx5  
追番をつける

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

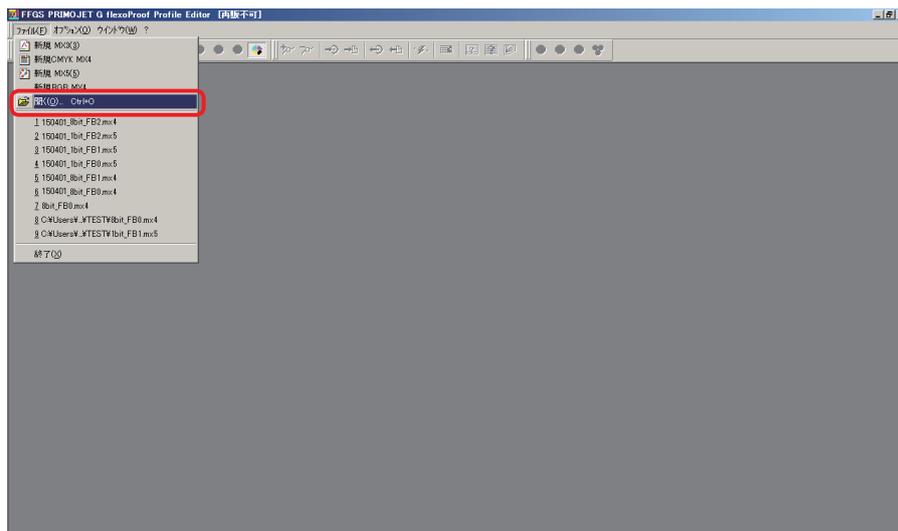
4章 プロファイルの修正

5章 その他

## 8bit プロファイル (mx4) をカーブ調整する場合

1

「ファイル」メニューから「開く」をクリックします。



事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

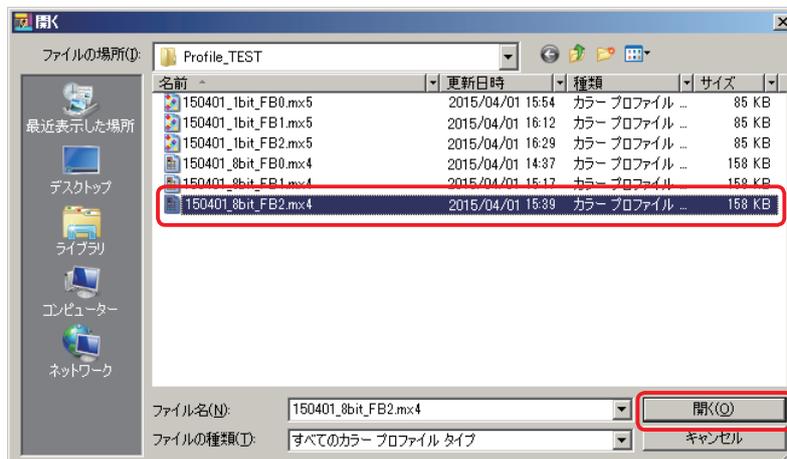
4章

その他

5章

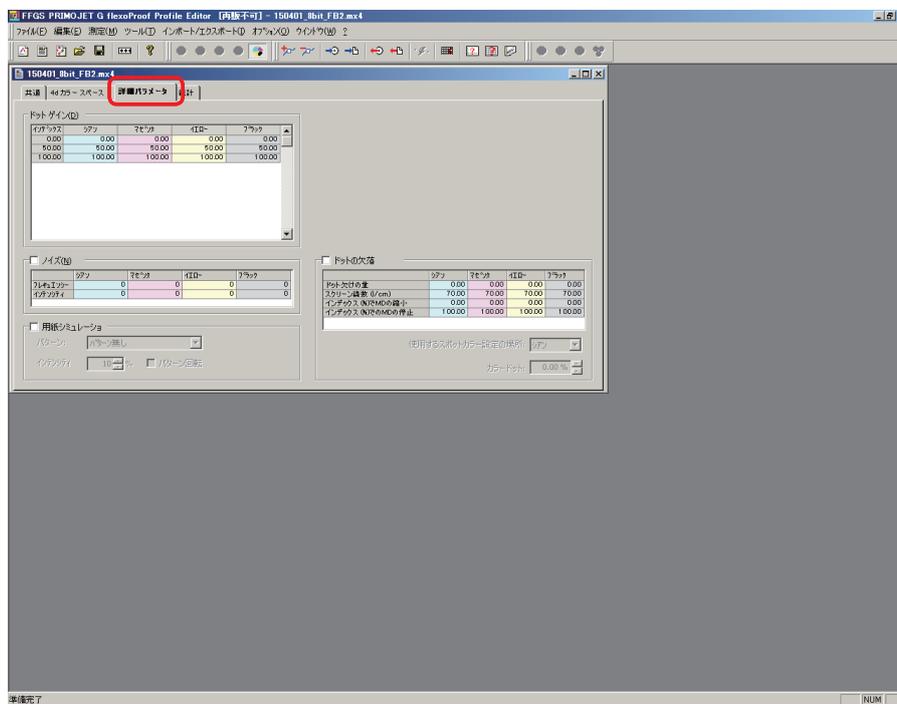
2

調整したいプロファイル (\*.mx4) を選択し、「開く」をクリックします。



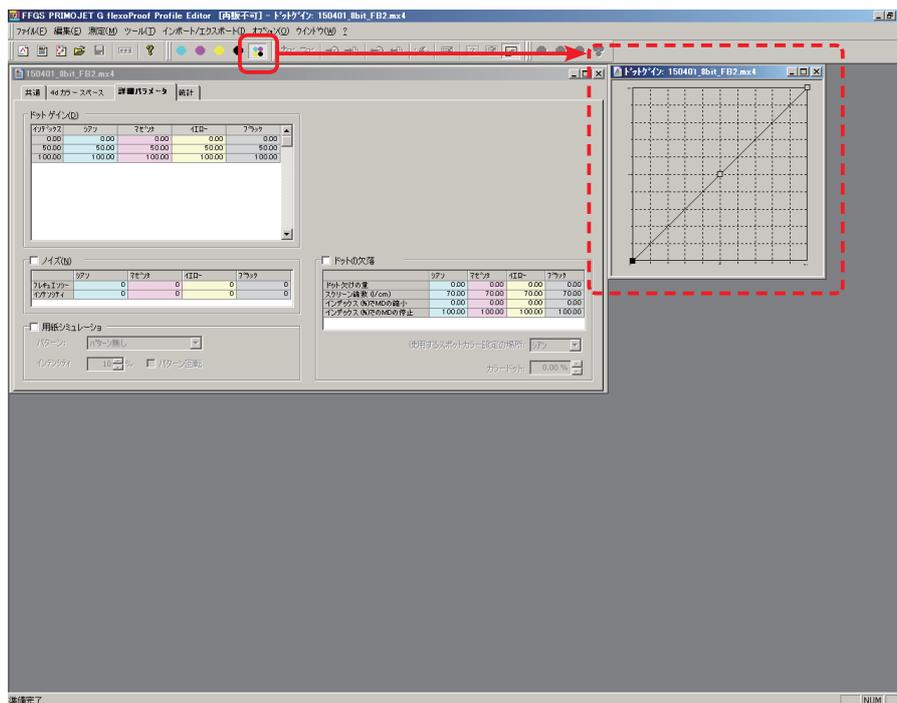
3

プロファイルが開いたら、「詳細パラメータ」タブを選択します。



4

「グラフィック表示」ボタンをクリックするとカーブが表示されますので、目視でイメージしやすくなります。



1 事前準備

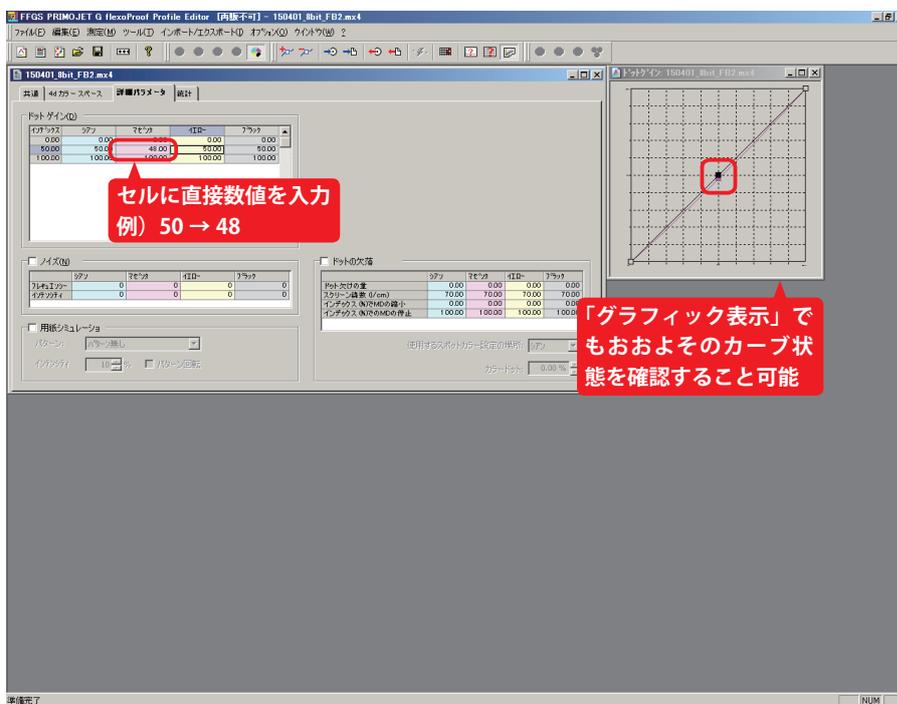
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

**5** 調整したい数値を直接セルに入力します。  
 ※ここでは中間の赤みを抑える目的でマゼンダを「50 → 48」に変更しています。



事前準備 **1**章

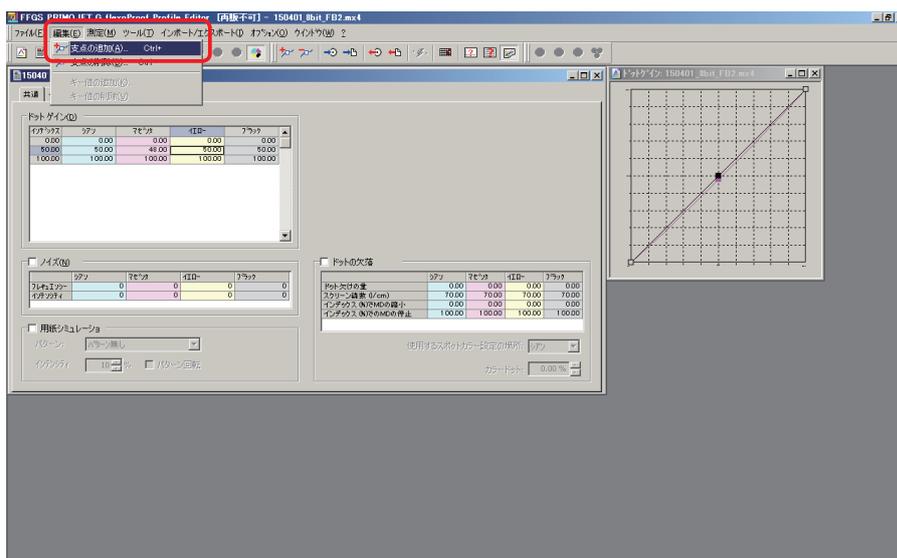
プロファイルの作成 **2**章

プロファイルの適用 **3**章

プロファイルの修正 **4**章

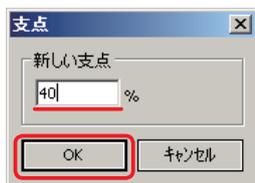
その他 **5**章

**6** 調整したいポイントを増やしたい場合、「編集」メニューの「支点の追加」をクリックします。



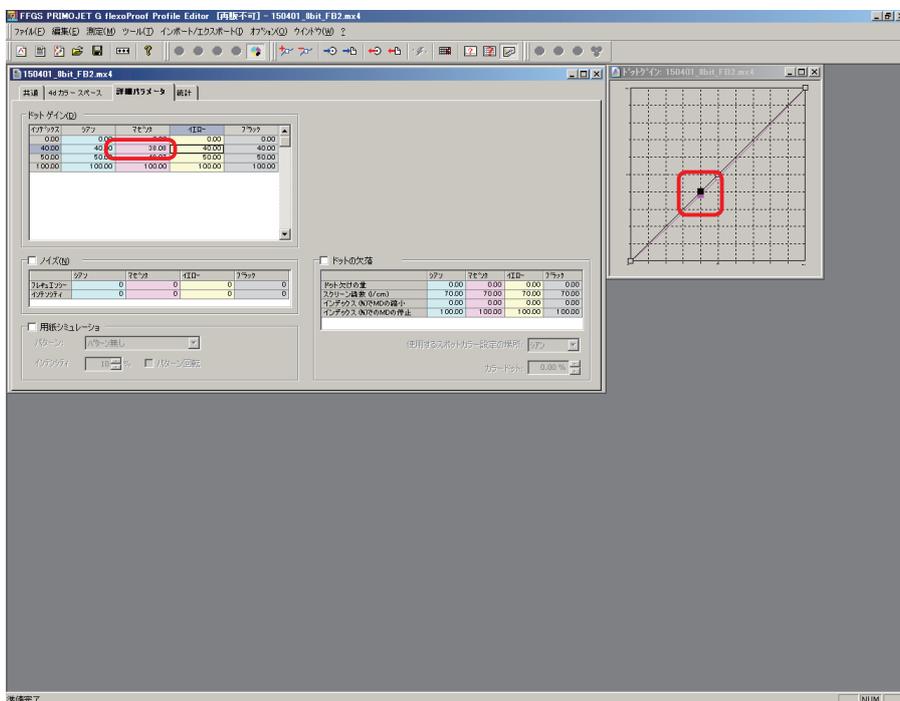
7

以下ウィンドウが表示されたら、調整したいポイントを入力し、「OK」をクリックします。



8

支点が追加されますので、同じように調整したい色のセルに直接数値を入力します。



1 事前準備

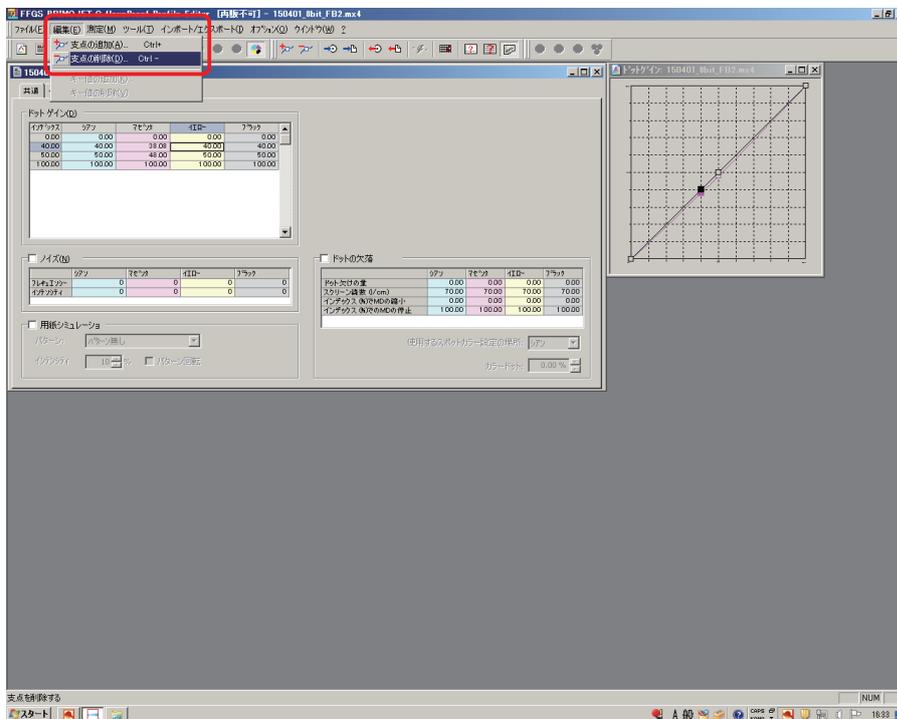
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

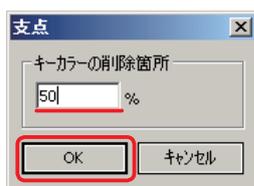
4 プロファイルの修正

5 その他

9 支点を消す場合、「編集」メニューの「支点の削除」をクリックします。



10 以下ウィンドウが表示されたら、消したいポイントを入力して「OK」をクリックします。



事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

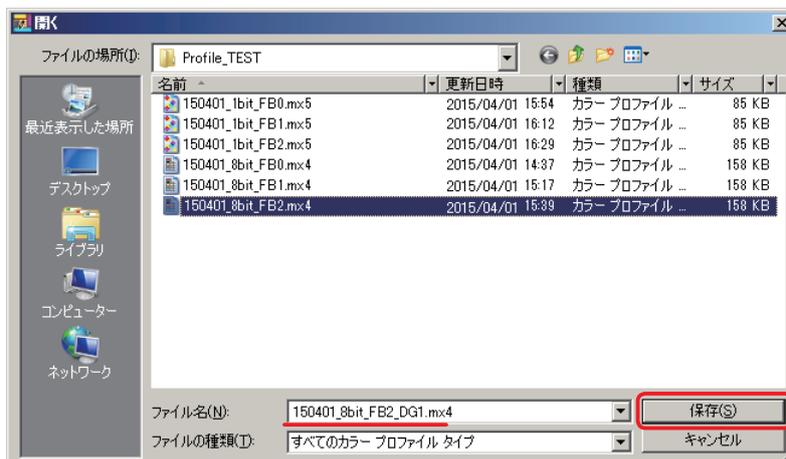
プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章



- 14** 調整したことが分かる名称を入力し、「保存」をクリックします。  
例) 121116\_8bit\_FB2\_DG1\_DG1.mx4 (DG = Dotgain/ ドットゲインの略)



- 15** 出力確認を行って下さい。出力結果を確認した上で更に調整を加えたい場合、**14**番のプロファイルを開いて追加調整し、別名保存して下さい。

例) 150401\_8bit\_FB2\_DG1\_DG2.mx4  
追番をつける

事前準備 **1**章

プロファイル  
の作成 **2**章

プロファイル  
の適用 **3**章

プロファイル  
の修正 **4**章

その他 **5**章

---

**MEMO**

4 章

2

## 部分調整をする

HOW TO



以下の手順に従って設定して下さい。

注意



下記手順は 1bit 用 mx5 の調整方法です (mx5 を 1bit と 8bit の両方で使用している場合も mx5 内で調整することが出来ます)。

➡ 8bit 用 mx4 の調整方法→ P128 をご参照下さい。

## 作業の流れ

STEP 1

プロファイルエディターで調整したい mx5 プロファイルを開く (P121 参照)

STEP 2

「ドットプルーフ」タブを選択 (P123 参照)

STEP 3

調整カラー値を入力・調整 (P124 参照)

STEP 4

名前を付けてプロファイルを別名保存 (P126 参照)

STEP 5

STEP 4 のプロファイルをジョブに適用して出力確認 (P127 参照)

事前準備

1 章

プロファイル  
の作成

2 章

プロファイル  
の適用

3 章

プロファイル  
の修正

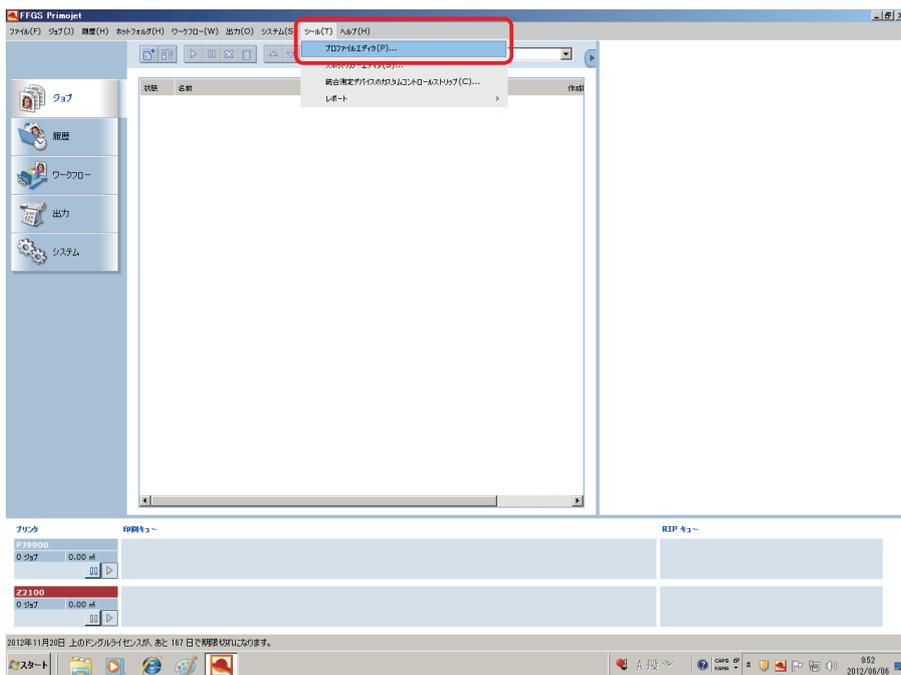
4 章

その他

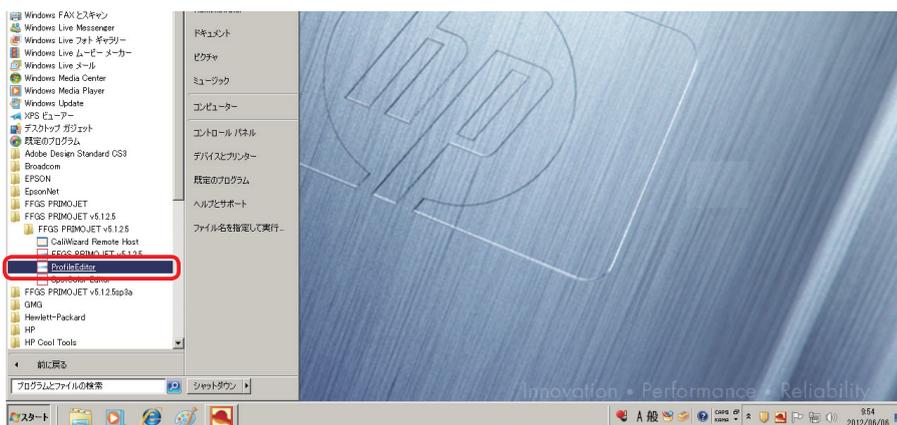
5 章

**STEP 1** プロファイルエディターで調整したいプロファイルを開く

**1** PRIMOJET-XGの「ツール」メニューから「プロファイルエディタ」をクリックします。



もしくは、Windowsの「スタート」メニューから「FFGS PRIMOJET v5.x.x.x」下の「ProfileEditor」をクリックします。



1 事前準備

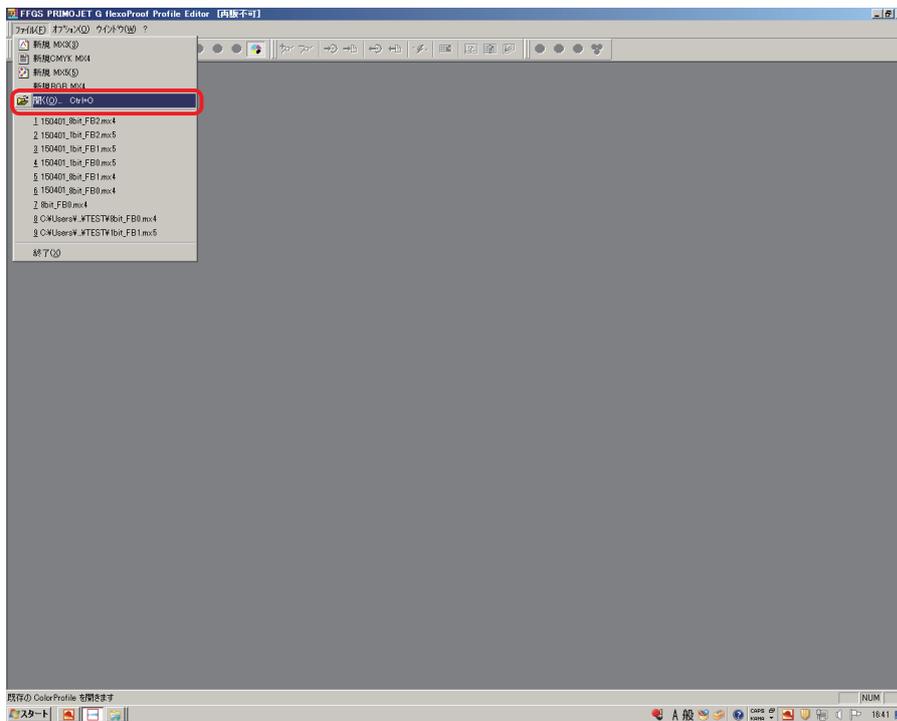
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

4 プロファイルの修正

5 その他

- 2 プロファイルエディタ (= FFGS PRIMOJET G flexProof Profile Editor) が起動したら、「ファイル」メニューから「開く」をクリックします。



事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

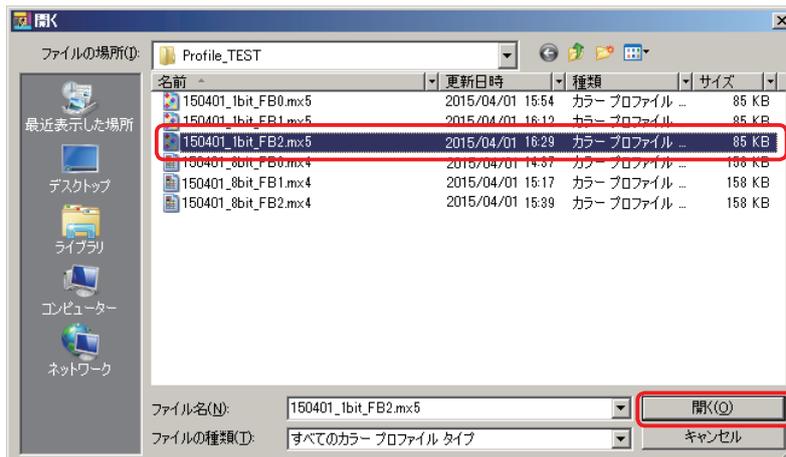
プロファイル  
の修正

4章

その他

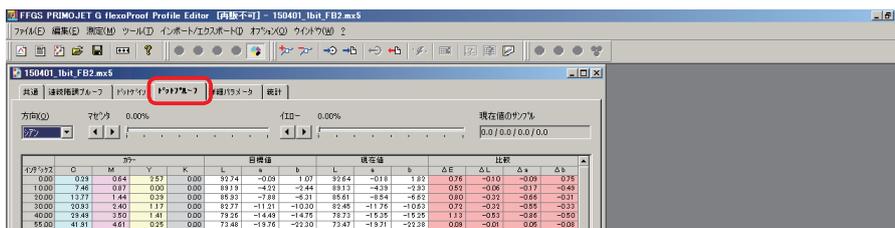
5章

- 3 調整したいプロファイル (\*.mx5) を選択し、「開く」をクリックします。



**STEP 2** 「ドットプルーフ」タブを選択

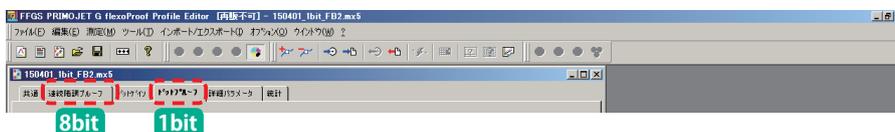
**4** プロファイルが開いたら、「ドットプルーフ」タブを選択します。



mx5 を 1bit と 8bit の両方で使用している場合

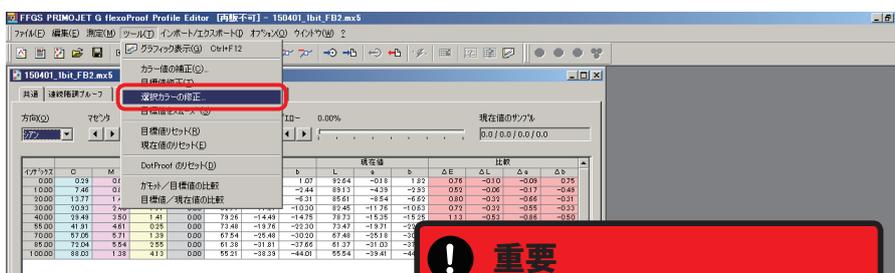
mx5 内でどちらも調整することが出来ます。

- ◆ 1bit プロファイルを調整したい場合 = 「ドットプルーフ」タブ
- ◆ 8bit プロファイルを調整したい場合 = 「連続階調プルーフ」タブ

**重要**

必ず調整したいタブが選択された状態で調整して下さい。誤って違うタブを選択すると意図する調整が行われませんのでご注意ください。

**5** 「ドットプルーフ」タブを選択した状態で「ツール」メニューから「選択カラーの修正」をクリックします。

**重要**

必ず「ドットプルーフ」タブが選択された状態で「ツール」メニューの「選択カラーの修正」をクリックして下さい。

1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

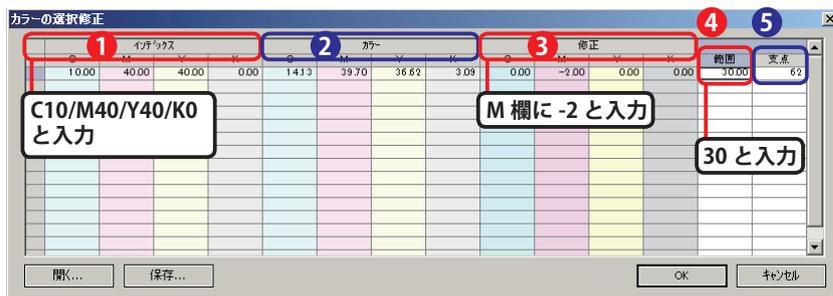
4章 プロファイルの修正

5章 その他

**STEP 3** 調整カラー値を入力・調整**6**

「カラーの選択修正」ウィンドウが表示されます。このウィンドウで部分調整します。

例：肌の赤みを下げたい



— 入力欄

— 自動表示欄（入力することは出来ません）

- ① 「インデックス」・・・修正したいカラー値（色）を入力
- ② 「カラー」・・・インデックスに対するプロファイル内のインク吐出量（自動表示）
- ③ 「修正」・・・インデックスのカラー値に対する調整数値を入力
- ④ 「範囲」・・・修正したいカラー値の前後何%に影響させるかを入力
- ⑤ 「支点」・・・影響を受けるプロファイル内の支点の数（自動表示）

**補足**

## ◆範囲：

仮にインデックス「M40」に対し範囲「30」の場合、「40」を中心に10%～70%まで影響を受けます。

## ◆「範囲」の目安：

「30～50」を初期値とし、画像への影響を見て必要であれば徐々に減らして下さい。ただし、あまり小さい数値に設定するとトーンジャンプが懸念されますのでご注意ください。

**注意**

「範囲」が「0」のまま「OK」をクリックすると以下のようなメッセージが表示されます。「0」は色の影響を受ける範囲（支点）が無いため調整不可という意味になりますので、「範囲」には必ず数値を入力して下さい。



「範囲」が「0」のままOKすると・・・

事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

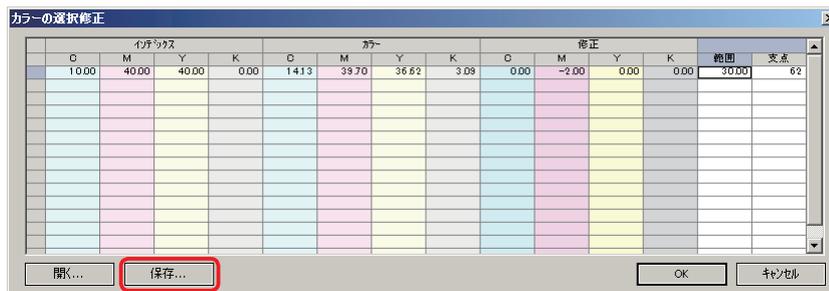
プロファイルの修正 4章

その他 5章

## 参考

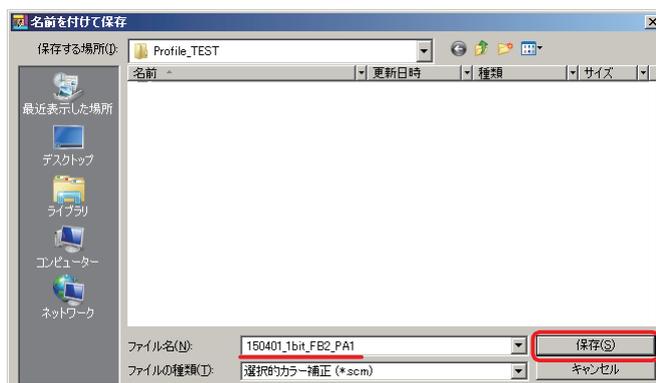


「カラーの選択修正」ウィンドウを一度閉じてしまうと、次に開いた際、前回の数値は残っていません。調整経緯を残しておきたい場合は「保存」をクリックすると情報ファイルを外部に書き出すことが可能です。

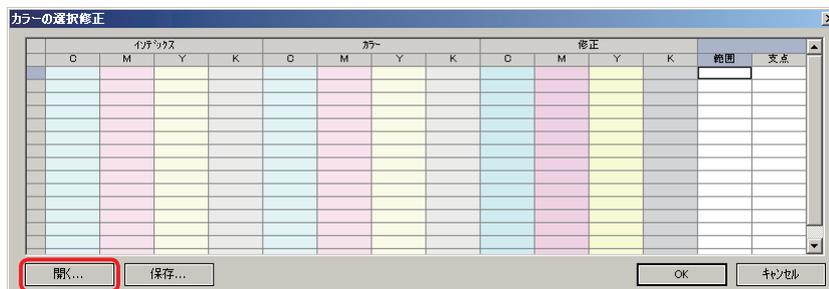


どのプロファイルに対する調整経緯ファイルが分かるよう、プロファイルと同じ名前をつけて「保存」をクリックします。

例) 150401\_1bit\_FB2\_PA1 (PA=Partial Adjustment/ 部分調整の略)



保存したファイルを開く際は「開く」をクリックし、保存したファイル (scm という拡張子がついたファイル) を選択すると調整経緯を呼び出すことができます。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

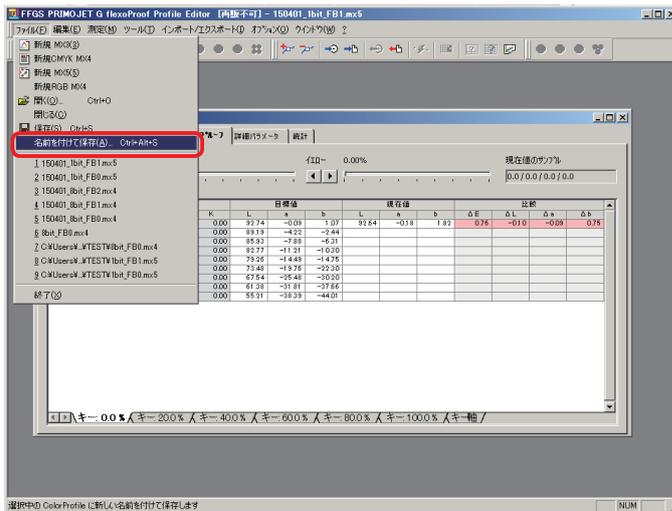
4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

**STEP 4** 名前を付けてプロファイルを別名保存

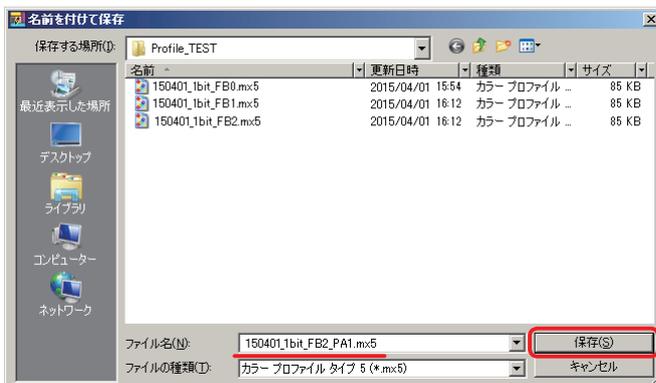
8

調整が終わったら「ファイル」メニューから「名前をつけて保存」をクリックします。



9

部分調整したことが分かるような名称を入力し、「保存」をクリックします。  
例) 150401\_1bit\_FB2\_PA1.mx5 (PA=Partial Adjustment/ 部分調整の略)



**重要**

調整経緯を保存した scm ファイルを活用し、複数回に渡って調整を行う場合、必ず調整前のプロファイル (何も調整していないプロファイル) を開いて下さい。これは、同じ調整が複数回かかってしまうことを防ぐためです。

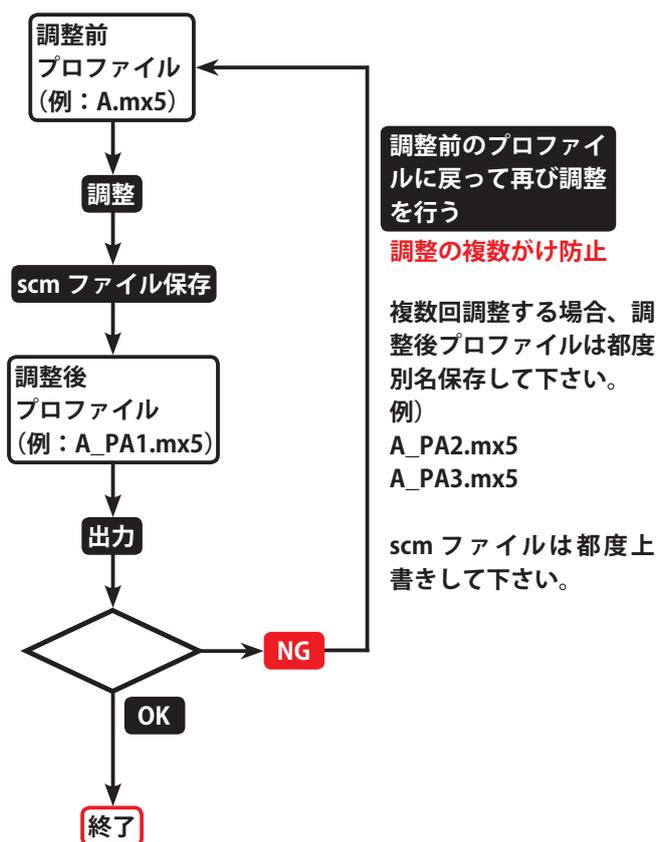
→ 次頁のチャート図をご参照下さい。

**STEP 5****STEP 4** のプロファイルをジョブに適用して出力確認**10** 出力確認を行って下さい。

プロファイルの適用方法は本書の3章「プロファイルの適用」をご参照下さい。

**scm ファイル使用時の注意点**

出力結果を確認した上で更に調整を加える場合、**9** 番のプロファイル（一度部分調整したプロファイル）に対し scm ファイルを開いて調整すると、二重に調整がかかってしまいます。必ず **3** 番のプロファイル（部分調整する前のプロファイル）に対し scm ファイルを開いて調整を続けて下さい。



1章 事前準備

2章 プロファイルの作成

3章 プロファイルの適用

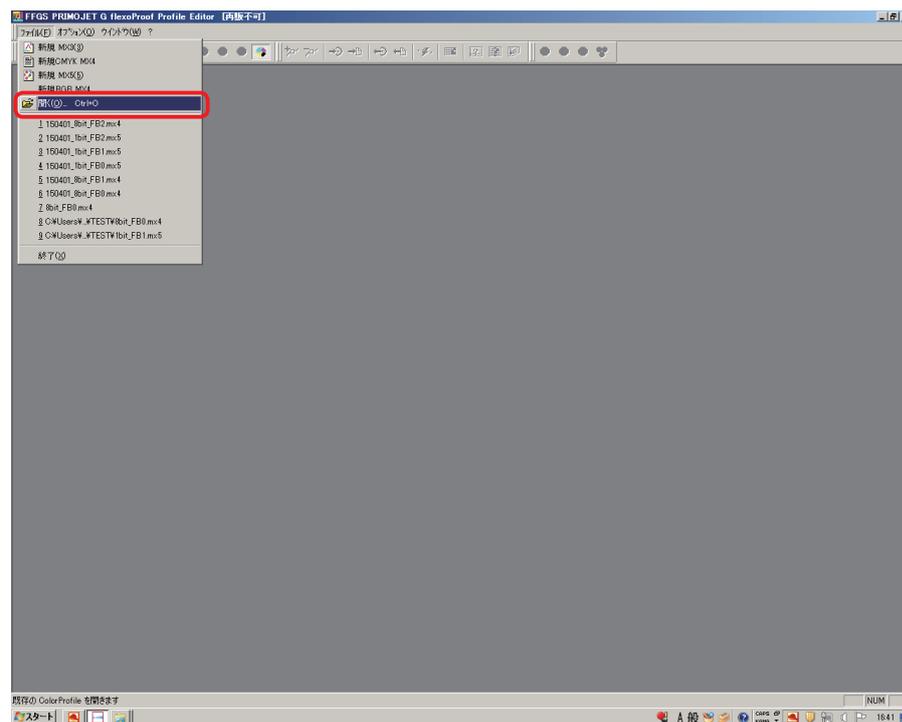
4章 プロファイルの修正

5章 その他

## 8bit プロファイル (mx4) のみを部分調整する場合

1

「ファイル」メニューから「開く」をクリックします。



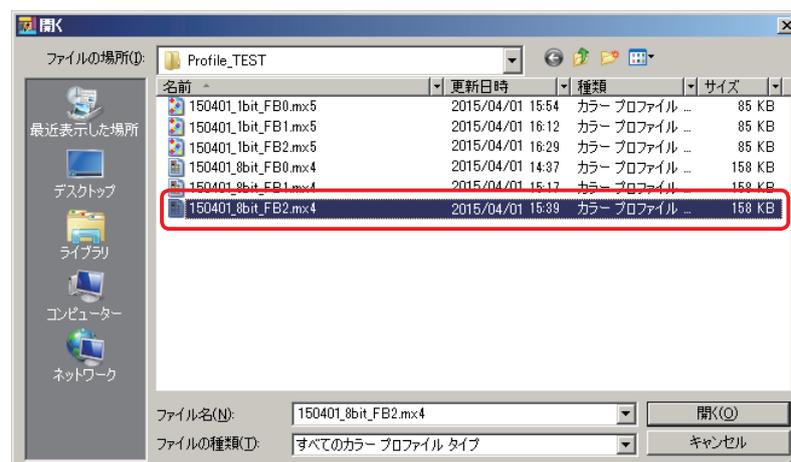
事前準備 1章

プロファイル  
の作成 2章プロファイル  
の適用 3章プロファイル  
の修正 4章

その他 5章

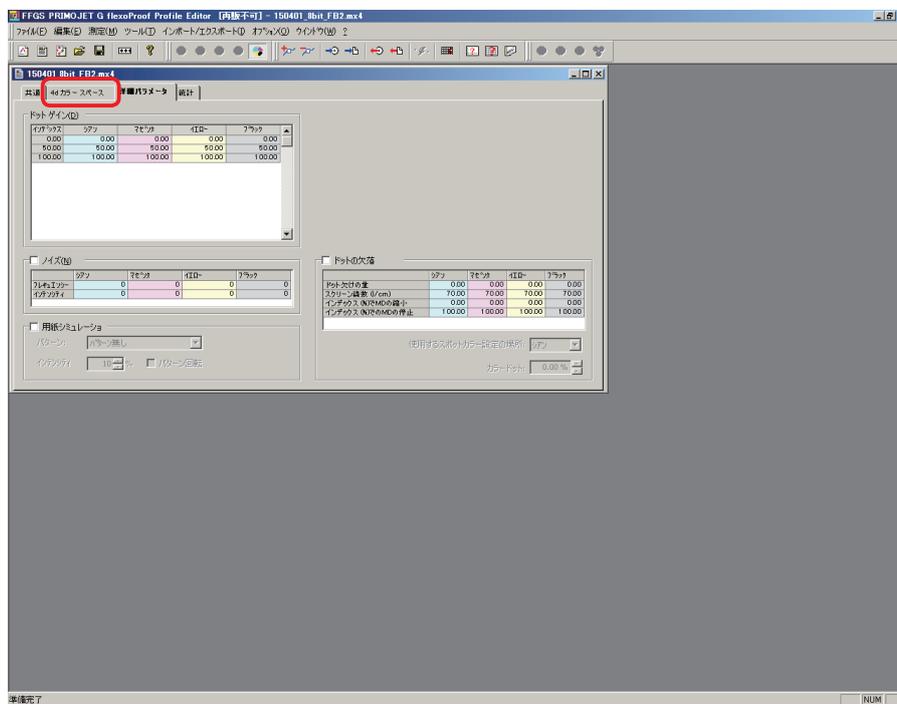
2

調整したいプロファイル (\*.mx4) を選択し、「開く」をクリックします。



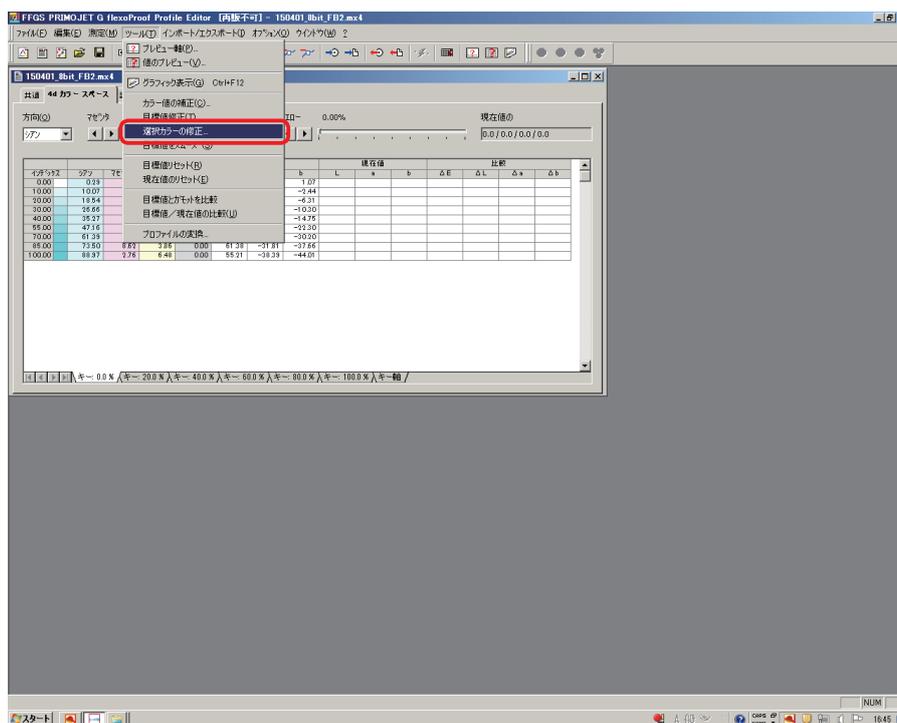
3

プロファイルが開いたら、「4d カラースペース」タブを選択します。



4

「4d カラースペース」タブが選択されている状態で、「ツール」メニューから「選択カラーの修正」をクリックします。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

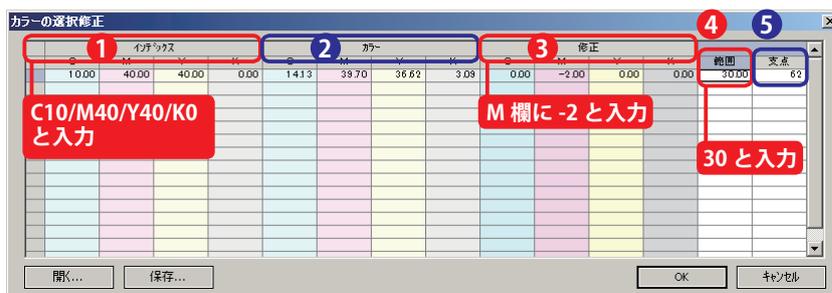
3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

5 「カラーの選択修正」ウィンドウが表示されます。このウィンドウで部分調整します。

例：肌の赤みを下げたい



6

- 入力欄
- 自動表示欄 (入力する必要はありません)

- ① 「インデックス」・・・修正したいカラー値（色）を入力
- ② 「カラー」・・・インデックスに対するプロファイル内のインク吐出量（自動表示）
- ③ 「修正」・・・インデックスのカラー値に対する調整数値
- ④ 「範囲」・・・修正したいカラー値の前後何%に影響させるか指定
- ⑤ 「支点」・・・影響を受けるプロファイル内の支点の数（自動表示）

#### 補足

- ◆範囲：
  - 仮にインデックス「M40」に対し範囲「30」の場合、「40」を中心に 10%～70%まで影響を受けます。
- ◆「範囲」の目安：
  - 「30～50」を初期値とし、画像への影響を見て必要であれば徐々に減らして下さい。ただし、あまり小さい数値に設定するとトーンジャンプが懸念されますのでご注意ください。

事前準備 1章

プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

注意



「範囲」が0の状態では調整しようとする以下のようなメッセージが表示されます。0は色の影響を受ける範囲（支点）が無いため調整不可という意味になりますので、「範囲」には必ず数値を入力して下さい。

インテリクラス				カラー				修正				範囲	支点
C	M	Y	K	C	M	Y	K	C	M	Y	K	範囲	支点
10.00	40.00	40.00	0.00	17.72	48.34	41.22	3.09	0.00	-2.00	0.00	0.00	0.00	0

「範囲」が「0」のままOKすると・・・



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

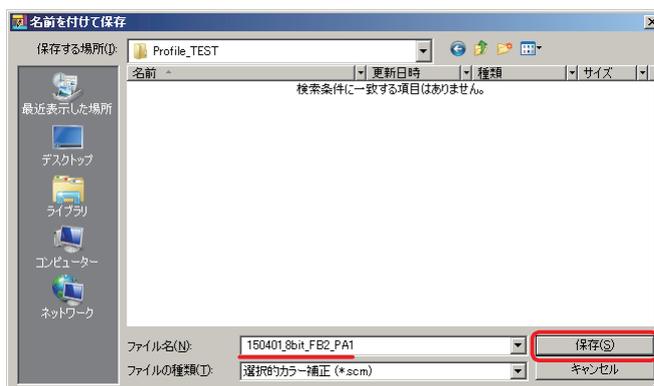
## 参考

「カラーの選択修正」ウィンドウを一度閉じてしまうと、次に開いた際、前回の数値は残りません。調整経緯を残しておきたい場合は「保存」をクリックすると情報ファイルを外部に書き出すことが可能です。

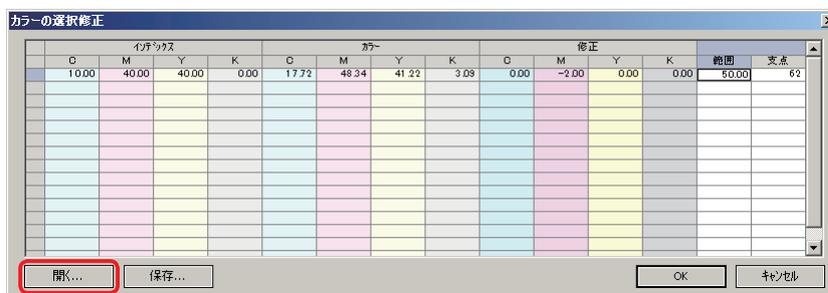


どのプロファイルに対する調整経緯ファイルが分かるよう、プロファイルと同じ名前をつけて「保存」をクリックします。

例) 150401\_8bit\_FB2\_PA1 (PA=Partial Adjustment/ 部分調整の略)



保存したファイルを開く際は「開く」をクリックし、保存したファイル (.scm という拡張子がついたファイル) を選択すると調整経緯を呼び出すことができます。



事前準備 1章

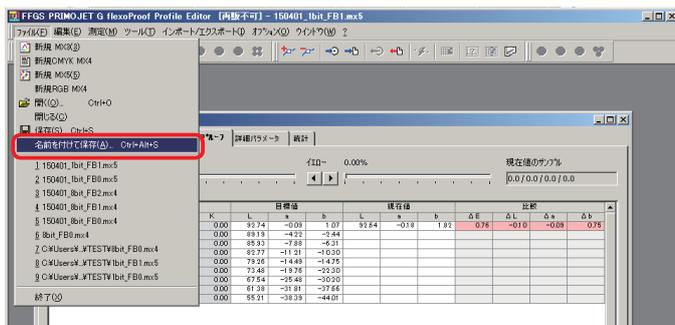
プロファイルの作成 2章

プロファイルの適用 3章

プロファイルの修正 4章

その他 5章

- 7** 「ファイル」メニューから「名前を付けて保存」をクリックします。  
例) 150401\_8bit\_FB2\_PA1.mx4 (PA=Partial Adjustment/ 部分調整の略)

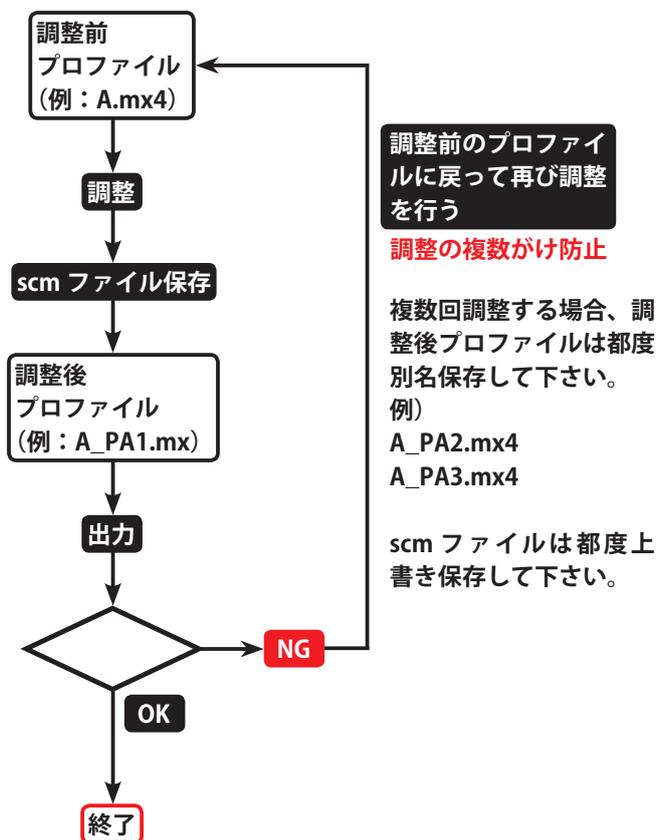


- 8** 出力確認を行って下さい。

➡ プロファイルの適用方法は本書の3章「プロファイルの適用」をご参照下さい。

#### scm ファイル使用時の注意点

出力結果を確認した上で更に調整を加えたい場合、**7** 番のプロファイル（一度部分調整したプロファイル）に対し scm ファイルを開いて調整すると、二重に調整がかかってしまいますので、必ず **2** 番のプロファイル（部分調整する前のプロファイル）に対し scm ファイルを開いて調整を続けて下さい。



1 章 事前準備

2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

---

**MEMO**

# 5 章

## その他

5-1 各測色器の動作について ...P136

5章

1

## 各測色器の動作について

HOW TO



測色器によって測色時の動作に若干違いがあります。以下の手順をご確認下さい。

DTP70

P137 ~

i1 iSis

P139 ~

事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

プロファイル  
の修正

4章

その他

5章

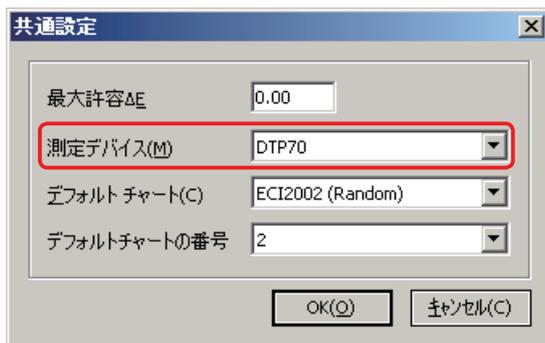
参考



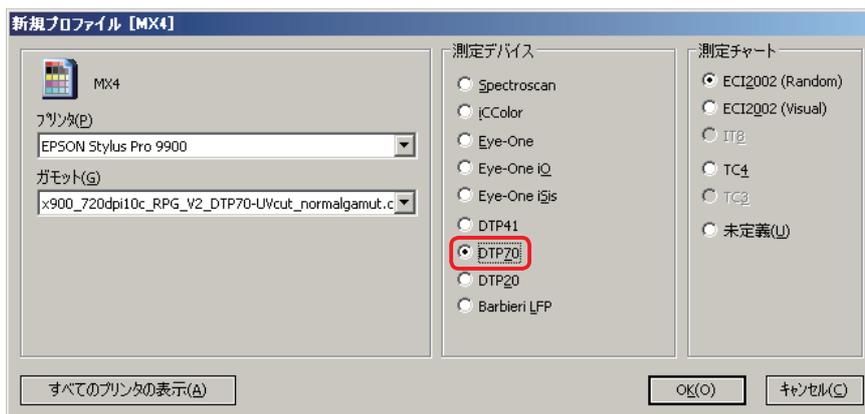
**i1i0 (もしくは i1i02)** をお使いの場合、本書手順通り操作して下さい。本書は i1i0 に即して説明しています。

## DTP70

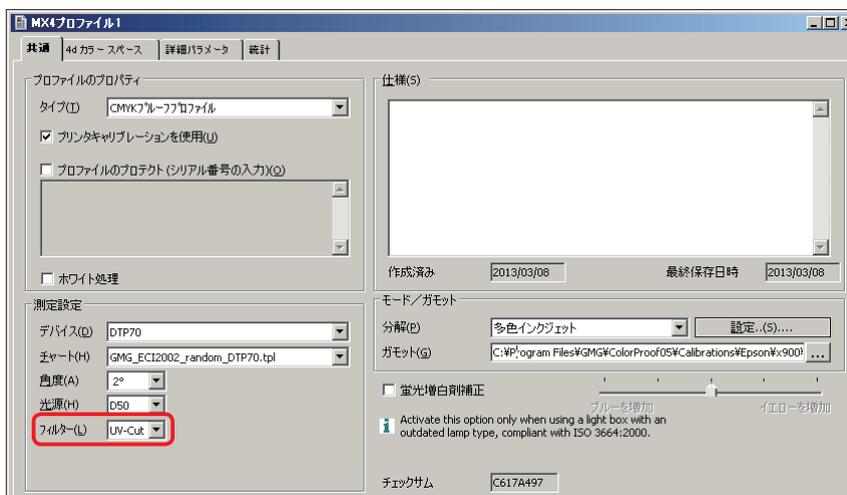
- 1 「共通設定」の「測定デバイス」は「DTP70」を選択します。



- 2 「新規プロファイル」の「測定デバイス」は「DTP70」を選択します。



- 3 「フィルター」から「UV-Cut」を選択します。



1 事前準備

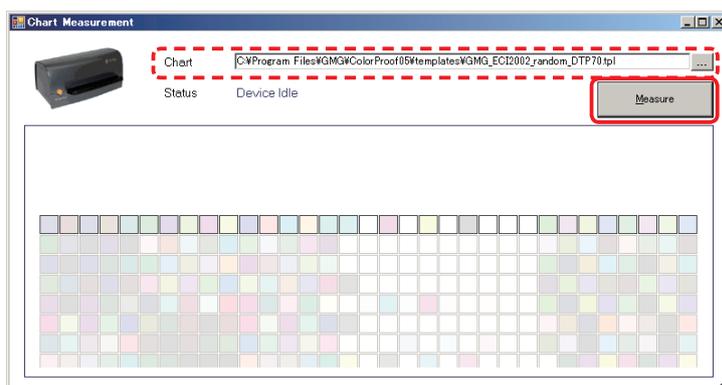
2 プロファイルの作成

3 プロファイルの適用

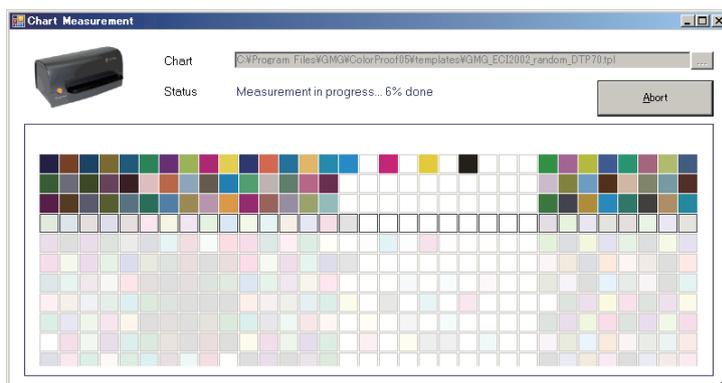
4 プロファイルの修正

5 その他

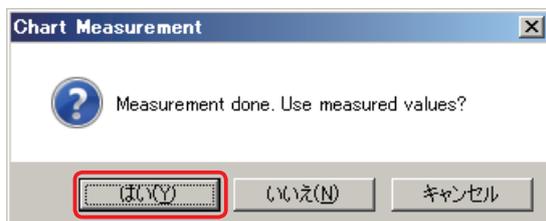
- 4** 測色ウィンドウが表示されたら「Measure」をクリックし、その後すぐチャートを所定の位置にセットします。  
※「Chart」に DTP70 のテンプレートファイルが選択されていることを確認。



- 5** チャートが搬送され、測色が始まります。



- 6** 測色が終わると以下のようなメッセージが出ますので、「はい」をクリックします。

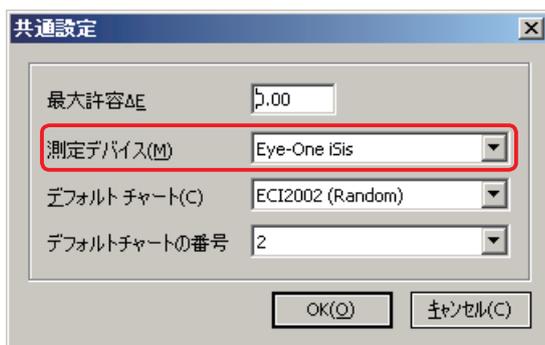


- 7** 自動的に測色ウィンドウが閉じ、プロフィールに測色値が反映されます。

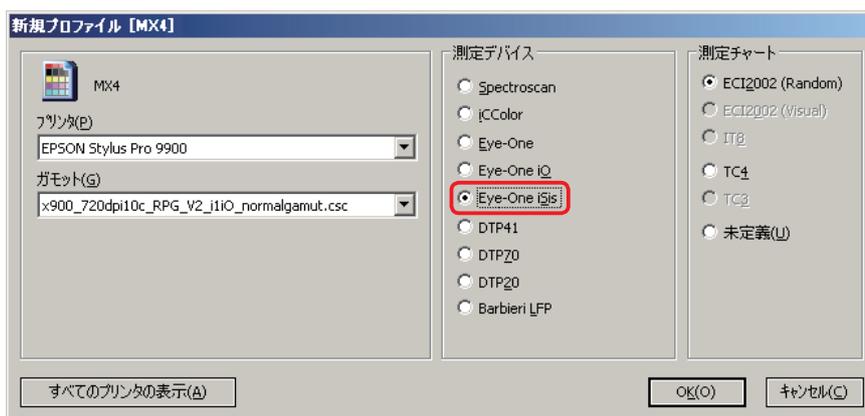
事前準備 **1**章プロフィール  
の作成 **2**章プロフィール  
の適用 **3**章プロフィール  
の修正 **4**章その他 **5**章

## i1 iSis

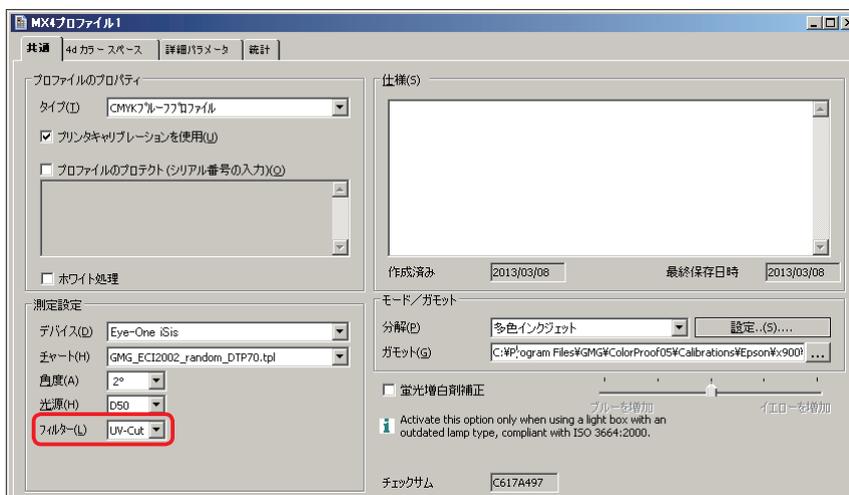
1 「共通設定」の「測定デバイス」は「Eye-One iSis」を選択します。



2 「新規プロファイル」の「測定デバイス」は「Eye-One iSis」を選択します。



3 「フィルター」から「UV-Cut」を選択します。



1 章 事前準備

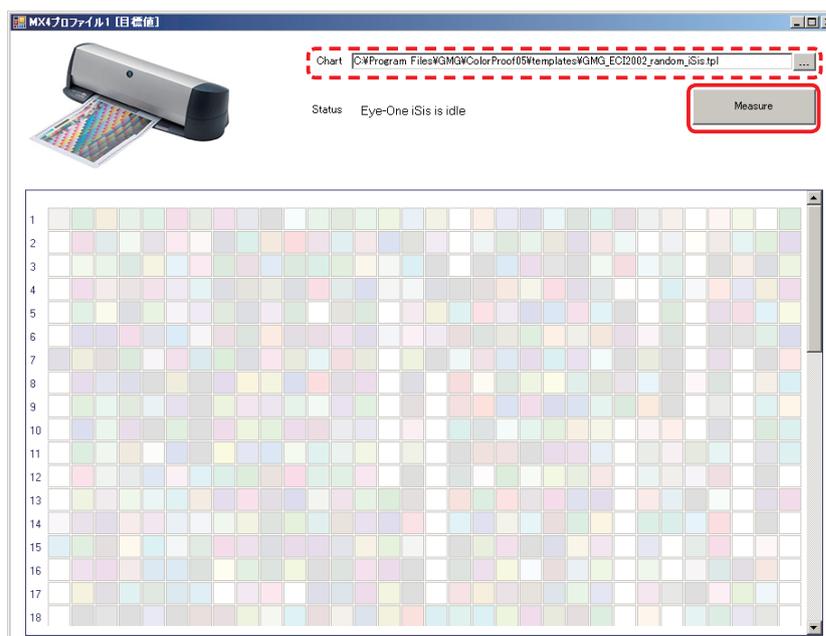
2 章 プロファイルの作成

3 章 プロファイルの適用

4 章 プロファイルの修正

5 章 その他

- 4** 測色ウィンドウが表示されたら「Measure」をクリックします。「Insert Chart」というメッセージが表示されたらチャートを所定の位置にセットします。  
※「Chart」には iSis のテンプレートファイルが選択されていることを確認。



事前準備

1章

プロファイル  
の作成

2章

プロファイル  
の適用

3章

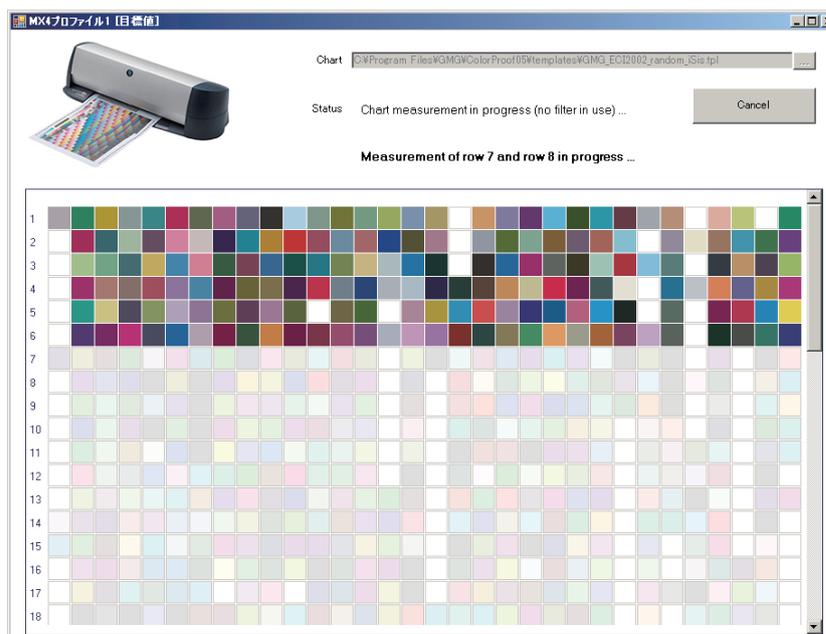
プロファイル  
の修正

4章

その他

5章

- 5** チャートが搬送され、測色が始まります。



- 6** 自動的に測色ウィンドウが閉じ、プロファイルに測色値が反映されます。

---

MEMO

---

**MEMO**

---

**MEMO**

---

**MEMO**

---

MEMO

---

**MEMO**

---

**MEMO**

---

**MEMO**

---

**MEMO**

「FFGS サポートタウン」のご案内

「FFGS サポートタウン」は、FFGS が提供する各種ソフトウェア製品の便利な機能、困ったときの解決策など、お仕事で役立つさまざまな活用情報をご案内するサポートサイトです。対象製品のサポートサービスにご契約頂くことで、本マニュアルを始め、技術情報の閲覧やアップデートのダウンロードなど、ユーザー様限定のコンテンツをご利用頂けます。  
URL : <https://www.ffgs-sup.jp/town/>

**PRIMOJET-XG プロファイルエディタ操作手順書**

2015 年 4 月版

発行 富士フイルムGSテクノ株式会社

- 無断転載・コピーを禁じます。
- 乱丁、落丁本はお取り替え致します。

**富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社**

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フイルム西麻布ビル

**富士フイルムGSテクノ株式会社**

〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-4-11 STビル辰巳別館